建築ト社會



大正六年九月十四日（郵便物認可特別号）
大正九年十月一日（第三種郵便物認可）

第三輯
第十号

大正九年十月一日
日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ入格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ貫徹シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特殊ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムトスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會内ニ於テクル其義行ニ付會外ニ於テ費ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニモ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚ス行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經タ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニモ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニモ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳ケ年トス

理事ノ改選ハ毎年數ト但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　主　計　一名

三　編　輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員及委員長ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ嘱託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、討論會、講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　建築ニ關スル研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　現想的建築ノ計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第十九條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ擔出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金六圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會員入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產價權債務及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產價權債務及毎年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

コルクタイル

最新の機械と製法を發明せる我社は品質優良
と價格低廉なる点に於て他社の追從を許さず

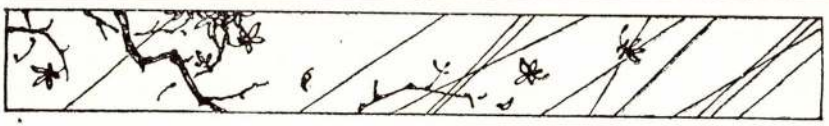
半額で提供す

他社製品と同等品ならば

床敷用
■コルク、タイル　■リノ、タイル　■下敷用コルク板
■コルク疊床　■絶緣用コルク　■其他一般

製造所
大阪府東成郡城東村鴫野
コルク工業合資會社
電話鯰江三四

一手販賣所
大阪市南區心齋橋筋二丁目
株式會社高島屋吳服店裝飾部
電話南三八二三裝飾部專用
自南三一至南三五



『建築と社會』第參輯第拾號目次

口繪
大紙倶樂部外觀（三色版）
同内部レセプションホールと集會室（寫眞版ノ一）
組立家屋外觀と平面圖（寫眞版ノ二）

〔卷頭〕
□住居供給制度の制法三主義＝歐洲居住法制の歴史的傾向 …… 一

〔論說〕
□建築技術家の社會に對する責務 …… 會員 工學博士 片岡安 …… 二
□火災保險と都市計畫 …… 神戸高等商業學校教授 法學博士 瀧谷善一 …… 七
□大局に照應する建築家 …… 内務省社會局長 池田宏 …… 一四
＝局部的技巧は建築家の未技也＝
□設計數量の指示に就て …… 會員 建築技師 小笠原鈅 …… 一七
□地震と家屋 …… 理學士 對馬吉三郎 …… 二〇
□國立土木建築研究所の創設を望む（二） …… 日本建築協會終身賛助員 山本辰五郎 …… 二六
□都市の藝術的生活 …… 本誌編輯擔任 江村郊邨 …… 三一

〔研究〕
□初めて組立家屋を取扱つて …… 建築技師 和田順顯 …… 三五

〔住宅〕
□居構百選（其十） …… 會員 葛野建築事務所主 工學士 葛野壯一郎 …… 三八



□新聞記者の見たる名士の邸宅(8)……讀賣新聞記者・梅谷孫吾・四一

〔庭園〕

□日本庭園考（七）……會員・農學士・大屋靈城・四七

〔都市〕

□將來の市加古市(5)……ウオルター・ディ・ムウデイ著・Z Y生譯・五三

〔談叢〕

□案外氣の利いた便利な組立家屋……東京松屋呉服店支配人・内藤彦一・六三

〔資料〕

□大阪市都市計畫參考資料（其七）

〔紹介〕

□大紙倶樂部建築工事概要……會員・工學士・波江悌夫・六八

〔漫錄〕

□太平洋を見るまで（一）……會員・日本エレベーター製造株式會社取締役・谷民藏・六九

□噫、文化の夢……七六

〔藻苑〕

□漫畫……七七

□小品……編輯部選……□和歌　安江不空選……□俳文　蘆田秋双……□俳句　蘆田秋双選……八〇

▲▲時報……九〇

▲▲會報……九四

附錄

□ベネチヤ市建築條例（下）……六頁

大阪暖房商會

大阪電氣商會

營業目課

房暖氣電。燥乾。生衛。風通。房暖

工事設計請負

販賣及製作フリト機昇降

販賣機械器材諸電氣

負請監督及設計工事電氣

販賣托委品所作製燈電阪大

工事代理

社會式株燈電阪大

社會式株氣電川治宇

社會式株氣電本日

社會式株氣電屋古名

本店

大阪市西區江戸堀

南通一丁目三七

電話 長五四四 佐土堀一 四六四

出張所

東京市京橋區西紺屋町五

京橋長三二〇六

名古屋市東區東本町二丁目

長三二六二



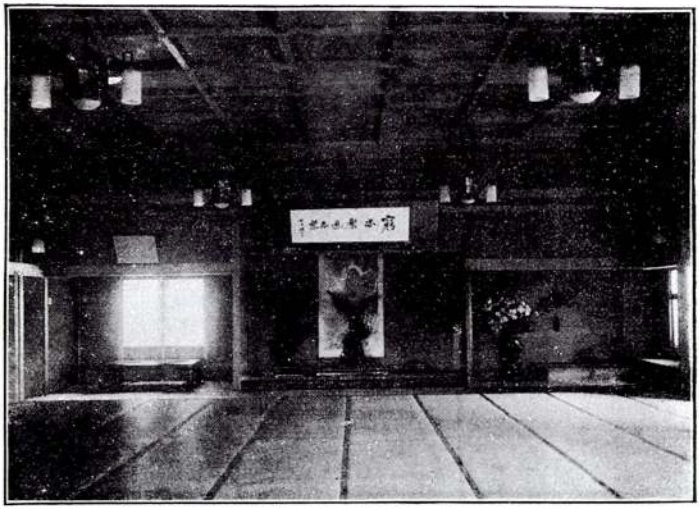


大紙倶樂部
（在大阪市南區宋吉橋通一丁目）

（設計及施工監督　渡邊建築事務所）

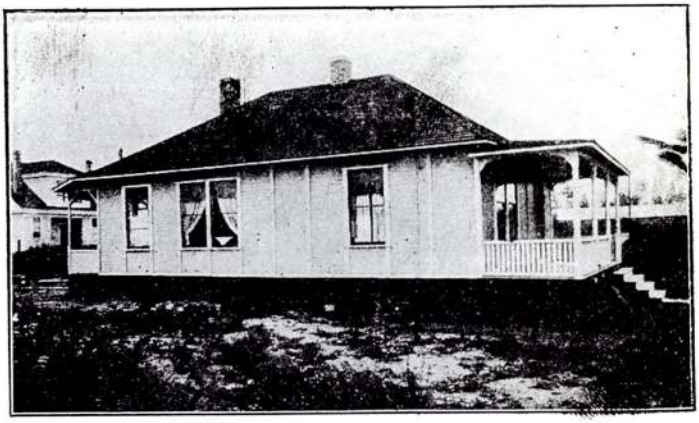


大紙倶樂部内
レセプションホール



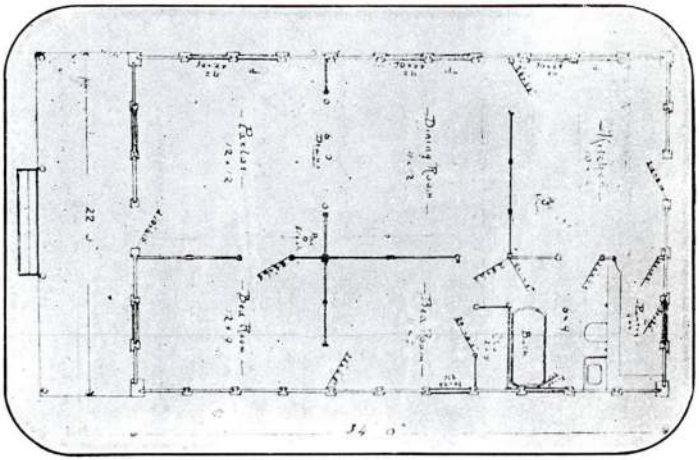
同集會室

組立家屋外観



初めて我國に輸入されたる組立家屋にして、相州鵠沼に於ける東京松屋呉服店支配人内藤彦一氏の別墅也

同上平面圖



詳細は本誌第三五頁和田技師及第三六頁内藤氏の談參照

◉會員の消息

當協會の會員(名譽賛助員、會員、普通賛助員、終身賛助員、特別賛助員)各位に關する御消息は本誌上にて成るべく精細に報告致度候間乍御手數御轉住、御轉職、慶吊に關する事項、其他御身上に關する萬般の事項を勿論御差支へなき限りに於て其都度御通知を得度特に御願申上置候

大正九年十月一日

日本建築協會主記

事務所設備費其他の寄附收納 (第三回)

當協會新事務所設置に就て其設備費寄附續々御申込相受け候處其內既に御拂込被下候分左に揭載して篤く謝意相表し候と共に

更めて領收の証と致候

大正九年十月一日

土村壽吉殿　金五圓
花田孝二郎殿　金拾圓
谷本多喜治殿　金拾圓
山添繁藏殿　金拾圓
須川廉太郎殿　金拾圓
光安梶之助殿　金拾圓
井上國助殿　金貳拾圓
坂井米吉殿　金拾圓
清水榮二殿　金拾圓
原科準平殿　金拾圓
西原衛生工業所殿　金拾圓

累計二千百八拾八圓外に電話使用權壹箇

外に

松村雄吉殿　金壹千圓（無條件にて寄附）

日本建築協會主計

（自大正九年八月二十五日
至大正九年九月卅日正午）

山本辰次郎殿　金拾圓
須賀豊次郎殿
須賀藤五郎殿　金百圓
池谷仙太郎殿　金拾圓
佐藤彰美殿　金拾圓
久保田繁亮殿　金拾圓
吉田直三郎殿　金拾圓
岡本新次郎殿　金拾圓
谷民藏殿　金拾圓
坪井誠一殿　金拾圓
鹿村萬吉殿　金五圓
機械員及株式會社
大阪營業所殿　金拾圓

豫告

第三回秋季大會

本協會ハ來ル天長佳節（十月三十一日―日曜日）ヲ期シ第三回秋季大會ヲ奈良ノ舊都ニ擧行セントス、鐵路法隆寺ニ下車、千歲ノ古建築物ヲ訪ヒ、順路奈良時代ノ遺跡ヲ偲ビ、斯道ノ大家ニ囑シテ趣味アル臨地講演ヲ聽キ、行ク行ク舊都ノ秋色ヲ探リ、奈良ホテルニ於テ大晩餐會ヲ開催セントス、本會々員並ビニ各贊助員諸氏ノ出動アランコトヲ切望ス

追而詳細ノ事項ハ確定次第至急御通告致スベシ

大正九年十月一日

日本建築協會

特別會告

第一回講習會開催

本協會ハ既ニ本會ノ事業トシテ數多ノ施設ヲ斷行シ、着々堅實ナル發展ヲ遂ゲ來レリ、茲ニ方今ノ時務ニ鑑ミ、建築教育ノ急要ナルヲ察シ、今回第一回講習會ヲ開催シテ建築ニ趣味ヲ有セラル、諸君ノ修養ニ資セントス、幸ニ本會ノ主旨ニ熟心ナル贊同ヲ得ンコトヲ望ム。

聽講希望者ハ左記次第書及聽講規程通覽ノ上十月二十日迄ニ本協會事務所宛申込ミアリタシ

會場ノ設備ニ限リアルヲ以テ申込者滿員ノ際ハ遺憾ナガラ謝絕スルコトアルベシ

大正九年十月一日

日本建築協會

第一回講習會次第書

一　會期　自大正九年十一月一日　至同十一月二十日（二十日間）――自午後六時　至午後九時（三時間）

二　會場　大阪市東區今橋五丁目愛日小學校校堂

三　課目及講師

甲（六時間）
- 古代埃及ノ文化ト建築（西洋建築史）　工學士　佐藤四郎君
- 大倭時代ノ文化ト建築（日本建築史）　工學士　置塩章君
- 住宅ニ就テ　工學士　葛野壯一郎君

乙（六時間）
- 鐵骨構造法　工學士　本多二郎君
- 鐵筋コンクリート構造法　工學士　增田清君
- 鐵筋コンクリート施工法　工學士　波江悌夫君

（備考）　前記講師課目及會場ニ支障起リタル場合ハ變更スルコトアルベシ

第一回講習會聽講規程

(一)聽講者ハ次第書記載ノ中部類ヲ撰擇スルコトヲ得、但兩部トモ併聽スルヿヲ得

(二)聽講申込書ハ本會事務所ニ之ヲ備フ、申込ノ際ハ各部類ヲ記入シ本會會員及賛助員ハ其旨特記スルヲ要ス

(三)聽講者ハ左記ノ規定ニ依ル聽講料ヲ納入スルヲ要ス

類別	本會會員賛助員聽講料	外來聽講者聽講料
一部聽講	五圓	十圓
二部併聽	八圓	十六圓

講義用印刷物ハ無代配布ス

(四)聽講料ハ拾月二十五日迄ニ本會ニ拂込ヲナスヘシ
但聽講料ハ拂戻ヲナサズ聽講料納付者ニハ聽講券ヲ交付シ領收證ニ代フ

(五)講習會出席者ハ聽講券ヲ携帶スルヲ要ス
聽講券ハ他人ニ之ヲ貸與スヘカラズ

(六)聽講完了者ニハ請求ニ依リ聽講修了證ヲ交付ス

追記

(一)講習會完了後本會ハ講習錄ヲ編輯シ廣ク希望者ノ求メニ應ゼントス

(二)講習錄ハ聽講者ニ限リ實費交付スルヿアルヘシ

(三)講習錄ハ本會々員並ニ賛助員ノ希望ニ應ジ配布ノ便ヲ計ラントス

日本建築協會第一回講習會時間割

十一月

	曜日	六時——七時半	七時半——九時
一日	月	葛本	佐増
二日	火	野多	置増
三日	水	葛本	佐増
四日	木	葛本	置佐
五日	金	野多	置本
六日	土	葛本	波置
七日	日	野多	置増
八日	月	藤田	佐本
九日	火	藤江	佐本
十日	水	藤江	波本
十一日	木	藤江	波本
十二日	金	藤田	佐本
十三日	土	藤田	塩増
十四日	日	藤田	塩増
十五日	月	塩田	塩増
十六日	火	塩田	波増
十七日	水	塩江	波増
十八日	木	塩江	波本
十九日	金	塩多	波本
二十日	土	藤多	江多

(備考)本表ハ講師ノ都合ニヨリ變更スル事アルヘシ



住居供給制度の制法三主義
——歐洲居住法制の歷史的傾向

泰西都市の住居供給事業に關する國家の法制は、國に依り其主義を異にせり。英國の國家勸奬主義は、都市團體に向つて　不健康なる住居を收用改築するの特權を與ふるに依て始まれり。佛國の國家保護主義は、庶民家屋と建築を目的とする法人の事業に對し、特に融資及免稅を爲すことに就て特別の恩典を制定せり。獨國は、英佛に於けるが如く國家關與の制を採らずして、却つて、自治委任の方針を擇びたる點に於て、國家勸奬主義又國家保護主義二つながら之を缺ぎたるの觀あり。然るに、獨國に於ては、自治任意の行政として、都市自から公費を以て低廉健全なる家屋を建築し、或は公立の貯蓄機關より低利資金を融通し、之等の事業を助くるを以て常例と爲す、之を『自治保護主義の家屋供給制度』と謂ふことを得べし。要するに、將來に於ける都市の家屋供給制度に就ては、以上述べたる特別收用制度、特別融資制度並に特別免稅制度を折衷し、又其長所を採用したる一種の保護制度が新に現出すべきことは、法制上の沿革より之を推測することを得べし。

——故井上博士——



〔論　說〕

建築技術家の社會に對する責務

會員　工學博士　片岡安

〔一〕

建築術は古來之を藝術として取扱つて來たのである、而して現在に於ても遠き將來までも亦藝術として之を取扱ふべきものであることは誰しも異論のなきところである。けれども、之を實現する順序と、社會の文化と並行して其先驅となりつゝ進展する場合を考ふる時は、唯之を藝術としてのみ取扱ふべきものでないとは明白である。即ち建築術は一の藝術である半面に社會の實際的要求を充すべき科學的技能であつて、其兩面が最も深く相錯乂して一團の建築物を形成するのである。更に之を言ひ換ふれば建築術は科學的智識を基礎としたる複雜なる綜合的技術であつて、其表現の精神に於て藝術の支配を受くるものであると言つてよろしいのである。故に之を取扱ふ上に於て藝術的にのみ偏して建築術の全豹を

理解し得たりとしたり、或は科學的實用的に見てそれを建築術の全体なりと考へる譯にゆかないのである。建築非藝術論が論議されたり、建築が樣式に依つてのみ生きる如く高唱する者があつたりするのは孰れも一面の眞理に捉はれて他面あるを識らざるか、或は他面を輕視するから生ずる處の偏頗な見方であるは言ふまでもない。

建築技術家は斯の意味に於て藝術家であつて又同時に技術家であらねばならぬのである。併し建築學者にあつては藝術家であり得るし或は技術家でもあり得るのであり、或は又藝術家で同時に技術家であり得るのである。而して建築技術家が一般の技術家と異る點は、其半面に藝術家としての修養練磨を要することであつて、同時に社會の文化と並行して、其の進路に先驅をなすことである。素より他の技術に於ても、其實現により大に利用厚生の途を拓き、產業の促進を召徠し、其結果人生の幸福を增進し社會文化の進運に貢獻すべきものであるは勿論なれども、建築術にありては其關する方面實に廣汎にして、他の各種の技術がそれ〳〵專門的に一方面なるに引きかへ、社會文化のあらゆる方面に密接なる關係を有し、殊に生活の實際に觸るゝことの多大なるは他の技術と大に趣を異にする點である。

〔二〕

建築術の取扱ふべき社會的對象は、單に建築の構成に過ぎざるが如く見ゆれども、少しく之を實際的に見る時は、先づ吾人生活の根據たる住宅を始め、官公衙の諸建築より一般の經濟活動の營業所に迄び又娛樂慰安の舞臺たる劇場、音樂堂、各種の店舖や、旅館、病院、其他宗教建築は素より、各種の紀念的建設物等に至るまで何れも其外觀と內容及其實質の如何によりて其利用上、吾人の文化生活が或は高

く或は低く支配さるゝものであることを知らねばならぬ。建築學を講ずる者は、建築が其土他の地理的事情に支配され、其國民の文化程度即ち人情、風俗、文敎等の爲めに其形態内容を異にするものなるを說くのは、過去の建築術を冷靜に批評した消極的態度の言葉に過ぎないのであつて、之を現在及將來に亘りて現代の文化生活向上と如何に結び付けねばならぬかと言ふ動的積極的態度の見方と言ふことは出來ないのである。

建築術の表現が藝術に支配され、その時、その時代の人の文化程度を具体的に最もよく最も高く實現するものが建築術であることは一般の認知するところであるから、それは此處には論ぜぬとして、さて其動的積極的態度によりて建築術が運用さるゝ現代の社會的現象に就て少しく述べて見たい、それが聽て建築技術家の社會に對する責務に關係を生ずるのである。

〔三〕

建築術は、如何なる時代に於ても其時代の把權者若しくは主要階級の者の盛んに利用したものであつた、けれども其程度は到底現代の如き社會各般に亘りて廣く深く且つ適切のものではなかつたのである而して斯く遷り變りたる原因は現代文化の趨勢之を然らしめると言ふを至當とする。其實際的の原因は之を詳述するの煩を避けるとし、其の大体を約記すれば、其一は商工業の著しき發達に伴ふ痛切なる科學應用の要求であり、其二は民衆生活の向上發展に必要なる建築内容改善の機運であり、其三は交通の發達に基因する動的生活の殷盛なるにある。而してそれ等を内容的に見れば、構造學の進歩と其施工技術の著しき發達、製造工業の發展に伴ふ材料の改善、衛生生理學と衛生工學の著しき進歩等は言はずも

がな、あらゆる機械的、電氣的、及化學的新しき設備等は凡て上述の建築術の積極的利用を促進せしめ來つたのである。

建築技術家がその間に處して如何なる態度を持すべきやは言はずして明かである。即ち斯かる社會の痛切なる要求と科學應用の旺盛なる時運に際會して、單に藝術的態度を以て之に臨み、悠々自適自からの主觀的意匠慾を滿足せしむるのみでは、到底社會に對する責務を全ふする所以ではない。むしろ進んで其要求を可能ならしめ、步一步彼等を向上指導するを以て其天職と心得ねばならぬのである。之を例示すれば、最近のデパートメント・ストアの如き、大旅館の如き、或は停車場の如き、更に進んで公營住宅の建設より、都市計畫の促進とそれに伴ふ都市建築の改造の如き、其他それ等の內容を充實せしむべきあらゆる設備に關する事項は、一として建築技術家の努力に俟たざるはないのである。若し建築技術家は一個の上品なる藝術家なりと成り澄まして、社會の進步と其要求に、後れながら引きづられ行くような態度では、異竟社會に對する責務を空しふするものであると言ふを妨げないのである。

〔四〕

現代の建築技術家は、其社會に對する責務の重大にして困難なるに鑑み、互に相團結して其長を揮ひ短を斥け、其重大なる責務を全ふすべく努力せねばならぬのである。各國に於ける建築界の學會及協會は何れもその目的を以て設立されて居るのである。けれども其中の幾何がよく其目的を達成して居るかは疑問である。我國に於ても、古くより建築學會の強固なる團体ありて、斯道の爲に又社會の爲に最善の努力を盡しつゝあり、最近には我協會の設立されて、其方面の努力をなしつゝあるは、大に多とせね

ばならぬのであるが、其活動力の比較的微弱なるは否むべからざる事實である。之れ恐らく其會員中未だ建築技術家の社會に對する責務を深く自覺せざる者の幾何かゝ存在するからではなからふかと想はれる。

建築技術家は、其團体的努力は、素より個人的にも其社會的責務を深く自覺して、其犧牲的精神を發揮せねばならぬのである。最近の The American Architect 誌に此等の事情を痛切に論じた論文を發見するのは、或は米國あたりにも自覺なき建築技術家の多數を見るの證左とも想はれる。

エバーサール博士 Dr. Ebersoll は華盛頓に於ける American Institute of Architects の最近の會合に際し建築技術家の責務を左の如くに述べて居る。

（第一）社會奉仕の義務（第二）個人注文主に對する責務（第三）建築界の團体に對する努力（第四）努力主義建築家の保護、

其他最近北米合衆國に於ける建築技術家の賢明なる動的積極的態度に對する歐洲建築家の誤解及批難は漸次解け來り、藝術的訓練と實際的社會的實務とは少しも扞格することなく、兩々相俟つて益々深く適切に社會奉仕の目的を達し、現代文化生活の先驅をなすものであることが高唱さるゝに至つたことは、吾人の最も深き注意を要する點である。從來建築技術家は一般段にその識務を單に個人注文主又は所屬官廳に對する建築技術上の努力の如くに了解して來たようであるけれども、そは唯其業務の本体であるに過ぎないのである。其社會的責務は更により大なる、より痛切なるものがあることを忘れてはならぬ。而して其目的を達するには社會文化の滔々たる進運に先んずべきあらゆる努力を要するのであるから、對社會の理解を中心とし、同志相倚りて其内容的研究を怠らず、以て其業務本体の進展を圖り、社會共同の福利增進に貢獻せねばならぬのである。

火災保險と都市計畫

神戸高等商業學校敎授　瀧谷善一

火災保險は火災に因る損害を多數の者が分擔して罹災者の損害を塡補せんとする制度である。而して此保險は或は相互會社により、或は國家其他の公共團體に依り、或は吾國に於けるが如く、保險會社により行はるゝが、何れの場合でも、火災の損害は結局多數の被保險者が分擔するものである。即ち火災の損害多ければ被保險者は結局高い保險料を納めねばならず、此に反し、火災の損害少ければ安い保險料を以て保險を受け得るのである。尤も之を一時的に觀察すれば、保險會社が火災保險を營む場合の如きは、火災の損害多ければ保險會社が損をするものであつて、其の損は直に被保險者に割當てられるものではない。然し保險會社も營利事業である以上、何時何時までも損を續くる譯にはゆかぬ。早晩保險料を高くして其損失を被保險者に移さねばならぬ。又火災の損害少き時は保險會社は直に其時の被保險者の保險料を安くすることは無いにしても、此く火災の損害僅少にして保險會社の利益多ければ、火災保險業を營む者が他に生じ、競爭に依て結局保險料を安くするに至るであらう。されば吾人が營利會社と保險契約をする場合にも保險料は結局火災の損害の大小に依て高低するものである。然らば保險業者は火災の損害の大小に拘らず、結局相當なる事業收益を收むる程度の保險料を被保險者より收むることを得るものとせば、火災の損害の大小は保險會社に何等利害關係なきやと云ふに、決して然うではない。非常に利害關係を有するものである。先づ第一に保險料高ければ保險に加入する者少くなり、保險會社は多くの保險料を收むることが出來ない。又多くの被保險物を集めて危險の平均を計ることが出來ない。それでは保險業の發達を來

すことを得ない。第二に保險料の高きことは普通火災の危險大なることを示すものである。然るに火災保險には延燒と云ふ大なる危險があつて、一建物の危險の多きことは其建物の火災に罹る機會の大なる事を示すのみでなく、他の建物に延燒することに因て大損害を惹起す機會を大ならしむるものである。然るに此延燒と云ふことが保險會社の營業狀態を左右する位のものであるから、保險會社は何れの建物と雖も危險の大なることを欲すべきではない。而して保險料の高きことは危險の大なることを示すものであるから保險會社は寧ろ危險少くして保險料の安いことを欲するのである又第三に火災保險にては、其引受けた保險金額の一部又は時としては大部分を再保險に出すことが營業の安全上極めて必要なことであるが、此再保險は色々の關係上外國會社に引受けて貰はねばならぬことが多い。然るに被保險物の危險大なる時は外國會社は再保險を引受けざるか、又は例へ引受くるも再保險料其他の條件は非常に我國會社に不利益となり、其結果は內國會社の活動を非常に制限することゝなる。

此の如き次第なるを以て、保險會社は單に自己の利益といふ立場より云ふも、危險の改良―一建物の危險の改良は言ふに及ばず一都市又は一地方の危險の改良―に非常に利害關係を有するものである。保險料安くとも其割合に危險の少い物を保險に取る方が保險料高く從て火災危險の大なる物を保險するよりも有利なりとは歐米の保險業者の多く一致する意見である。

そこで火災保險のよく發達したる外國に於ては保險會社は被保險物の火災危險の改良につき非常に注意し且つ努力しつゝある。例へば保險會社は或は消防隊の維持改良の爲め資金を投じ、或は建築條例、爆發物發火物の製造、貯藏、運搬に關する取締法、活動寫眞館、劇場其他火災危險の大なる建築物の建築、設備、保存に關する取締法等の準則を制定し、又は在來存在せる法律の缺點を指摘して其改良に資し、或は消火器、自働消火設備自働報火器、防火扉等の標準を示す等火災の豫防又は消防に關する設備の改良に盡力すること少く

はない。殊に米國の如く政府が此方面に意を注ぐこと少き國に於ては火災保險業者が聯合して上記の方法に依り一建物又は一都市の火災危險を減少せんとする努力誠に目覺しいものがある。

保險會社の火災豫防及び消防運動は單に上記の方面にのみ止らず、其營業上にも著しく現はれ居る、例へば保險會社は聯合して其の認めたる建築條例、危險物及び危險建物取締法、消火設備、消火器等の準則、電氣取付規程に合致せざる被保險物の保險を拒絶するか、又は其標準に合するやうに改正することを被保險者に勸告する。又他方に於て保險業者の協定する保險料率表に於ては、火災危險に影響する各種の事情例へば(一)都市一般の火災危險狀態、(二)建物の材料及び構造、(三)周圍の狀態、(四)建物の用途、(五)各種の私設消防設備、等に就き細かく危險の程度を觀察し、火災の危險を增すやうな都市の事情、建築の狀態等につきては割增を施し、其代り火災危險を減少するやうな特長が都市計畫又は建築中に存して居る時は割引をすることとして居る。此は社會思想が發達して被保險者が保險料の負担の公平を要求するに至つたのと、前述の如く保險者が火災の危險多き建築其他の事情に對し高い保險料を課して危險の改良を行はしめんとする結果である。火災保險の進歩するに從ひ、吾國に於ても、保險會社は益此種の料率政策に依て危險の改良を計るに至るであらう。之を一般社會的見地から見るも、保險料が相當にして公平なる以上は、斯の如く保險會社が聯合して料率政策に依て危險の改良を促すことは、一國の火災減少、國富維持の點より觀て望ましきことであると思ふ。特に國富の比較的少なき割合に、年々各種の天災地變に因り非常の不幸と多額の損害とを齎らしつゝある吾國に於ては非常に必要である。保險會社の料率政策は適當に行はるゝならば火災防止に貢獻すること大なるは歐米に於ける例に見るも明であるからである。

ところで、斯の如き料率政策に於て保險料算定の基礎となるのは其建物の所在地の一般火災危險狀態である。つまり火災保險には地方的事情により火災危險に大小あり。殊に都會には延燒危險あ

る故に、個々の被保険物の料率を定むるに當つても、一都市全体としての危險を標準にするのである。それで或建物の建築狀態が相當よろしくとも都市全体の危險狀態が悪いときは、其建物の保險料も左程安くならない。處で一都市の基本料率をどうして定めるかといふと、近來、米國火災保險業者協會が採用して居る標準に依れば、米國全体の都市を左の各項目の狀況に從ひ十等に分つことにして居る。

(一)水　道	一、七〇〇
(二)消防設備	一、四〇〇
(三)報火設備	五五〇
(四)警察制度	五〇
(五)建築條例	二〇〇
(六)爆發物燃燒物取締法	二〇〇
(七)電　氣	一五〇
(八)天然狀態及び建築狀態	七五〇
	五、〇〇〇

前記の各項の下に記せる數字は火災危險の點より觀察したる比例價値を示すものである。而して合計五〇〇〇は都市の防火上より見たる缺點の甚だ高い評點を示すものである。即ち此の缺點の評點が〇より五〇〇〇點迄の都市を一等市とし、五〇一點より一〇〇〇點迄の都市を二等市とし、以下次第に進みて評點四、五〇〇點以上のものを十等市とするのである。而して此缺點を評價する爲めに、別に水道、消防設備以下の各項につき、各細き表があつて、火災の立場より見て注意すべき細目を指摘し、此各細目につき夫れ〳〵比例評價を數字にて示すことゝして居る。例へば右の項目中都市計畫と關係多き(八)都市の建築狀態についていふと、左の各細目に依り評點が定まることゝなつて居る。

(一)ペーブメント (Pavement)
(二)道　幅
(三)一地區(ブロック)(二十呎以上の道路を以て圍まれたる一廓を一地區とす)に就き道路に接する建物の總建物に對する割合。
(四)一地區中の總坪數に對する建坪の割合
(五)一地域(ディストリクト)内の總坪數に對する道路及び空地坪數の割合。

（六）建物の高さ

建物總坪數中木造四階以上の建物が幾割あるか、木造六階以上の建物が、幾割あるか、木造以外の不耐火性四階以上の建物が幾割あるか、同上六階以上の建物が幾割あるかに依り評點を增すものなり。

（七）過大なる建坪

木造の場合と然らざる場合に別ち、一定建坪以上の過大なる建坪を有する建物數の總建物數に對する割合に應じ評点を增すものなり。

（八）Party and Fire Walls.

協會認定の建築條例に合致することを要すとし、此標準より狹少なるときは評点を增すものなり。

（九）Floor Openings.

階上階下相通ずる部分は總て標準的防火裝置をなすを要すとし、此裝置をなす建物數の總建物數に對する割合に應じ評点を定むるものなり。

（十）Exposed Openings.

建物の外部と相通ずる部分が五十呎以内に他の建物に面するときは準則に從ひ防火設備をなすことを要すとし斯る設備なき建物數の總建物數に對する割合に應じ評點を增すものなり。

（十一）Permanent Awnings.

市街に面する部分の總長さに對する Permanent Awnings ある部分の割合に依り評點を增すものなり。

（十二）特別危險地帶

或地域内の地區が其地域の普通危險よりも明に大なる危險を有するときは、斯る地區の存する數に應じ評點を增すものなり。

（十三）隣接地域の危險

以上は其都市の欠点を評價する細目であるが、若し其都市に

（一）耐火建物及びスプリクラー裝置煉瓦建物

（二）防火地帶

（三）特設高壓水道

あるときは評點を大に割引することとして、其割引の程度につき、詳細規定して居る。

米國の此制度は上述の如く種々細密なる點に就ても、其都市全体の火災危險に及す程度を考察し都市の火災保險料の基本料率を定むる標準として居る。吾國に於て將來保險業者が都市の基本料率を定むるに當り、此の如く細密なる程度まで分解考慮するに至るや、素より不明なるのみならず、又考慮すべき點も米國に於けるものと同一でないかも知れぬが、然し將來の火災保險業は都市の建

築狀態、防火設備、水道等換言すれば都市計畫の細密なる點迄を考慮して各都市の基本料率に差を置くこととなるであらうし、またかくならなければならぬと思ふ。これは上述せるが如く、保險會社の自己の利益と社會の公平の觀念の要求する處である。さうすれば都市計畫を爲すに當り、防火の考慮を十分にして置くことは、其都市の火災の損害を少くし都市の災害及び衰頽を防ぐ上から言ふて、必要なるのみならず、火災起らざるも常に市民全體が比較的安い保險料を以て其財產を保險して貰ふことを得る利益があるのである。

今試みに東京、大阪、神戸の火災損害を左に示すと。

年	東京(建物)	大阪	神戸(建物)
明治四十年	一、三六一、〇八九	……	……
同 四十一年	一、一〇三、三七九	……	五九九、八九二
同 四十二年	六、六五〇、八六一	一四、九二九、一八四	三八五、八五五
同 四十三年	五二七、三三三	六八一、七四七	一三五、二三六
同 四十四年	四、九四四、五三〇	三三一、二四九	四六、四三〇
大正元年	二、二四三、七二五	七、〇八一、六五五	一六、四六五
同 二年	四、〇〇七、七八八	六四二、六八九	三一〇、〇四四
同 三年	一、二三四、四七七	一、一七七、七九八	六五、七〇一
同 四年	一、二〇五、一五九	五三七、七一六	三三、五九六
同 五年	一、一五三、五七六	九〇一、二七	一、六三六、七九五
同 六年	……	六、八〇一、二三一	三、七三三、二六〇
同 七年	……	一、八六六、五〇五	……
十ヶ年平均	二、四三四、八七四	三、四九六、八〇八	七三五、三三〇

而して保險會社の保險料收入は東京市の分は判らぬが、大阪市では四百十二萬餘圓(大正七年度)神戸市では八十萬餘圓(大正六年度)である。今都市計畫中、防火方面の注意がよく行屆いた爲めに、大ざつぱの話であるが、假りに火災の損害が三割減することとならば、東京市では年々約七十三萬圓、大阪市では年々約百四萬圓、神戸市では年々約二十二萬圓の財產が燒失を免るゝ譯である。のみならず、年々市民の拂ふ保險料も安くなる。例へば大ざつぱではあるが、一割牢引となるとして、前記の數字を基とせば、毎年大阪市では六十二萬圓、神戸市では十二萬圓の保險料を節約し得る。而して市民が保險につける物件は年々增加する傾きがあるから將來市民の保險料節約額は一層大であるであらう。而して此防火計畫により例へば大阪市の如く最近十ヶ年間に三回も大火がある樣な事がなくな

らば、保險會社も利益を受ける。即ち會社の營業は非常に安全となり、且つ保險料を相當引下げても利益を殘すやうになるであらう。

此樣な次第であるから、都市計畫に於て、ペーブメント、道幅、道路の配置、建築狀態、消防、水道、密集地域、防火地帶等につき特に注意することは火災の損害並に保險料の負擔につきて市民全體の利益に大なる關係を有するものである。而して都市計畫につき火災危險を減少するの設備は保險會社の立場より言ふても非常に必要なことであるから、保險會社は外國に於けるが如くかかる設備の十分に出來ることにつき協力し、且つかゝる設備の完全なる場合には、前述米國に於ける程度には到らぬとしても、都市設備の長所の細密なる點に迄も考を及ぼして、其市內の一般被保險物の保險料を安くし、以て都市の設備の改良を奬勵し容易にせんことを希望する次第である。是れ保險會社の私益たると同時に社會の公益である（完）

（大正九年九月二十一日）

火災保險の發達

火災保險發達の第一步は都市の政廳に依りて始められたり。但し或國に於ては、中央政府の行政事務の一部を成せるものなきに非ず。中央歐洲大陸の記錄に現れたる火災保險の最初の形式は千二百四十年のフランダー政廳に依て發布されたる法律に在り。該法律は火災に依て生じたる損害は其火災の起りたる地方全體の負擔に於いて復償するを要すと規定せり。保險局の初めて設けられたるは千三百十年に於いてアルヅュに開かれたるを嚆矢とす。漸く十七世紀に至りハムブルグ及び其他の大陸諸港に於いて都市經營に係る火災保險事業の成立を見る。

大局に照應する建築家

―局部的技巧は建築家の未技也

内務省社會局長　池田宏

一

建築家が單純なる其一軒一戸の建築觀念から、眼を開いて、都市全体の計畫に對する關係と云ふ事に、非常に注意を拂ふやうな傾向に成つて來たのは、此上なき喜ぶ可き事である。此家を建てるには、如何したらば体裁良く見ゑるか、此座敷には此床柱を立てなくては引立たぬといふやうな事は、抑々建築家の末枝とも云ふ可く、其一箇の建築物夫れ自身が、都市に對して如何なる關係に置かれるか、といふ事の考察は實に根本的な大きな問題なのである。

各々箇々の建築物は夫々都市の内容を成すものである。建築の集合が都市たる事は、例へば一人〳〵の國民によつて日本帝國が組立てられてゐると同樣である事は誰しも知つて居り乍ら、從來建築の從事者は、己れの着手する建築一箇を本位とし、只それさへ丈夫であり趣味に富み美觀を備へれば宜しいといふやうな有樣で、其一箇がやがて都市を組成すべき大切な物であるといふやうな觀念は寔に少なかつたのである。

國には國民性といふものがある、それと等しく都市にもまた共通的な一種の民性が流れるものだ我々國民の一人一人の考がやがて國民性となるが如く、建築もまた其一箇々々が一種の都市性を産み出して來るもので、古くから市民井に隨ふといふ諺があるが、此等は建築家諸氏に深く味つて貰はねばならぬ言葉だと思つて居る。

申す迄も無く當時の建築家の自覺がローマを産みアデンを産んだ、ローマと云ひアデンと云つても要は其時の偉大なる建築家の手に藉つて造り上げられたのである。然るに其後に於てボールの侵入を見、各民族が東に走り西に逃げ始んど一定の住居に安定ある事を得なかつたのでヨーロッパは亂れに亂れ、建築家の偉大も極度に墮落したが、漸くにして再び復活の時代に到り即ち文藝復興時代となつて、此處にロンドンを産みパリーを産んだ。誰しも久し振りで昔のローマのやうな調和の取れた美しい市街を造りたいと考へたのである。

二

ロンドンのセントポール寺院を中心にしてテームス河の東側が野原のやうに燒けて仕舞つた時にこれを完全に復興せしめ偉大なる事業を遺したのも、クリストフ・アーレンといふ當代の建築家である。

ルイ十四世がパリーをして世界の總ての支配者たらしめんとした時に、其總ての設計をやつたのも當代の建築家で、後にナポレオン三世の時代、バロンホワスマンが五億圓の金を投じて、大巴里の經營をやつたのも、其設計の基はルイ十四世時代の建築家の考案に據つて、根本を得たもので決して獨創では無いのである。

米國ワシントンの計畫を立てた獨逸人ランファーンも、根底はルイ十四世の巴里都市計畫案であつて、これを脫化したに過ぎない。近くシカゴで開催したコロンビヤ大博覽會は、米國最初の博覽會として、會場建築は勿論、總ての設備は殆んど熱狂を以て企圖され、其結果は世界の驚異的視聽を鍾めたが、斯の計畫案は一に建築家の手に依つたのである。

其後件の博覽會計畫の內容に報示せられ、シカゴは將來に於て米國のパリーたるべきものであると云ひ出して完全な都市計畫を始めた、この設計を引受けたのもバアナムといふ建築家である。

要するにこんな具合であつて、從來建築家の力に藉つて、成立した都市は頗る多く、又理論に於ても其力に藉つて組立てられ行くべき筈のもので

あらねばならなぬと思ふ。

三

都市の完成を期する上に於ては建築以外、道路鐵道、交通、保安、衛生など重大なる關係を有する事は勿論であるが、其中に於て建築——即ち建築家に對して必ず或る多くのものを俟たねばならぬのである。

實を云ふと、今迄の建築家の多くの人には自覺無く自尊心無く、從つてまた抱負も無く、建つべき家一軒其物に就ては、それ相應の考慮もし研究もしてゐられたやうであるが、さて前にも述べたやうな、其建築物の都市に對する關係、影響といふやうなものは、寸分も考へられては居ないやうに思はれた。

約りはも少し自尊の心に生き、或る抱負を有つて『些細なる自分達の設計も嚮ては都市其物であるのだ』と云ふ考を有つて貰はねばならぬし、且又有たるべき義務もあるのである。斯の意味に於て建築家諸氏が、近來都市計畫の方面に次第に密接な關係を持たれつゝあるのは、これ亦前に述べたる如く甚だ喜ばねばならぬ氣運なのである。

市街地建築物法も近く實施せらるゝに至るし、同時に勅令も省令も出る事になつてゐる筈であるから、これを先づ建築物に關する憲法が定る次第だが、これは極く大ざつぱな地域の制度といふやうなものを定めるのであるが、さて住居地とか商業地とかの地域が一定されても、この地の特質に應じて其利用よい宜しきを得なくては何んにも成りはしない。即ちこの利用は一に建築家諸氏の手腕に俟たねばならぬのである。此地域には斯うした建物を斯うした狀態に建てれば効果が多いとか斯くの如く利用せねばならぬといふ設計は、やがて建築物法の本來の精神を發揮するのであるから此際に於ける建築家諸氏の自覺こそまた甚だ大切なるものであるのだ。

しかし乍ら此憲法は決して都市に對しての『理想』を編纂したものでは無くして、要するに其最少限度を制定したものであるから、もしこの法令によつて窮屈な物は困るとか、不便だとか云ふ事があつては大變で、これを利用し活用して、充分に其効果を得るやうに今から希望して置く次第である。

——八談、文責在記者——

設計數量書の提示に就て

會員　建築技師　小笠原鈔

築建士其他一般の建築技師が、其設計したる建築を實施するに際しては其建築費を見積るが爲に夫れに要する材料、工手間及施工上一切の雜費を計算したる數量書を作製します。

普通は此數量書を圖面仕樣書と共に、其建築の施工者即請負者に提示して之を參考として、其施工價格を見積らせる事になつて居りますが、併し官廳や又は其他の處で都合に依りては、單に圖面と仕樣書のみにて見積らせ、此數量書を提示せられぬ場合もあります。

其之を提示する場合に於ても、圖面や仕樣書に就ては、相當設計上の責任を認め居らるゝ樣なるも、此數量書は單に參考に提示するに止り、內容の責任を帶びずと明記せらるゝ場合が多い樣に思ひます。

茲に於て、私は此數量書の內容に就て責任を帶びざる事が、所謂程度問題であり、且又設計者の立場として、如何なるものであるか、諸君の誨へを乞ひたいと思ひます。

抑も建築設計書が其設計の意思を表示するには勿論圖面が必要であり、之に續いて其施工上の所謂仕樣を明示する事が必要であると同時に、數量書も大に必要なる事と思ひます。殊に數量書に於ては假設の諸設備運搬諸雜費勞役等を一層詳細にする必要があらうかと思ひます。

故に、私は設計者は圖面仕樣書の外必ず數量書を提示して、十分に設計者の意志を施工者に表示する樣にしたいと思ひます。

從て建築士其他一般設計者は、此數量書に對しても、相當の責任を以て之を提示する事にしたいと思ひます。

勿論比較的簡單なる設計は、其數量も容易に判

明し之を正確に調査するに大した手數も掛りませぬが、復雜なる大建築に至りましては、一々其施工の細部に渉り適確なる數量を明示する事は、或る程度以上殆んど不可能と申しても宜數程六ケ敷且非常なる手數のかゝる事ですから、夫れ程嚴重なる明示の責任を申すのでありません、單に一通り常識的判斷の程度に於て、責任を帶ぶ樣にしたならば、設計者としての立場も大邊立派であるかと信じます。

兎も角も自分に設計を立て之が何萬圓で出來ると計算した以上、其設計の據て生じたる基本調の數量書でありますから、之を施工者に提示するとも公然と或る程度迄責任を以て明示して差支なき樣に思はれます。併前記の樣に數量なるものが却々復雜して居りますから、極めて適確に一本一箇の誤りもなき事を斷言し得る程度には到底責任を帶ぶる譯には參らざるかと思ひます。故に之は或るパーセンテージを定めて置いたら如何でしょう

之は隨分露骨な話でありますが、設計者なり、或は請負者なりに於きましても、短時日に急な見積をする如き場合には、或は壁の木摺を半面拾ひ落したとか、屋根の各板を半分しか見なかつたとか雨樋を落したとか、鐵筋のバーを二重に見たとかなど種々の間違があるものです。

故に數量書も圖面及仕樣書と同樣相當なる責任を以て提示するけれども、併し其數量の員數違ひ何パーセント以內は責任を帶ひす位の事に規定して提示する事は如何でしょう。

其處で愈實施に際して全然數量書に記載漏れのものや、或は又數量の相違甚敷ものは之を差引計算する事にするが正當の事柄かと思ひます。

今一つは、之迄設計者の意思を最も明確に表示すべき工手間を仕樣書にも明示せず、數量書にも全然省き居る事ですが、之は是非改良を要する事かと思ひます。仕樣書には單に入念とか極めて叮嚀にとか最も良好にとか仕樣を注意し居るも、果して工手間ごの位掛けるのか、其不明瞭なる爲大に實施に臨んで思違を生ずるのであります。假令ば、床板張でも坪一人でも出來れば二人三人でも出來る樣なもので、其程度を設計者が明示するに

は數量書に、床の處大工何人、屋根窓の處錺工何人と、一部分宛其工手間を明示すれば、大邊に施工者が其設計の程度を了解して仕事が甘く行く様になりましう

一部分の人の話では、此工手間を明示すると豫算の大部分が直に請負者に知れるとか、或は工手間は見積方に據り種々異ひのあるもの故、之を提示すれば實際の出面人員と差引をなす等の問題を惹起して困る抔との說もある様なれども、之等も矢張程度問題で、事實に於て非常に大差ある場合は所謂常識判斷で適宜の措置を採るよりは他ないと信じます。大体今日の施工に際して其請負制度なるものは、其明瞭を缺いた施工法で、總ての點に於て理屈にはまらぬ事が多いかと思ひます。之を最も理想的に施工せば、結局實費精算施工より他に良法なき事に到ります。

故に現今の工事實施を請負制度に據るとせば、前記の如く或る程度にて御互に其追究を中止し、常識的判斷で行くより他はないと思ひます。

それで現在に於ては設計者は圖面仕樣書と共に其設計數量書を提示して施工者に、見積らせ其數量書に對しては或る程度まで責任を有つ事、並に其内容を改良して、假設諸設備運搬諸雜費等を一層明確に現はし、尙又勞役の工手間員數を一々豫表する事に改良しては如何でしょう。敢て愚言を連ね、諸賢の御敎示を乞ひます。

日本式家屋の缺點

震災豫防調査會及其他技術家が、實際震害構造物より觀察して、木造家屋の缺點として擧げた重なる點は、(一)筋違のなき事(二)屋根の過重なる事(三)木材には自然腐朽部分の生じ居る事(四)足元の締りなき事(五)和用建築の通弊として繼手餘りに巧妙に過ぎ、材料を多く缺き取り、從つて其强度を弱むる傾向ある事、同時に鐵物を利用せざる事なり。

地震と家屋

理學士　對馬吉三郎

一

蚊細そい骨組を有つてゐる日本の建物の間に生活をしてゐる我々は、昔から地震雷火事親父と云つて、恐い者の筆頭に先づ地震と云つた位に無暗に恐怖を養はれて來てゐるが、その恐い地震も、統計的に研究して見ると、その結果の事實は、決して我々が恐れてゐる程にそれ程大したものでは無いのである。一例が彼の明治二十四年十月二十八日早朝濃美の大地震に見ても、一番烈しかつた名古屋の如きでさへも住宅數の百分の三が全潰したに過ぎなかつた。この一例を見たゞけでも、抑々が地震の爲めに普通の住宅が潰倒するやうな事は甚だ僅少であるのであつて、從つて、そんなに恐がるに及ばないと云ふ結果に成るのである。

地震と云つた處で、決して突然に大震動がやつて來るのでは無くて、最初は極く微かな小さな震動から始まり、續いて大きくなるのだが、餘程の大地震でも最上の處は四秒から十秒位も繼續する位のもので、只濃美大地震（明治二十四年）の時の如きは、約三十秒も繼續したけれ共、此等は殆んど例外の例外とも稱すべきである。

こんな地震に成り、而もその地震動の主要部に當る處は、粗造な石や煉瓦建などは眞先きに崩壞するに到り、この種の粗末な材料で建築した住宅などは、どんなに壁を厚くしてあつたからと云つて何んの効も無く、忽ちばら〳〵に成つて仕舞ふものである。しかし日本式の木造家屋で構造の堅固に出來てゐるものは、外觀上は煉瓦や石造に比べて弱々としてゐても却つて地震に對しては抵抗

力のあるもので、然様に易々とは壊れない。だが殘念な事には次第に地震が激しくなつて來て、家屋が傾斜し其重力が一方に集つて終に柱を折るやうになると、こうなると丁度馬が前脚を屈したやうなもので段々と潰倒せざるを得なくなつて行くのは、柱を生命とする日本家屋に於て止むを得ざる處であらう。此柱の良否、根本設計の適否は、實に地震に對する家屋抵抗の第一義で此邊專門家の御勘考を得て置き度いと思ふ。

二

地震に對する災害は、如何しても高層な建物に成ればなるだけ甚しいのだが、しかし寺や神社の山門、鐘樓、五重塔などの木造でも、地震の爲めに、其儘全体として根こそぎに轉倒するといふやうな事は無いのであつて、矢張り柱でも折らなければ多小の傾斜位で止るものである。

だからして柱を堅固にする事に意を用ひ、金具材或は筋違材を使用して、柱の折れる事を防ぐのは、要するに建物其物の倒潰を免れる所以である從來の調査に依れば家屋は如何に猛烈な震動に逢遭しても決して轉伏する事無く、礎の石から一尺乃至三尺も移動した前例があるが、それでも尙ほ其上の建築物は直立して居たのである。

地震の上下動は、非常に強いものでも、それのみでは、日本風の建物は倒す事は出來ない、それよりも最も恐るべきは强烈な水平動であるが、この水平動に對する家屋建築の用意は、即ち一般地震に對する用意と成る次第である。

二階建家屋は、二階床下の柱が折れて、二階全体が落下する場合が多いし、長家はその長さの儘に一齊に倒れ、連接した家屋は其兩端にある家が最も害を被るやうである。しかし、基礎工事を完全にする事と、屋根を出來るだけ輕くする事は、全体に於て、地震抵抗を增す事甚大であると申さねばならぬ。

高い建物と云へば暖爐用煉瓦煙突は非常に地震の災害を受けることが多いもので、只單に煙突それ自身が倒れる許りで無しに、その飛沫を喰つて他の建物迄が非常なる危險を蒙る事が多いもので

ある。殊にその煙突下にある木造日本建の如きは其危險負擔中の危險で、いざ地震と成ると、普通家屋と、高い煙突とは震動率が相違するから、結局煙突が屋根際で折斷して、大小煉瓦の雨が猛然として降つて來るので、それが屋根を破り、天井を貫ぬいて果てはその下にゐる人畜の生命を縮めるに至る。縱し又此時にはその危險災害が無かつたとしても、內部外部に龜裂を生じたり破損したりして、將來にその原因から火災を生じたりする事があるから愈々危險である。明治二十七年六月二十日の東京の地震で本所深川の工場地に工場用煉瓦煙突百七十一本の外　暖爐用の破損せるもの六百五十八本に及んで、その災害もまた實に甚しかつたのである。

三

我國に於て、木造家屋に次ぎ最も多數の存在するのは煉瓦建及び石造であるが、煉瓦家屋は一階建でも二階建でも、根本から總ての設計が當を得て居り工事が完全であるものは、地震に對しても想像以上の耐久力を見せる事があるものである。明治二十四年の濃美の大地震や伊太利メッシナに於ける位の程度のものであれば、殆んど損害といふ程の損害を受けずに濟むであらうと思はれる。

しかしそれは所謂完全な瓦煉建のお話で、反對に其粗造な建物と成ると、危險負擔率は木造處の騷ぎではなく、殊に二階建にあつては、一階には別條が無くても、單に二階だけが、無茶苦茶になつて仕舞う事も珍らしく無いものである。

更に石造に到つては、その建築が通常である以上地震耐久力は煉瓦建より遙かに以下で、例へば石と石とを鐵の棒か何にかで連續させるか、或はまた非常に性質の良い泥膠を使用して、完全に積み上げるかしなければ、地震に對しては殆んど零と申さねばならぬのである。

然らば一体如何なる建築物が完全かといふやうな事になるが、勿論これは絕對安全といふ事の出來ぬ次第ではあるけれども、鐵骨構造、鐵筋混凝土などが、先づ地震に對しては幾分强い方であるそれかと云つて、鐵骨であり鐵筋であるから何ん

でもかんでも良いかと云ふと、然樣許りも行かないが、しかし半潰れとか全潰れとか云ふ程度迄の甚しい震災を受ける事は無からふと思ふ。

鐵骨構造中でも、鐵骨煉瓦などは大層堅固で、その構造さへ確實であれば、大きな地震の時には周圍の壁面が龜裂し或は其結果落下して、多少鐵骨其物をも損ずる事もあるが、何れも大した結果を殘すものでは無いのである。たゞ鐵骨構造は地震に抵抗するの能力は單に鐵骨のみに依るものであつて、壁面の煉瓦やコンクリートなどは單に量重を添ふるに過ぎないのであるから、いざ地震と成ると、他の建物より以上に震動は烈しいからこれは注意すべきでもあり驚ろいては成らぬ處である

鐵筋コンクリートは御承知のやうな構造だから全家屋が一塊の物体となるので、地震動に對する抵抗の能率の如き頗る強烈であるから、通常の建物は勿論、工場及び高層煙突の如きには殆んど理想的と云はねばならぬ。

四

さて又地震と土地乃至建物の關係だが、抑々地震の強いとか弱いとか云ふ事は、その土地の強弱と非常に密接な關係があるもので、殆んど隣接した土地であつても、一寸した地盤の關係上から、時としてその地震の災害に非常なる相違を來すことがあるのである。

地盤の頗る強固な例へば大きな岩の上と云ふやうな處の上へ建てると先づ絶對安全とも云ふべく何處が地震だといふやうな涼しい顏をしてゐる事が出來るが、柔軟な土地や新しい埋立地や河岸築堤などは甚だ危險な處である。

この實例は安政二年の江戸の大地震で解るが、山の手の土地の堅硬なる場所は震害は頗る少なかつたに比し、これと反對に築地、鐵砲洲、和田倉橋内外、曲輪内殊に大手前、八代洲河岸、小川町

神保町、小石川江戸川附近、下谷、根岸、根津、茅町、草淺〃吉原、本所、深川等は非常な震害を被つたのである。しかし下町でも日本橋、京橋、新橋附近に大したことの無かつたのは矢張り地盤の關係である。

我々は前にも申述べた如く、地震に對して無暗に恐怖を感じて居るのは、從つて、いざ地震だと成ると、其恐怖の結果は甚しい狼狽と成つて、自から非常なる災害を招く例は決して少なくないのである。

我々の住む日本家屋は前說明の如く、弱いやうではあるけれども、尙ほ且つ相當な耐震力を有つてゐて、地震の聲を聞くと同時にめちや〳〵に成る譯では無いのであるから、此處でゆつくり落着いて避難をしても大丈夫なのである。倒れるにしても又倒れる迄には相當な時を要するのである。

明治二十七年六月二十日午後二時の東京大地震の時に市內で二十四名の死者と重輕傷者百四十九名を出したが、其內で約六十六名は、高い處から狼狽して飛下りたり、逃げ出す時に何かに突當つたりしたもので、直接には地震負傷者では無かつたのである。

安政二年十月二日午後十時の江戸大地震も全市に約七千人の死者を出し、濃美大地震は死者七千二百七十三人を出したが、其多くはまた前の狼狽の結果に依る者である。しかしこれとて全潰家屋の率を取れば少ないもので、濃美大地震は全潰住宅十一戶に就き死者一人の割、明治二十七年十月廿二日山形縣酒田町の災害は平均九戶一人と成つてゐる。

五

日本家屋は木造の輕い材料である結果、地震の被害者は輕傷で臺灣の嘉義大地震の如き土民の土塊家屋のため死者全潰家屋の平均五戶半につき一人となるやうな悲慘は無い。しかし負傷者の中で最も多いのは打撲傷即ち肉体軟部の怪我で骨を折

るやうな大怪我は非常に少ないのである。

濃美大地震の時の岐阜縣下に於ける折骨者は負傷者の百分の八に止つた位のものである。しかし外國などに於ての災害率は決してこんなものでは無く明治四十一年十二月二十八日午前五時に發した伊太利南部の『メッシナ地震』は約十二萬人の死者を出した。しかも其地震區域は長さ八里幅五里で我國濃美大地震の三十分の一であり、お負けに地震の程度は、當時我國名古屋市に於けるより以下であつたに拘らず尚ほ斯結果を見たのである。

名古屋市人口は十六萬五千三百三十九人で僅かに死者百九十名、メッシナ市は附近の村落を合して人口約十五萬人で其中七萬五千人の死者を生じたのは、名古屋市に比し四百餘倍の多き割合を示したのである。約り、名古屋市に比較して同一程度の激震であつたとしても、メッシナ市の災死者中の一千分の九百九十八人は即ち家屋の構造の相違による——換言すれば家屋建築の不完全に依る犧牲者となつた譯となるのではないか。

仍で我々は、この我々の多く木造家屋に住いでゐていざ地震となつたならば、如何したら宜しきや、と云ふ事を豫々考へて置く必要があるのだがそれは矢張り大森博士抔の常に敎へられる通り、先づ第一に狼狽せずに戸外の而も成るべく廣い場所へ避難する事である、地割れなどは決して心配無いものだ。

屋根や狹い道路、煉瓦煙突などの附近は危險だから、出來るだけ廣場へ廣場へと逃げるが宜しいのである。處が狼狽せぬが良いからと云つて無暗に落付いてゐては、家屋が傾斜すると雨戸や出入口の戸が却々開かなくなつて仕舞ふから其度合は宜しきを得なければ成らぬ。この意味で雨戸の中には地震戸を設けて置く事を必要だと思つて、私は常にそれを說いてゐる、地震戸と云ふのは御承知の通り、雨戸の中に設けた小さい開き戸の事である。（談。文責任記者）

國立土木建築研究所設立を論ず（二）

日本建築協會
終身賛助員
山本辰五郎

一

人類の斷片的生活を綜合的に、人類本質的必至の欲求を眞實に具現せしめ得るものは建築であろう。

人類生活の本質は固より渾然とした一の實在とも謂べきであるが、それに解析的觀察を加ふるときは、こゝに三つの形相を看取し得る。第一は物質的生活、第二は精神的生活、第三は物質的及精神的生活の体現による思想問題並に人類生活を基調として現はれる政治問題である。

第一は物質的生活の表現は物質的文明となり、物質的文化内容の事象を經濟的現象とするのである。第二は精神的生活は精神的文化となり其渦中より哲學も宗教も科學も道德も美術工藝も現れるそれを鸚鵡論者や、直譯者流の輩が特に文藝美術工藝のみを捉へ來りて文化中心を論じつゝあるは文化を最も狹義に解した非文化的思想家の痴言囈語に過ぎぬ、文化の研究は此三方面より進で微に入り細を穿つべき解釋的方法と解析によりて到達し得たる箇々の智識を分類し、比較し、整理し、按排して一の体形を組織し綜合的眞善美を致すべきである。之等のその一だに誤り文化過程の裡に按排調和を欠ぐに於ては、いろ〳〵病的欠陷を來し、社會政策も政治も理想的に容易に實現し得られなくなる。

この整理者とも謂ひ、按排者とも謂ひ、綜合的調和者とも謂へば重大任務を主動的に他動的に有するものゝ中に、建築問題の存ずべきを世人は首肯すべし。

私は更に人類生存的必至の欲求を深刻に溫ね來つて建築は人類の人生觀たるを自信して竭まない

□

建築は人類精神的生活にも物質的生活にも深遠な關聯を有し、兩者の融合を助長せしめる社會政策にも亦兩者の融合を俟つて發達すべき國家にも頗る重要の使命を有すべきを忘れてはならぬ。

この如き重大使命を有する現今建築界の趨勢を何と觀る、日々幾多の建築は相互に其技を競ひつゝあるも、ある一部分の技術家の設計に基くもの、外は、概ね、社會的に人類生存的に廣義の意味より何等の効用も、何等の意義も、何等の感動をも與へぬものゝみと謂ふも敢て失當であるまい、其多くは建築せんとするための建築にして、何等の權威もなく只單に其必要に應じて建築されると云ふに過ぎないかの感あり、殊に今の請負業者に何のために建築業に從はんとするかとの問を發したならば、さま〴〵の答はあるであろうが、恐らく、何のために建築業に從ふかを解析し得るものは少數であらう。

今や、人類生活も、社會發達も、過去不自然的無意識に、その求むるまゝに膨脹せる建築を整理せんとの希望に滿ちてゐるではないか、されば、今の建築は革新的であり、指導的であらねばならぬ。これを革新し指導する建築は建築技術を基調として、技術家は勿論請負業者の努力によりて實現されるのであろう。

觀じ來れば建築技術の文化的向上が如何に社會國家に必要であり、技術家及請負業者の努力が如何に必要であるかゞ判然するのである。

□

我國の建築は謂ふまでもなく、明治維新後澎湃として流れ込んだ泰西の文明が所謂洋風建築を齎したもので、而かも、それが急速に割り込んだ結果、建築學の幼稚と非文明時代のことゝて、之等を撰擇し得る餘裕と思想とを有せざるため、何の譯もなく不自然のまゝ五十餘年の歲月を閲して漸く今日の文化過程を見、學問の獨立は人智の開發

となり引いて我建築學建築技術の進歩及理解を見るに至つたのである。我國は僅か五十餘年にして今日の文化を見るに至つただけに建築界の如きも頗る慌たゞしく激進し社會民人は勿論、專門家に於てすら徹底的に大研究の餘裕を有しなんだのである。數千年の經驗を嘗め幾多の犧牲と幾多の研究とを重ねて秩序整然として開化發達を見た泰西の文化、就中建築界に比して我國建築界の末だ彼に肩比し得ざるは其經濟的關係及因習風俗を異にするからでもあるが、理想の上より遠く及ばざるは敢て論ずるまでもあるまい。

飜つて、我國は今や建築の文化的進歩と社會文化との連鎖的意義を理解し、こゝに努力すべく漸次自覺し來つたのは、之れ我技術家努力の賜である。換言すれば、不自然に輸入され無意識に膨脹せる社會を綜合文化的に革新すべき機會は來つた而かもその革新は建築の文化向上による社會的建築によりて初めてその目的を達すべく、之等前述の諸要件を理解し將來の建築界を想到せば天下何人か建築の社會的重大意義を否定し得るや。

口

建等界は斯くの如き社會奉仕的使命の下に健全なる文化統導者たる實を擧げなくてはならぬことゝなつた。然らばこの尊くして最も權威あり、最も深刻なる意義を有する『建築』の文化的發達は何人によりて企圖せられ普及さるべきか、『建築』が凡ゆる進歩の中心たるに於て、之が解決は緊急切實なるものである。其は、建築投術の進歩てふ大なる鍵によりて開かれるのである。そして其凡大なる鍵は建築技術家の尊い手腕に左右せらるべきを忘るべからず、斯く觀じ來れば、建築に關して比較的冷淡であり無意識であり無能である爲政府も建築技術の徹底的進歩向上を期すべきを理解するであろう。

政治の目的は謂ふまでもなく社會國家の圓滿なる發達と人類生存の安定を圖るためではないか、而かも之等目的を左右すべき建築を顧みるなく、その進歩向上を等閑に附しつゝあるは何等の矛盾ぞ、固より科學的智識に乏しく且つ文化的意義を

徹底的に理解し得ざる爲、政府の多くが末節政策のみに走りて中心政策を忘れんとするは無理からぬことでもあるが、今は單なる人氣迎合的政策にのみ沒頭すべきを許さないのである。即ち、建築技術の進歩向上を圖るべき適切なる施設及び之が目的を達せしむる技術家の養成に努力すべきは當然である。

私が不識を顧みず國立土木建築研究所設立を論ずる所以もこゝに存するのである。政府が國立土木建築研究所を設立し、その目的を徹底的に果すべきは社會民生當然の欲求にして亦國家の當然執るべき重要政策ではあるまいか、我國の如き若き文明をもつ國にありては國立土木建築研究所の設立は愚か內閣に建築省を新設し、凡ふる政策施設及研究を爲し而して文明に資すべき必要を感ずるのであるが、先づ、第一着手として國立土木建築研究所の新設を望むのである。

□

大學や官廳や民間を通じて建築技術家は相當存在する、從つて建築技術も不自由を感せない程度に研究されてゐる。中には、建築技術の進歩及都市計畫等を畢生の大事業として尊き大研究の下に社會世人を指導しつゝある學者技術家もゐられる

然れども不自然の建築、不秩序の都市を整理し社會政策の實現を期し、人類生活の安定に努め、國家の合理的發達を期せんには、過去不自由を感せない程度に進歩し研究され來つた技術を以てこの大局に膺らんとするは其希望のみ燃えて其効果の擧らざるに至ることなきや。

大希望の實現に膺り、大なる實績を收めんとせば大研究なかるべからず、大研究は、斯界の泰斗が渾身の研鑽を傾け、研究の精緻、考證の該博、識見の高邁なるを更に權威者が合議し、自信の下にそれを發表し此處に初めて統導を啓き得るのである。

斯界の權威とも稱すべき學者技術家の自由と篤學を尊重し、如何にして研究を乞ふべきか、これが問題である。篤學偉材の人士は一片の守錢に動くべきに非ず、この點に社會も民人も爲政者も心

すべきを私は特に記しておく。

凡そ、大觀的大研究は國の寶である、この大研究を私が前號に略說した如く、ある種の事業に從ふ而かも經濟的生活の許した餘暇、經濟生活に濫費した智能の疲れを以てして何ぞ窮極の目的を達し得やう。これを望むもの〳〵無理なるは勿論であつて、苟しくも斯る國家的事業は、國家が其局に當るを以て當然とし、國家は、斯界の權威者を尊重して大研究を乞ふべきこそ、其目的に至る過程ではあるまいか。

茲に於て、國立土木建築研究所設立の要を認めること切實である、研究所には所長を聘し以下夫々擔任者を決定し更に名譽研究家として民間權威者をも囑託とし、此處を建築界の總參謀本部とするのである。斯くて研究所の設立を見るに於ては民間多くの技術家及請負業者等總ふる人々が研究せし事項を同所に於て更に研究し、これを發表するなど其方法に至りては贅言するまであるまい。

斯くて建築の文化的進歩を統一し、現社會の欠陷を補ひ革新してこそ、技術家の研究の意義と技術の權威とが現はれる。

建築は其技術を社會的に人類生存上の安定の下に克く行使されてこそ、建築の文化的眞價及使命は果される。

それには、貴重なる努力及犧牲がなくてはならぬ、その努力と犧牲とは國家が負擔すべきものではあるまいか、國家と國民、國民と健全の發達、之等の關係を想起し來れば、國立土木建築研究所設立提唱の徒事ならざるを感じ、茲に敢て一書を呈して先覺者諸賢の高敎に待たむ。（完）

都市の藝術的生活

「建築と社會」編輯擔任　江村郊邨

―□―

時間の大空の輝きは、
天涯に懸れる星の如くに、
蝕ぐる事ありとも消に失せず、
死は低きさ霧にして、
其輝きを蔽ふ能はず。

是は、カーペンター氏が、藝術家としての生命の輝きを咏つたものである。氏は、人も識る通り現代に於ける新文化的詩人として、又社會評論家として、而して又、現代の無趣味な苦痛な強られたる勞働、即ち個性と其表現の手段を沒却せる現代の人々の勞働生活をして、最も愉快な最も個性的な而して表現的な勞働、約言すれば、勞働を藝術化せしめて、其處に人生の眞諦を把捉せしむるといふ思想の下に成れる彼の組合社會主義（ギルドソシアリズム）の如きは、實に氏の思想に負ふ處が多いのである。寔に氏は、現代に於ける傾向の、美術と實際生活が一致せむとするの要求に立ち至つた事、故に人生は藝術なることを要し、隨つて、人生は藝術なる新礎石の上に改造されなければならぬ、といふ思想を高調してゐる。

現代は、凡てが混沌とし、錯漠とした時代である。政治上に於て幷うである、思想界に於て爾りである、所謂藝術家の藝術の多くゝ於て左なりである、敎育上の主義に於て同樣である、經濟界の紛錯と市井の悲劇に於ても之を見る、近來一層人間の殘忍性を偲ぶべき强暴な事實に於ても、爾か考へられる。卽ち凡てが明快と妥當性を缺いでゐる。徒に感傷的な、捉へられた主觀的な考へにメソるのではないが、實際現代社會の種々相に無關心ならざる限り、そして「良心の眼」に蔽布を纏

はざる限りは、誰れ人も、所謂文明の進展には讃嘆するも、所謂文化の荒頽には、心を刺されない者はあるまい。是は、勿論諸種な原因もあらうが其直接な原因として、約言せば、多くの人々が個人の生活にも、社會の生活にも、生活其ものから「藝術味」を喪つた結果である。勿論、生活の裡に藝術味を浸して、即ち眞純な自己を——個性を表現し得ない事は、要するに、社會組織の缺陷に基き、各人個性が自由な伸暢を爲し得ない結果であつて、之等荒蕩せる人間の社會は、即ち民主會社主義の社會や共産主義の社會と成つても、「物」が問題の全豹であり中心である限りは、依然藝術味の無い生活、即ち見へない唯感ずべき體驗すべき、凡ての理論も推攻も超越して直ちに突き入るべき宇宙の人格的或力に自我の脈絡を繋ぎ、そして、其脈々通ふ血の迸り、絡々相享くる力の發揮、鬱勃たる感激の表現、是が生活の上に——即凡ゆる生活の上に——種々な形式となりて現れる生活は到底望み得ない。其處に亦社會の缺陷と成り復た藝術味無き生活を産む、といふ循環的因果關係になるのであるが、兎も角、現代の荒頽せる事實は、藝術味なき生活の反映である、と云ふて可い。

個人に個性がある如く、其眞純な個性を表現する感激的生活が藝術の生活であり、而して斯る生活こそ人間の眞の生活でありとするならば、斯の個人生活の共同目的に依りて實在し活動し消長する處の「都市」其ものも、生活機能を有する一個體たることは間違もない事實である。隨つて「都市」は亦都市其ものゝ意思を有し理想を有し感情を有すると同時に、彼れも亦個性なるものを有するのである。或は之を「社會的意思」と云つても可い、「社會的理想」と唱へても差支へない、「社會的感情」と申しても可なりである、そうして、其個性は「社會的個性」とでも見做すことが出來得る。要するに、「都市」は、都市民の意思、感情、理想を總計し、平均し、又はコンデンスしたものが都市のそれ等ではない。隨つて、「都市」の個性は勿論都市民の個性の現はれでもない、「都市」はそれ自身として生きてゐる 而して、それ自身としての意

思、感情、理想、個性を有してゐる。斯の事は、素より哲學上の思索の問題でもあり、法理上の研究對象でもある。而して、既に之等問題の攻究されてゐる幾多な說明を引用する事が出來得る、けれども、都市の有機的生活體が當面の問題でないから、一々之を引くことを避けるが、何にしても少くとも、近代の國家に於ては、「都市」がそれ自身として凡ゆる問題の中樞と成り、發動地と成り、更に、國際的にも、經濟問題、其他社會問題として、「都市」が毎にそれ等問題の單位と成つてゐる事實より觀て、「都市」はそれ自身として生てゐる、即ち一個の機能的生活體である、と認めざるを得ない。さらば、「都市」其ものにもそれ自身の個性なきを得ない。蓋し、萬有は動的である、而して皆箇々性を有する、即ち恒に創造し進展する、靜的にして個性なきものは死滅である、「都市」がそれ自身として活動する事は、創造する事であり進展することであり、而して個性を有する事である。

わたくしは、眞純な自我の發露、感激的生活の表現は藝術的な生活であり、是が生活體のほんとうな生活である、と云ふた。惟ふに、現代の「都市」其ものには、彼れの眞純個性を如何に發露し表現してゐるであらうか、云ひ換へたならば、彼れは「都市」としてのほんとうの生活を爲してゐるであらうか、わたくしは是を想ひ度い。

驚嘆すべき人口の膨脹、それは、「都市」生活體の發育であつて、勿論生活其ものではない。嘆異すべき生産力の發達、それは「都市」個體の生活力の充實であつて、勿論生活其ものではない。文明的諸般の物的施設、それは「都市」の生活手段であつて、生活其ものではない。さらば「都市」の生活とは何であるか、扨は、約言すれば「都市」生活體の生活目的を如實に遂行する事が、それである而して「都市」の生活目的とは、都市民を全體としての福利を内容とせる生活機會の創造であり提供である。勿論、多數者の幸福でもない、一人一個の福利でもない、生ける都市組織分子の共同な力と、協合せる意思に藉りて達せむとする都市民の生活機會を、恒に彼れ等の爲に創り彼等の爲に與へる、是が「都市」自身の生活目的である。其手段

作用は諸種な形式に藉りて行はるゝのであるが、都市民の爲に、所謂社會的施設を爲すが如きも其一例である。

けれども、斯くの如く生ける現代都市は、果して奈何に爾く眞實な生活を爲しつゝあるか、即ち、其眞純な個性を表現せる生活にあるか、わたくしは、思ふて此處に到れば、我邦多くの都市は其動機と自意識の多少議すべきものあるも、兎に角、事實に於て近時此處に目醒めたるの觀ありて所謂都市社會施設、都市文化運動等の實体化されて、其個性的生活の稍窺ひ得るものあるも、事實に於て、幷は實に所謂多數者か、然らざれば、一局所の福祉を目的とし内容とするに止り、都市民を全體として、何人も福利的生活機會を從へ得ることは寧ろ難事である。斯くて、現代の個々人の多くは非藝術的生活即ち非眞純的生活、軈て個性を自ら詐く生活に營々たると同時に、巨人「都市」其ものも亦虚僞な生活を追ふて、自ら「都市社會問題」てふ重も荷に惱む歩みを續けつゝあるは、嗤ふべきか、傷むべきか、幷は都市民の擇一すべき問題ではあるまいか。

調和　小にして而かも大なり（"As is the small, so is the Great"）といふ語句は玅智學上の文字として無窮に循環する句である。而して其が又一般自然的になつて居つて根本的遠天なる眞理の簡約せる表出である。又この最幽玄なことは常住で且つ全然であることであつた。それに小宇宙（人間）と大宇宙とは一であつて、其本質に於て同じである同樣に自然に於て事物はその各部分を通じて反響し進續してゐる。



〔研　究〕

××初めて組立家屋を取扱つて

（本誌家屋寫眞版口繪參照）

建築技師　和田順顯

□

土臺から屋根材料さては雜作釘に至る迄全部取揃つて來るのでその周到その便利驚くの外は無い勿論壁も天井も床も全く木製である。

□

屋根にはシングル葺（板葺）とマルツイド葺との二種がある。床は二重張りに成つて居る。

硝子窓などは分銅無しのスプリングの上下窓で至極簡單な位に、体裁もよく便利でもある。

□

全部機械仕上げである爲めに、木面が粗惡である。材料は全部米松の柾で實に立派なものであるが、只仕上げの亂暴なのを遺憾とする。であるか

ら今後組立をする時には、豫め内部の面等は當方で一鉋掛けると非常に立派に成ると思ふ。

□

外廻り壁板は内外から六分厚位の化粧板の間にフエルト及びラッパー、バシヤ等を入れてサンドウキツチにしたものであつて、防濕防寒防水等には至極宜しいものである。

□

日本人と外國人との生活狀態が異つてゐるから此組立家屋を其儘使用して、直ちに我々の生活と合致するといふ事は一寸困難かも知れないから、多少改修をせねばならぬ。例へば便所の如きは、外國人では便器を湯殿の中に据付けてあるけれども、日本人は溜めを使用する關係上別室に作らねばならぬ。又湯殿も先方のもので普通の床と同樣の床板張りになつてゐるが、これも日本の風呂桶を使用する習慣では困るし、又湯殿で直ぐに湯をわかす爲めに火をたく設備もせねばならぬ。

□

戸棚といふものが一つも無いのでこれもまた我々には一寸困る、例へば押入（夜具棚）といふやうなものを別に造らへなくては不便である。

□

組立方法として特に注意せねばならぬのは、材料の中で仕上げの寸法に出來て來てゐるものと、當方で適宜に切つて、適所に取付ける材料とがあつて、不慣の大工などが、うつかり鋸を入れて切つたりすると、飛んでも無い間違ひを生ずる事である。

□

材料の名稱が普通專門家の使用する名では無く通俗的な名稱を附して說明してあるので、專門家でも不明なものが澤山あるのには弱らせられる。殊に建築上の手法に到つては、在來の建築方法と

全然異つてゐるので、監督技師も充分に注意して決して大工任せには出來ない。

□

日本人がこの組立家屋の粗雜な程度に作つた家には到底も不愉快で中產階級の使用に堪うるものでは無いが、これは粗惡ながら何處やらに氣持の良い處があり、且つ形狀も垢抜けがして居り、又間取り各ドーアの位置なども結構で、簡單に洗練された無駄の無い造り方であるから、これらの點で愉快に使用が出來るのである。

□

土壁や日本家屋の造作のやうに役目の手入れや破損の心配が無いから、費用の經濟と勞力の經濟が非常である。

□

組立方法は頗る簡單で監督者が外工や鳶を巧に使用するばかりで殆んど出來上つて住まはれるやうになるので、從來の建築のやうに雜多な各種の左官とか建具屋とか經師屋とか樣々な職人に頭を痛める必要がないだけでも氣持が良い、從つてまたそれだけ經濟に出來る譯である。

□

昨今我國建築專門家の間にも、又生活改善會等に於ても、八釜しく云はれてゐる住宅改良の點からしても、この組立家屋の使用は極く適當であり且つ此使用により吾人の生活が總てに於て經濟的に且つ活動的に又動作も敏捷になる事であると思ふ。先づ第一に塵が少ないし、設備が我國のやうな寒國に適してゐる。又戸障子、雨戸等の手數を省き掃除なども簡單である爲め人手が省けるので衛生上から云つても經濟上から云つても將來大いに奬勵すべきものである。

——和田順顯氏は東京府下池袋一四十五番地に住んでゐられるから何かのお問合せは直接にお願します親切に教へて下さる筈です。——記者——



「住宅」

居構百選（其十）

葛野建築事務所主
會員 工學士 建築士 葛野壯一郎

廿三 コンクリート、ホームス（其一）

英國

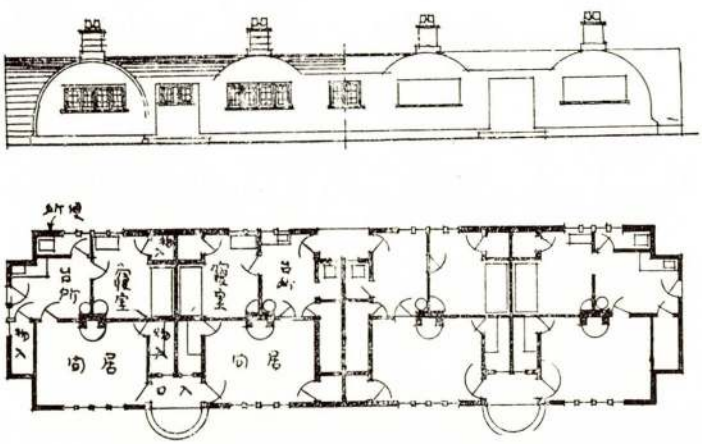
近着のスタヂオ年鑑（一九二〇年版）にモウリス、エス、アール、アダムス氏が、コンクリート製の簡易住宅即ちコンクリートホームスの提供を爲て居ります。第廿五圖は其一例で平屋建一戸三室、一棟四戸連續の長屋建で有ります。全部床から屋根までコンクリート構造で、圖に覽る如く圓筒形の圓屋根圓天井で在來のものに比べて頗る外觀を異にしたもので有ります。一戸の建坪約十二坪、居間の大さ約十疊敷、臺所が六疊敷、寢室が八疊敷、外に便所と薪炭食料品用の物入が完備して居ります。

凡そ文明國といふ文明國は凡て一樣に住宅には困って居るが、殊に英國の如きは其最著しいもので、大戰中殆んど住宅の新築或は修繕及び新らしい經營が中止された結果、現在では極度に住家の不足を告げて居るのみならず、急に是を救濟するにも、建築費が戰前に比して少なくとも倍額、物

によつては五倍六倍と騰貴して居る始末、如何とも出來ないといふ現狀で有ります。其結果として種々の新案が出來て居るが、中でも此コンクリートホームスの如きは其最優出せるもので、今日の如く木材が高値で困る場合、我邦でも相當應用の餘地が有らうと思はれます。

コンクリートの應用として其最すぐれた点は、建物の基礎から壁床屋根に至るまですべてが一樣のモノリシックキャラクターを持ち、物理的或は化學的變化を受ける事がすくなく、耐火耐久性に富んで修繕の面倒がすくなく仕事も至つて簡單で一戸二戸では安價にも行くまいが百戸二百戸とまとまれば非常に割安に出來る事で有ります。市營住宅とか大な會社の社宅とかいつたものに、斯の種の構造を應用するならば或は建築費としては最初必ずしも木造に比して割安で無いかも知れないが、經常維持の費用が殆んど無くなる點と、其耐火性に富む事に於て、遙かに利益で有るに相違ないので有ります。其構造樣式に就ても本案の如く普通の桁梁式でなくアーチ式の圓筒形とする事は

第廿五圖



廿四 コンクリートホームス（其二）

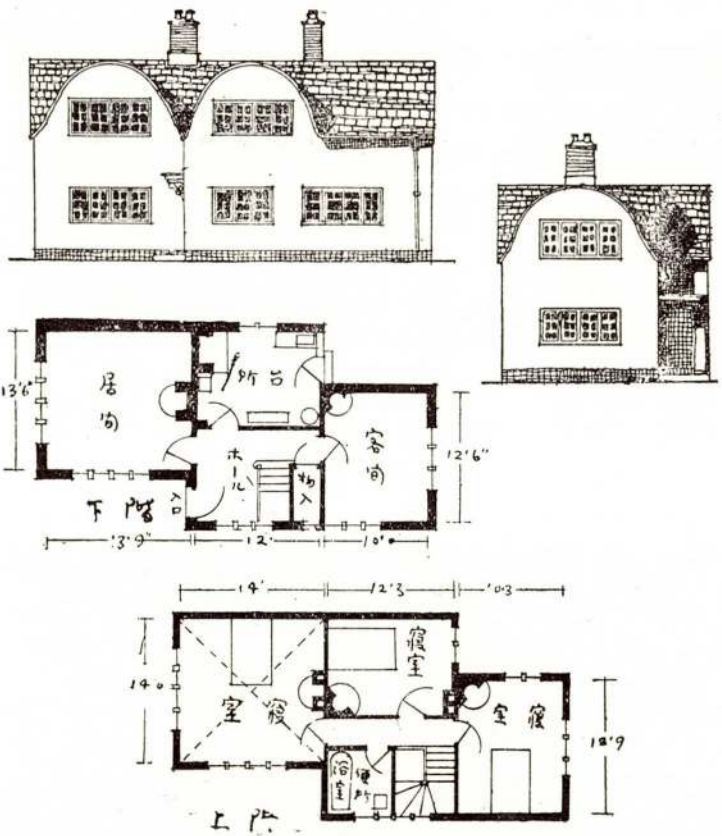
材料の無駄がなくて是亦非常に經濟的のものとなるので有ります。（スタヂオ年鑑一九二〇年版）

英國

第廿六圖に示すものも前例と全じくコンクリート住宅の一例で、是れは一戸建二階屋の例で有ります。建坪約十三坪、約八疊敷の居間、六疊敷の客間と臺所、四疊半のホールが有り、二階には大少三箇の寢室と便所が有る至極便利よく出來た間取で有ります。階下に便所の無いといふ事が吾々日本人には不便を感ずるところで有るが、階段下を利用して便所とすれば此儘直ちに我邦にも應用出來ると思はれます。

序に英風住宅に就て最近特筆す可き事は、家がダン〳〵小いさくなつて無駄な場所や室を設けなくなつた事で有ります。家内不相應に大きな住宅を有つ事は、餘計な奉公人も要れば維持にも多大な費用を要する、また人間生活の根本義からも間違つて居る道理で有ります。斯麼點から其のプランが所謂英國風から漸次米國風殊にバンガロータイプに近づきつゝ有る點を著しく認める事が出來るので有ります。（未完）（前同）

第廿六圖



✤新聞記者の見た名士の邸宅 (八)

讀賣新聞記者　梅谷孫吾

═柳原伯爵邸═

一　どちらかと云へば陰氣な邸

麻布材木町で電車を降りて左の一本通を行くと左側に黒塀が一寸廻つた取附の餘り立派で無い邸がある、私は色々な用事で何度も何度も此邊へ出掛けて行つたことがあるが、曾つて氣が注かなかつた位である。

何んでも令嬢が或る富豪へ嫁入するとかせぬとかといふ事に關係して、其富豪のお家騒動があるといふやうな噂で、私はそれを確める爲に義光伯爵を訪ねた事がある。結局問題は根も葉もない風説に過ぎない事が解つて戻つたが、それは去年の冬の頃のある日の夕暮方であつたと記憶する。

しよんぼりと電燈が點いてゐるが、眞黒い門柱へ出た名札も相等古くなつてゐるし、妙にこう賑やかな氣分の出ない邸の入口である。門の中の直ぐ左側に巡査の住んでゐる家があつて、そこからだら〳〵と下りて行つて正面の玄關へ出る。

玄關の前には、こんもりとした植込があるが、其邊一帶に赤土の濕氣の多い色が見えて、こんな事を云つては甚だ失禮だが、堂々たる伯爵家といふよりは、その玄關へ七五三でも張り廻すと、一寸した天理教會説教所といふ位の格式である。

二　絨緞を敷いた玄關の八疊間

私が案内のベルを押した時はもう邸内は眞暗で左手の御勝手口の方に燈が見えてゐた、ベルを二度許りも押すと、玄關の内が急にぱつと明るくなつて、大きな入道坊主の袴をはいた姿が影坊子に

映ると、やがて正面の障子の眞中程にかけてある掛錠をがち〳〵とはづす音がして、同時に左右へばつと開いた。

玄關の中は八疊敷許りの室で、眞白い襖に違ひ菱の模樣か何にかで、一寸芝居の代官所の背景といふ樣子だが、室一ぱいに海老茶色の緞通を敷き詰めて、天井や襖などが日本風なのとは反對に、左隅に帽子掛の化粧臺、その横に陶器製のステッキ立てなどが置いてある。

緞通の樣子で『これは靴をはいて上るのかな』と思つたが、書生がべつたり座つて應對してゐる處を見ると然樣でも無いらしく、私も此邊の要領が面倒臭くなつたから、其儘上り鼻に腰を掛けてさて色々な事を訊き出した。

年の若い袴をはいた書生は新聞記者といふ者の無遠慮な質問に大分面喰つた樣子だつたが、私としては結局こうした人を相手にしてゐる方が仕事が仕易いので、盛んに根掘り葉堀り事件を調べて大体の要領は得て了つた。

丁度伯爵は華族會館へ行つてゐる不在中だつたし、夫人に會はうかとも思つたが、それは止めにして其儘歸らうとすると、横手の唐紙を開いて、一人の禿頭の男が出て來た、そして『私は當家の家令だが』と云つて、改めてまた頭を下げて『何分とも全然虚空の事が世間へ傳はると當家の名前にも係りますからどうぞ宜しくお賴み申ます』と云ふ私はくす〳〵笑ひ出して『賴まれても嘘の事は書きませんよ』と云ふと『御尤々々』と、爺さん頻りに感心して居た。

═永井氏の新邸═

一　成金から拵へて貰つた新邸

新代議士の永井柳太郎氏、此議會には大分花を咲かせて天晴れ新人振りを示したが、其戸塚町字諏訪の新邸が亦面白い話の花を咲かせてゐるといふのは、あの邸は或る成金が氏の爲めに四萬圓を投じて新築して呉れたもので、氏は代議士には當選する新しい邸へは入るで此春來大分有封に入つたのだが、何が扨て槿花一朝の哀れを止めた戰爭

金の末路、此成金もまた悲慘を極めた結末を告げた。

それは良いとして、新邸へは入つたものゝ金は成金が支拂ふ約束であつたのが、急に支拂處の騒ぎでは無くなつたので、物の順序として債權者は代議士永井柳太郎に向つて來た。さあ流石の小大隈、永井先生も屹驚したが今更仕方がない。

これから政界で一人立をしやうといふ矢先にこんな事があつて、入つた許りの此新邸をおめ〳〵空け渡すのも殘念と、目下其始末に東奔西走の有樣だと云ふ——一体が開けつ放しの痛快な人だけに我々若い者とは話が合ふ爲か、私許りではない多くの若い記者達は何か外交的な事件が有ると氏の許へ馳け付ける、その意味に於てもあの邸宅は永久に永井氏の物であらせたいと念じて居る。

二　箱へ入た感じのする玄關

早稻田の終點で電車を降りると辻待の車へ乘つて五拾錢、曲りくねりした道を行くと小さな氏神の神社があつて、それを右へ折れると門の柱だけを煉瓦で積上げた永井氏の新邸へ突當る。まだ庭の手入ごこちの騒ぎではなく、門柱だけあつて塀さへ出來てゐないといふ有樣、玄關口から直ぐ横手に汚らしい長屋などが見えたりしてゐる。

ごろ〳〵石を踏んで右手の玄關へ立つてベルを押すと、直ぐに書生が出て來て開けて呉れるが、大抵の者は一歩足を玄關へ入れると吃驚する、吃驚すると云つても化物が飛出す譯でもないのだが玄關の内は前を見ても左右を見ても、丁度擊劍か柔道の道場へでも來たやうに、全部白木の板張りに成つて居る。

何か塗るとか、それとも今少し裝飾染みた事をしなくては隨分思ひ切つて殺風景なものだ。正面が戸の眞中に帶のある二枚立の白木、左手の應接室の入口も其通り、床にも敷物が無し、天井も白木、大きな箱の中へ入つたやうな感じがする。度々出掛けて行く中には馳れて來て『こりあ丈夫で良いな』と思ふやうになつたが、實は第一の訪問には私も些か度膽を抜かれたのである。

三　寫眞撮影所のやうな應接室

應接室がまた却々振つたものである。入つて直ぐの感じは先づ寫眞の撮影所へ入つたと云ふ處だ正面から左手一帶、及び右手はストーブが中央にある其處まで、何れも擦硝子張の頑丈な戸で、たゞ入口の側と右手の一部分だけが壁になつてゐる入口の側にはピアノを飾つて、左手の處には確か外國の大きな叢書の箱が置いてあつたと思ふ。

室内の椅子もまた木材部の多いゴヂック式の物で、天井に矢張り擦硝子の大きなほやの中に電燈が点いて、薄どんよりとした光の下に、此椅子に腰掛けて主人公の出て來るのを待つてゐる夜の訪問の時などは、本當に配所へ來てゐる——ナポレオンのヘレナ島の生活といふやうなものが思ひやられる位に、一種の淋しさを覺えざるを得ない。

一言にして云へば、餘りにごちゃ〳〵した人間味のない温か味の無い應接室である。餘りに不足してゐるものゝあるやうな感じのする室である。新進の政治家永井氏の爲めに私は訪ねる度毎に、やがて人間味の勝つた應接室に自然に變つて行く日の近かるべきを祈つては歸るのである。

═ 伊集院大使私邸 ═

一　或家眞暗な闇の中を訪ねて

何時だつたか忘れたが、今の外務省情報部の總裁伊集院彦吉氏がまだ伊太利に大使として行つてゐる時の事で、内田外相が重ね重ねの外交上の失策に引責辭職と決定したとのある確實な方面からの情報（當時はこれが事實であつたが後に内閣の事情によつて辭職を思ひ止まらせたらしい）によつて、政治部記者の活動から私の店で號外を發行したが、其又内田外相の後任が、當時賜暇を得て近く歸朝すべき筈だつた伊集院彦吉氏だといふので、私は命令によつて、大使からの最近のたよりもがなと思ひ、且つは大臣内定の祝辭も述べたいと、府下東中野に氏の留守宅を訪ねて行つた。

其時はもう日はとつぷりと暮れた月もない夜の事で、東中野の停車場から車の上で搖られ乍らも眞暗な闇の中を、あつちへ曲り此方へ曲りして連ばれて行くのが心細い位だつた。

西洋風の門の前で車を下りた私は、右手の小さ

な潜り戸の開いてゐる處から入つて行くと、直ぐ其處に門番兼邸内監視といふやうな格の巡査が住んでゐて、明々と電燈をつけて賑やかに笑ひ崩れてゐる、妻君もゐるし子供もゐるし、外に女もゐる樣子で、私が『御免下さいまし』と呼ぶと、少し計り吃驚した調子で『はい』と云つて妻君らしいのが顔を見せた。

二　玄關の方面さへ解らぬ暗さ

實は門内へ入りは入つたものゝ、一寸先も眞暗で、正面に二階建の洋館のあるのだけは解るけれども、一体何處が勝手なのか何處が玄關なのか、初めて行つた私には殆んど見當がつかないので、折角笑ひ興じてゐる巡査の妻君を驚かしたのである

處が妻君は親切に『眞暗ですからお解りになりませんでせう、私がお知らせして參りますからあなたは玄關――此突當りが然樣ですから、玄關の方へお廻り下さいと云ひ乍ら、直ぐにすた〳〵と闇の中へ消えて行く、私もまた危なつかしい足取りをして玄關へ突立つて内から扉の開くのを待つてゐた。前が扉であると云ふ事は解るが、さて其扉の中がどんな風になつてゐるのか勿論解る筈もない。

其中に、がたことと内の方で音がして、草履の響らしいのが扉の側へ來ると同時に、ぱつと電燈が点いて明るくなつた。私はほつと生返つたやうな心地がした。見ると大きな硝子の入つた戸の中には絣の着物を着た青年が立つてゐる。

扉の内は石を敷いた立派な玄關で右手に帽子掛やらステッキ差らやの着いた臺があり、正面から右と左に廊下が切れて、一寸見た處便利の良さそうな邸である。合ひ憎く夫人は牧野伸顯子の處へ行つてゐて不在、私は玄關の石敷の上へ立つた儘大使は名代の筆不性で一月に一本の手紙は珍らしい位だといふやうな話を聞いて戻つた。

いまだにあの暗い邸の有樣がちら〳〵と眼の先へ浮ぶやうだ。

═ 加藤恒忠氏邸 ═

一　假名で「かとう」と書いた表札

加藤恒忠氏が一番先きにオムスク政府へ日本代表者として行く時に、もう出發するだらう〳〵と噂が立つてゐるに拘らず、却々出掛けそうでも無い、或は秋の空合のやうな根底のない外務省だか

らシベリア大使の必要無しとか何とか成つたのではあるまいかと思ふ考もあつたので、其當時のある夜に仕事に出掛けた歸途を麻布木材町の氏の邸を訪ふて見た、何んでも品川の森村市左衞門翁が今日明日といふ危篤の狀態にあつた頃の事である

一の橋の停留場から左へ折れて行つて氏の番地を探したが却々見當らない、そしてまた外務省の加藤氏と云つても却々知つてゐる人が無いので弱つて仕舞つて、それでも其邊をぐる〳〵廻つて歩るいてゐる中に、一寸した大きな邸の瓦斯燈にやもりが一疋びつたりと附いてゐるのを發見した。

やもりがこんな處へ附いてゐるのを初めて見たので面白くなつて見てゐると、其瓦斯燈の番地が加藤氏と同番地なので、はつと氣がついて表札を見ると、其邸は然樣ではなかつたが、その隣りに假名でかとうと書いた貧弱な名札を出してゐる家のある事を見つけた。

二　金持の隱居屋敷といふ印象

黑く塗つた潜りの小さな門で左手に大きな物置のやうな建物があつて、門の樣子許りで見ると、他人の地内に住んでゐるとより見えない。此門を潜ると、左側に勝手口があり、石を敷いた正面に構子戸に硝子の嵌つた玄關が見えてゐる。

玄關の方は二階建だが、左側一帶は平家の餘り立派でない家で、狹い勝手の庭先には澤山の下駄がごて〳〵と並んでゐた。丁度加藤氏は鎌倉へ行つたとかで留守であつたから、私の知りたい事は殆んど何者も要領を得られないので、甚だ不遠慮だと思ふたが一寸電話を拜借して此事を社の方へ報告しやうと思つて電話を賴むと、私と應接に出た令息が『此方です』と快よく案内して呉れた。

電話は茶の間の横手にあるのだが、私が電話を掛け乍ら見ると、廣い茶の間の障子を總て開け放して、夫人と令嬢が頻りに裁縫をやつてゐる。室の二方が廻り椽側になつてゐて、庭には靑葉が心地よさそうに見えてゐた。

此茶の間の横手の廊下が二階の梯子段につゞき正式の客は正面二階建の玄關に迎へて、すぐに二階へ案内するもの〻ようで、私としては、外交官の家といふよりは、先づ餘り訪問客もない金持の隱居屋敷とでも云ひたい印象であつた。



日本庭園考〔庭園〕（七）

會員 農學士 大屋靈城

三 日本庭園年表（續き）

第七期 江戸時代（自紀元二二六三年至同二五二六年）（續き）

二二六四	慶長九年	金地院庭	本光國師	小堀遠洲	現		
二二七五	元和元年	智積院庭	玄宥	未詳	現		
二二八四	寛永元年	後樂園	德川光圀	賴房	存		
二二八四	同元年	蓬萊園	松浦鎭信	未詳	現	存	
二二九二	同九年	廣尾山莊庭	堀川正敦	同			
二二九七	同一四年	仁和寺庭	德川家光	同	現	存	

二三〇一	同	一八年	詩仙堂庭	石川丈山	未詳	
二三〇四	正保元年		大德寺塔頭孤蓬庵庭	江月和尚	小堀遠洲	現存
二三一五	明曆元年		修學院離宮	後水尾天皇	未詳	現存
二三一六	同	二年	曼珠院ノ庭	眞尙法親王	小堀遠洲	
二三一七	同	三年	吹上苑	德川常憲	未詳	
二三二一	寬文元年		占風苑	市橋下總守	同	
二三二四	同	四年	濱苑	德川綱豐	同	現存
二三二七	寬文七年		戶山園	德川光友	同	名園
二三四〇	延寶八年		林丘寺庭	後水尾皇女	同	
二三四八	元錄元年		六義園	澤柳侯	同	
二三四八	元錄元年		西山之莊	德川賴房	同	
二三七六	享保元年		桃園	德川吉宗	同	
二三九五	同	二〇年	仙洞御所	德川將軍	同	現存
二四〇八	寬延元年		清水園	毛利侯	同	
二四〇九	同	二年	樂只館ノ莊	長谷川主馬	同	
二四二三	寶曆一三年		角筈別業	磯野丹波守	同	
二四三二	安永元年		狀見庭	伏見屋	同	
二四四一	天明元年		高田蓑芙蓉城西長四郎		同	
二四四九	寬政元年		浴恩園	白川樂翁	同	名園
二四五〇	同	二年	有馬侯燕專蔔廻家	有馬譽純	同	

二四五一	同	三年	酒井兼美堂ノ庭	酒井氏	未詳	
二四五四	同	六年	三廓四園	白川小峰城	同	
二四五九	同	一一年	太田錦城園亭	太田錦城	同	
二四六二	天和	二年	尾張侯海荘	尾張侯	同	
二四六二	同	二年	柴野氏對嶽臺	柴山栗	同	小赤壁
二四六二	同	二年	白金山荘	蜂須賀侯	同	
二四六四	文化	元年	巽園	林氏	同	
二四六四	同	元年	白賁墅	南部	同	
二四六四	同	元年	木下侯廨布甲第ノ庭	木下侯	同	
二四六四	同	元年	新見氏花園	新見氏	同	
二四六四	同	元年	縮景園	淺野侯	同	現存
二四六五	同	二年	玉池精舎ノ庭	大窪天氏	同	
二四六七	同	四年	衆楽園	佐竹侯	同	
二四六八	同	五年	林述齋別業	林述齋	同	
二四六八	同	五年	林氏六間堂ノ庭	同	同	
二四六九	同	六年	牧野侯居第ノ庭	同	同	
二四七〇	同	七年	柳營内苑	徳川氏	同	
二四七四	同	一二年	會津侯中野園池	松平肥後守	同	
二四七四	同	一二年	山王社別當圓乘院庭	徳川代々將軍	同	
二四七四	同	一二年	王子村金輪寺庭		同	

建設紀元二	建設年號	公	名	所在地	設計者又ハ改良者	面積	維持費（年額）	管理者	備考
二四七四	同	一二年	近藤重藏擁青城	近藤守重	未				
二四七四	同	一二年	濱町姬路侯別業	姬路侯	同				
二四七五	同	一三年	西尾侯別業	西尾侯	同				
二四七八	文政	一三年	中野氏向島別業	中野播磨守清義	同				
二四七八	同	元年	雜司ヶ谷花里	松平大炊頭玄齋	同				
二四八四	同	七年	秋山內記圭田揚別業	秋山內記	同				
二四八七	同	一〇年	松平高田別業	松平壹岐守	同				
二四八八	文政	一一年	碩翁隱去	碩翁	同				
二四八八	同	一一年	紀州西苑	紀州侯	同				
二四九〇	天保	元年	聽松居	品川彌次郎	同				
二四九四	同	五年	麻布長者ノ庭	丸下久保帶刀	同				
二四九五	同	六年	樂其樂園	大命守規窖	同				
二五〇八	弘化	五年	水戶侯下邸山梅村莊	水戶侯	同				
二五一三	嘉永	六年	豐田氏大崎別業	豐田氏	同				
二五一四	安政	元年	錫秋園	林述齋	同				
二五一五	同	二年	舊內裡御苑		同				
二五二一	文久	元年	清水家臥龍梅	清水氏	同				

第八期　明治大正時代（自明治元年至大正九年）

建設紀元二	建設年號	公	名	所在地	設計者又ハ改良者	面積	維持費（年額）	管理者	備考
二五三三	明治	六年	上野公園	東京府	未詳	九八、八八町	一圓	宮內省	明治六年公園的設備ヲ始ム

二五三三	同	六年	濱寺公園	大阪府	未詳	四九、〇二	七、一三〇	大阪府	同
二五三三	同	六年	住吉公園	大阪府	〔本郷高徳大屋靈城〕	一二、八四	六、九八〇	大阪府	同 大正七年改植ス
二五三三	同	六年	常盤公園	茨城縣	未詳	七、六〇	一、九九五	水戸市	天保十二年長尾左太夫設計 明治元年設定
二五三三	同	六年	東遊園地	兵庫縣	同	四、〇六	一、四七七	兵庫縣	兼六園トモ稱ス
二五三四	同	七年	金澤公園	石川縣	同	一〇、一七	三、六六三	金澤市	明治四十四年改植ス
五三五	同	八年	栗林公園	香川縣	同	五五、三六	六、六四四	香川縣	
二五三五	同	八年	福山公園	廣島縣	同	一、四三	一、二五七	〔公園保存會〕	
二五三五	同	八年	櫻ヶ岡公園	宮城縣	同	一、三七	三七〇	仙臺市	
二五三七	同	九年	東公園	福岡縣	同	三六、四八	二、〇〇〇	福岡縣	
二五三七	同	一〇年	千歳公園	山形縣	同	五、二〇	〃	山形市	
二五四〇	同	一三年	奈良公園	奈良縣	公園係	五二九、七五	三〇、〇〇〇	奈良縣	山地四六三町 平地六六町
二五四一	同	一四年	西公園	福岡縣	未詳	一六、四六	二、〇〇〇	福岡縣	
二五四四	同	一七年	後樂園	岡山縣	同	一七、一七	〃	岡山縣	
二五四四	同	一七年	淺草公園	東京府	同	一〇、二八	一五、〇〇〇	淺草區	改植計畫中
二五四四	同	一七年	躑躅ヶ岡公園	宮城縣	同	一、四八	〃	宮城縣	
二五四八	同	二一年	岐阜公園	岐阜縣	岐阜保勝會	三、二三	五、〇〇〇	岐阜市	銅像建設費維持費中ニ含ム
二五五三	同	二六年	吉野公園	奈良縣	未詳	一八、〇〇	六〇〇	奈良縣	
二五五九四	同	二七年	芝公園	東京府	同	四八、六七	二〇、〇〇〇	芝區	
二五五六	同	二九年	千秋公園	秋田縣	長岡安平	一八、二四	二、三三二	秋田縣	明治三十一年竣功
二五五七	同	三〇年	熊本市公園	熊本縣	未詳	一、四六	六六〇	熊本縣	
二五五七	同	三〇年	琴彈公園	香川縣	同	三六、八二	一〇、七七〇	香川縣	
二五五八	同	三一年	日比谷公園	東京府	辰野氏外四名	一八、〇〇	二〇、〇〇一	東京市	改植計畫中
二五五八	同	三一年	箕面公園	大阪府	未詳	八五、三八	五、五一〇	大阪府	

二五五八	同 三一年	比治山公園	廣島縣	本多靜六 松村任三	一六、八七	八〇〇	廣島市	
二五五八	同 三一年	江波山公園	同	未詳	三、〇六	一四〇	同	
二五六〇	同 三三年	舞子公園	兵庫縣	同	三、八五	八〇八	兵庫縣	
二五六三	同 三六年	諏訪公園	同	同	八三	一、九一九	神戸市	
二五六三	同 三六年	長等公園	滋賀縣	西村周三郎 小川善太郎	一〇、〇〇	四七〇	大津市	
二五六七	同 四〇年	前橋公園	群馬縣	古宇田實	三、七五	一、〇四四	前橋市	
二五六八	同 四一年	天王寺公園	大阪府	井原百介	一六、六六	二〇、〇〇〇	大阪市	
二五六八	同 四一年	圓山公園	東京府	未詳	九、七六	—	京都市	
二五六九	同 四二年	會下山公園	兵庫縣	同	四、五一	八七四	神戸市	
二五六九	同 四二年	名古屋山公園	愛知縣	本多靜六 鈴木禎二	〇九	三四	名古屋市	
二五六九	同 四二年	鶴舞公園	愛知縣	同	二四、五八	一〇、五五〇	同	
二五六九	同 四二年	横濱公園	神奈川縣	茂出木朝二郎	六、四三	五、二七六	横濱市	明治四十四年竣功
二五七〇	同 四三年	大急山公園	兵庫縣	未詳	六、七七	一、九一〇	神戸市	
二五七〇	同 四三年	豐公園	滋賀縣	小川治兵衛	二、八三	三〇〇	長濱市	大正四年竣功
二五七一	同 四四年	松島公園	宮城縣	馬場得枝	九一六、四三	六、〇〇二	宮城縣	明治四十五年竣功
二五七一	同 四四年	湊川公園	兵庫縣	不詳	三、五五	一、二七八	神戸市	
二五七一	同 四四年	溫泉公園	長崎縣	同	五四、六六	三、〇〇〇	長崎縣	大正五年竣功
二五七二	同 四五年	姬山公園	兵庫縣	福屋富三郎	七、〇〇	二、一四三	姬路市	
二五七四	大正 三年	掃部山公園	神奈川縣	茂出木朝二郎	一、四三	一、七五八	橫濱市	
二五七五	同 四年	琴林公園	香川縣	不詳	一六、〇一	一七八	香川縣	
二五七五	同 四年	和歌山公園	和歌山縣	本多靜六	二〇、七二	未定	和歌山市	大正九年竣功
二五七六	同 五年	岡崎公園	京都府	不詳	八、七三	五、四〇〇	京都市	
二五七六	同 五年	井ノ頭公園	東京府	本多靜六	二四、二一	二、〇〇〇	東京市	



「都市」

將來の『市加古市』(5)

ウオルター・ディ・ムウディ著
Z Y 生譯

第四章　米國諸都市の成長、缺乏、危險(つゞき)

團躰或は社會に對する生ける個人の肉躰或は生命の平均價格は一人二千九百弗に當ると經濟學者は評價して居る。國民の富はその人口率に割合する。これに基いて考へると千九百十五年十月に於ける市加古市民の經濟的價格は七十一億五千五百十萬五千四百圓に相當し、正に千八百五十年に於ける合衆國の評價せられた富力全躰に等しいものである。

今日合衆國に生じて居る人口增加率は、若し廿年前であつたならば、信ぜられなかつたであらうと思はるゝ程度にある。都市の成長之のものゝ著しい發達は我國內の新しい或は之れ以上の潛勢力ある部分に限られるのではなく、凡ての方面に亘つて居るのである。例へば舊文明の大都市的中心

たるボストン市の如きも、廿年前には五十二萬六千五百七十六人であつた人口が、今日は七十五萬七千四百廿人となつて居る。

ニューヨルク市は半世記前二百八十六萬九十一人であつたが今日は五百六十萬二千八百四十一人となつた。

フイラデルフイヤ市は二十年前の百廿一萬九千四百六十三人から百七十萬九千五百十八人となつて居る。

アトランタ市上等な田舍町に過なかつた此町も今は人口十九萬五百五十八人を有する、廣大な西南地方の大きな市となつて居る。

バアーミングハム市、廿年前南方のピッツブルグであつたが、今は人口十八萬一千七百六十二人の第一流の市となつた。

ほんものゝピッツブルグ市は四十一萬九千二百二十九人より五十七萬九千九十一人となつた。

ニユー・オルレアン市（落着きある古風のローマンチック風の）は卅六パーセントの增加率を示し人口の流入を感じて居る。

シカゴ市、中心的大都市百五十一萬八千七百四十二人より二百四十九萬七千七百廿二人に昇つた年々の增加率は、パブリヤ市が一個宛殖ゆる割合である。

デトロイト市、流星花火的に廿六萬一千六百九十三人より昇つて六十萬三千九百九十三人の高度に達した。クリーブランド市、大湖のハムブルグ市たる全市は、デトロイト市と殆ど全率に、弩砲の加く空に向て上つた。

デイトン市、前には農園の商業中心地であつたが、今は人口十二萬七千二百廿四人の多產なる製造業中心市となつた。

ミチアポリス市、我國の北方中心の前哨である全市は、八十九パーセントの增加率を持續して居る。

デンバー市、ロッキー山に於て一哩の高さにある全市は、百七パーセントの高率を保つて居る。

オクラホマ市、廿年前にはアメリカ印度人居住地域の中心地として廣大な草原中に一點を打つた趣があつたが、今は九萬五千二百六十五人の人を

誇つて居る。

ダルラス市は、四萬三千四百四十五人の人口で芽生え、小膽さうに、第一のスカイスクラッパー（帆船の項上にかくる六角帆）の帆柱を攀ぢ始めた。然るに今は大厦高樓壯麗なホテルを點綴し、十二萬六千三百六十二人の市民が押合つて居住して居る。

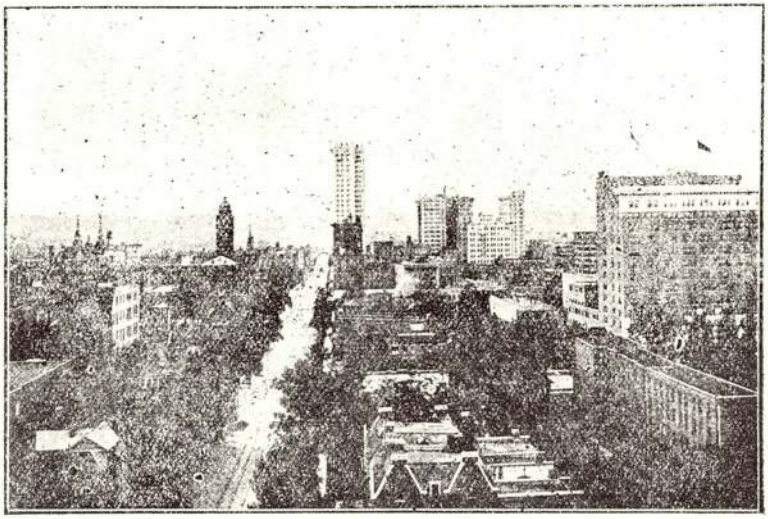
ホウストン市も同程度に突進して居る。

カンサス市、九十二パーセントの增加率をもつて急遽飛躍した。

ロス・アンゼルス市、大平洋岸南方の哨兵たる同市は、九萬六千八百五十三人發足點より五十一萬九千二百六人の到着點といふ成績で、西方のマラソン競爭を指導して居る。

サン・フランシスコ市、東洋の關門、大火地震の天災人災に因て荒廢せしめられたが、米國の前方要塞たるの壯烈な精神を有する全市は、三十二萬九千三百四十四人より四十六萬七千二百六十九人に飛躍した。

ポートランド市、中央太平洋岸のエデンの園たる全市はフッド山麓にて贅澤なひなたぼつこをし



此るた市ドルアツツヒ南方——市ムハケンミーバ州マバラア
市なとりれ一流一第のとなり口人の人二六七一八一は年廿間

て居たが、今は豪奢な暮をして居ることは二百八十二パーセントの人口增加が此を語つて居る。

シヤートル市、米國のナポリ・アラスカへの關門であつて、都市的年齡卅五才たる仝市は、今は人口卅四萬八千六百三十九人である。

スポーケイヲ市、廿年前は牧夫の商業地であつたが、今日は十五萬三百廿三人の大都市となつて居る。

廿年間に合衆國の人口は七千二百八萬五百十六人より一億二百一萬七千三百十二人に增加し、而して此增加率中二千九百九十三萬六千七百九十六人中の四十四割五分は諸都市に集中をして居る。我國諸都市の成長は驚く可きもので、之の結果を表に現はす可く完全に計算するには、餘に大き過る。殊に之れがオクラハマやロス・アンゼルスの如き、新なる都市に於てよりも、ニユー・オルレアンスやフヰラデルフイヤの如き舊都市に於て增加率の著しいのは恐らく人が驚く點であらう。此驚嘆す可き發展の重要なるは、其齊一性にある。今合衆國の二百六十七都市は人口二萬五千人を超過して居る。

以上に示す一部分の統計は、我等を驚かせ立たねばならぬ樣に、刺激を與ふ可く十分である。何故なれば若しも都市が弊害より救濟せられ、現在の驚く可き膨脹を持續するに足る適當なる援助を受けん爲には、即ち適當なる都市計劃を成就してあらねばならぬからである。然るに仝世界に先例なき程の、米國都市の人口の愕く可き進歩は都市民に何を與へたるか。科學的系統に從つて發達のために何がなされたか。根本的市民の道德的、社會的、生理的建造の爲に何がなされたか、然り公園は發展した、電燈も煌いた、運搬の迅速も實現された、學校組織も膨脹した、慈善的諸制度も培養せられ增加した。併し之れ以上に何がなされたか富は巨大なる人口の增加以上に增加したが、市民は却つて貧を以つて酬はれて居る。都市居住者は事務、工業の福利、兒童の敎育、變事に對する備なへ等に對しては、直接に必要なる實際の要求のみ與へられて、之れ以上には何物も與へられて居ない。都市彼等自身の巨大な膨脹と富の力に比例

して、正に彼等民衆は心的に、道徳的に、心理的に、生理的に――然り財政的にも――成長し膨脹する權利をもつて居るのである。

怠慢なる廿年間都市居住者は正當なる權利を退けられたのみでなく、健康は脅かされ、幸福は畏縮したのみでなく、莫大な經濟上の損失を招き、是の齎す停滯は大なる重荷を加へられた。さうこうする間に夫等の重大なる缺乏は（結局は之れを充たしてあらねばならぬのだが）益々甚しくなるのみでなく、斷わ間なく增加して居る。

米國の最大なる收得は適當なる都市計劃を施行することにある。而して之れも偶發的な氣まぐれな努力のしかたではいけない。米國人の特性として、平和と豐滿の中に多幸な生活をして居る時は呑氣であつて、怕る可き必要に面と向はねば活動を刺激せられない。さういふ場合になるとヒステリー的に性急にやりだし、從つて愚な事をするの結果に屢々なる。併し今は都市を保護する我等の知識も熟して居るから、此の舊い惡習慣に我等の活動を委せてはならぬ。適當なる都市建造に着手するは、今が時機であつて、此以上に延期する譯に行かぬ。更に換氣、流通を良くす可き空間の必要、不潔、喧騷、混亂から更に自由になること、更に引着られる環境を造ること、交通運搬を一層容易にすること、健康を再造するに更に良好の境遇を設くること――凡ての夫等は科學的なる都市計劃に於ける基礎である。我等は之れを一層廣く有效に供給す可きであらう。

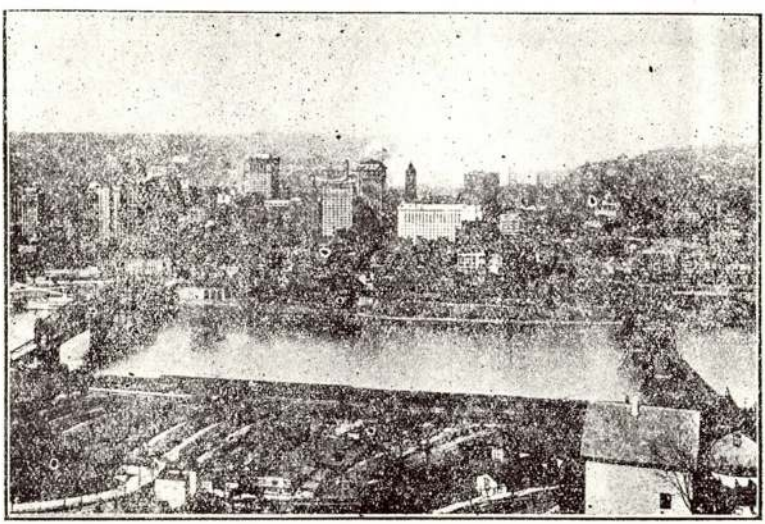
民衆に對し工業上の敎育、藝術の享樂、科學の利用に對する一切の便益、健康恢復に對する凡ての便利の供給を實現せねばならぬことを、以前よりも未來に於て一層都市は要求す可きである。かくして肉躰、靈魂、精神三備の人間が優勢になり國家は强大となり持久力が增してくるのである。

我等は無考に不注意に生活して居て、何物か我等の頭上に臨みはせんかと疑つて見、不幸と變遷を豫期して先鞭をつける樣のことをしない。斯の點は國民も個人と同樣である。殊に我米國に於て左樣である。國民の要求を知り、之れに對する準備をするとの出來るならば、如何に結果が良いこ

とであらうか。國民の不用意の例は到る處にある

年々オハイオ・ミシシッピー河に沿ふ堤防の破壞のために生ずる洪水によつて、廣大な、豊饒な人口多き地方が何百萬弗の損失を蒙むつて居る。毎年新しい巨額は損失を忍ばねばならぬ。竟に災害は極點に達し千九百十三年此地方のボストンともいふ可き、デェイトン市は經濟上人命上怕るべき悲劇に達し、五百廿一人の貴重な人命と、表面上の損失一億六千三百五十六萬四千七百九十三弗の損失を招いた。若しも必要ならば如此損失を防止す可き事業を起すために幾億の投資を爲て政府の援助を與ふ可きに、之れを爲ないといふは憐れといふも又一種の犯罪である。着手當時の費用は莫大ではあらうが終には之れを補つて餘がある筈である。

合衆國天氣豫報局に據れば、千八百卅二年から千九百十三年の間に十九の洪水が生じ、ピッツブルグ・シンチナッチ、カイロにては五呎或は之以上の浸水であつた。千九百十三年四月一日シンシナッチーにては七十呎、增水標以上に上る廿呎の



ピッツブルグ市――此工業市は人口一八九八年に四一九二二九人なりしが一九一八年には五七九〇九一人となれり

極大量に達した。此洪水の大部分はオハイオ流域に於ける強雨に原因して居る。

千九百十三年三月の大洪水は、既に十分水にて飽和せる地面に過量なる降雨があつたことに原因して居る。オハイオ州の百以上の自治市が此の災害を受け、直接損害を蒙つた人數百卅八萬八千人浸水家屋數四萬六百卅七戸、破壞された戸數二千二百二十戸に達して居る。鐵道の損失一千六百十六萬八千五百五十五弗に昇り、電信電話會社は二百萬三千百七十九弗の損失を受けた。十五區域に於ける、建物、橋梁、大道、熟した又豊作を豫想し得た農作物、田圃、家蓄の如き他の財產の損害事務の遲滯によつて發生した損害、合せて一億四千九百卅九萬三千四十九弗に達し、全總額一億六千三百五十六萬四千七百九十三弗に及んで居る。此怕るべき狀態は一箇の洪水の損失を現して居るのである。千九百十三年の洪水一回の損失高を以つてしても、百九十八哩の道路改修、公園、遊歩街、運輸機關の恢復を伴へる全市加古都市計劃の費用を補ひ得るのである。左樣いふ週期的な洪水を防止する機關を構成するには幾何の失費を用するかは知らぬが、唯一回の洪水の價——一億六千三百五十六萬四千七百九十三弗——は殆どパナマ運河開鑿費の半分に相當して居る。之れ丈けの額を以つてすれば、オハイオ及びミスシッピーの谿谷を、かかる致命的な荒癈の循環から救ふたであらうと先づ確信をもつて言ひ得るのである。此莫大な損失は五百廿一人の人命の損失といふ償ふ可からざる價値を含んで居ない。私は此地方に住する機械技師に斯る損害を阻止し得べき或方法を暗示した。併し此全躰の問題に就て未だ自分が無知であることを彼等に非難された。併しオハイオ州憲法の下に、二百弗の入費にて循環的な洪水を防止する計劃を以つ『ミアミ保存地域』を組織したことを知るを得たのは賀す可きことである。月並にも見ゐるが、採用された方法は長年月間機械技師間に知られて居る乾水池計畫である。繁榮なるオハイオ谿谷ーミアミとして知られ居るーの民等は遂に過去の洪水は全く不必要のものであるといふ說の下に事業を起し未來には斯る危險に全然浸されな

いものと決心をして居る。事業の財政は公債によつて居る。しかも之の安全費用が、水害の爲の財産喪失額が一億弗に達して居るに、二千萬弗で濟んで居る――どこに於ても常に左樣であるが――事實適當の計畫が巨大の利益を示し、莫大の損失を救ふことに就ては言ふ迄もないことである。

千九百十四年合衆國に於ける家畜の流行病のために所有者は五六百萬弗の損失を招いた。廿二州の間に十二萬四千頭の動物が殺された。イリノイス州は最も損害が激甚で、五十一郡がその災害を蒙むつた。發生の源因はミシガン州ナイルスに於ける州の公醫が誤診をした事にあると言はれて居る。此家畜病は百年間も地を荒して居るので、獨逸、ポーランドでは、病は既に事實驅逐されて居る。合衆國では六回異つた場合――千八百八十年千八百八十四年、千八百九十年、千九百二年、千九百八年、千九百十四年――に現はれて居る。就中千九百十四年の發生が最も甚しかつた。合衆國ではその豫防の方策を採用する代りに貴重な家畜を屠殺して居る。而して所有者は幾分が當局者より市價に準じた賠償を受けて居る。我等はいつか此疫病の攻撃を免れ、我國に於ける幾千の家畜に怕る可き損失を與ふる破壞をさせざるに到るであらうとを、神の攝理の特別なる施に依賴して置く可きであらうか。否是は恰も駝鳥が沙中に頭を埋めて安全であると思つて居るのと一般で、此災害を豫知するに無策の致す處であると言ふ可きである近眼と不用意の爲に、その疫病の襲來に任せ、竟に斯の結果私有權と私有價値とを殘忍にも無視するが如きことゝなつて居る。是を避くるには世界の舊い家畜國の經驗に徵して得る處があるであらう。仝年三月國會開期の終になつて、下院は仝病を根絕し、損失に支拂ふ額二百五十萬弗を協贊した。直ちに州當局中央政府當局等共に全力を盡して該病の驅逐を始めた。

パナマ運河の千九百二年より千九百十七年に到る政府特別支出の全費用は三百九十六億百五萬六千三百十四弗に達して居る。千九百四年から千九百十六年間の開鑿費は二億四千八百五十二萬三百四十三弗である。總計、乾水開鑿費は一億三千卅

七萬八千三百六十四圓で、浚泥費一億一千八百十四萬一千九百七十九弗である。千九百十六年六月の終、作業と維持の全費用六億九千九百九十七萬五千十五弗であつて、此の額の半以上即ち三億五千百卅三萬五千六弗はガィラード（前はキュールバ）堀割に費してゐる。增加せる失費は運河の北方のゴールド並にコントラクトアスの諸丘の兩岸が傾斜した爲に、運輸を中止し、全年集むる通行稅がとれなくなつたとに源因して居る。千九百十五年千九百十六年間に於ける運河傾斜のための全損失は、七億八百九十九萬三千三百九弗の額に達して居る。以上は運河當局の統計である。

グエーザルス將軍は政府をして幾百萬弗を失費せしめた兩岸の傾斜も、もしも政府が運河地域の地層の性質に關する地理學者の言葉を採用しなかつたならば、決して起らなかつたであらうと述べて居るが、確に彼の言には權威がある。斯の問題に就ての彼の言葉は次の如くである。

『運河の兩岸一哩間の全域に孔を穿ち、而して岩石の種々の層の耐力を測定し、かくして新なる變化が生じた時に、新しい狀態の下に此の岩石が如何に耐ゐるかてふことを計算して置いたならば、凡ての事は避け得られたであらう。併し、地理學者はその運河の特別なる地方性によつて何等の困難も生じないと言ふ事を斷定した。故に余は今回の事變を惹起することより生ずる失費を實際に計ることを考慮しなかつた、早き頃よりその變事を推測して居た。』

自然的な傾斜は豫想することは出來ぬ。併し機械工學は穿孔を設け得ることを要求して居るのである。その費用が縱し幾何であつても、確に七百萬弗に比すれば極く輕いものである。若しも前より準備てふことを學んで居たのであるならば、かかる荒廢と悲劇と經濟的損失とによつてのみ覺醒する如き愚を演ずる筈でないではないか。さういふことから、結局合衆國は勇敢なる國民性を形造るに到るであらう。

千九百三年市加古市に於けるアイロクワィス坐の大火―世界をして恐怖せしめた戰慄す可き大火

は日曜日の晝演技の間に起つたのである。場内に鳴り響いた『火事だ』といふ最初の叫あつてから、半時間にして殆ど六百の死骸がギャレリーに堆まれた。その大部分は婦人小兒であつた。直ちに市加古市會は藥効最も著しい布告を通過させた。開演中は各劇場に消防隊を詰めさせた。時遲れの豫防が實施せられるためには—此れ事件が生じてしまつて用意すると言ふ我國の一般的傾向によつて—一千人の半數以上の犧牲が拂はれねばならなかつたのである。

千九百四年紐育市の東河に碇泊中であつた汽船スロカムの火災は九百五十八人の人命を喪失したこの恐怖す可き災禍は大部分、コルク救命器が朽ちて居た爲、着用者を水中に沈沒せしめたことに原因して居る。船長は此人命の犧牲に對して用意のなかつた不注意を犯罪として牢獄に這入つた。喪失した人命は恢復は出來ぬが、當局は急に船中の人命を保護す可き方法に着手した。

千九百十二年四月タイタニック號が、千五百十七人の人命を乘せて沈沒した後、地方當局者は、ヒステリー的の準備法をもつて、人命救護の工夫に就ての汽船の整理に關する法律を直に設けた。それは普通の船舶はとてもその條件に應ずることの出來ぬ程に藥効激甚のものであつた。乘客が室外に出て、辛じて甲板を歩き得る程に救命艇や筏を法律は備付けさせた。これ時機に適した時には何の爲す處もなく、時機を失して後、急に過ぎたる備をする他の例である。

千九百十五年市加古河に於ける汽船イーストランドの顚覆は乘客が定員に遙に超過し、又適當なる檢査を欠いで居た結果であつた。

斯る目錄を造れば山程出て來るが、本書は生命財産を保護するに治療的方法をもつてせずして、豫防的方法を採用しない當局者及び市民の、非實行に原因せる恐怖を示す展覽室たるが志ではないからこれで止めて措く。

以上の實例は災害後に修繕に着手する如き愚を演せず、それに先だつて豫防的準備の必要を無言の訴を雄辯に語るものである。十年間に生じた防止し得べき災害の爲に失つた生命及び財産の總額を計算すれば、その費用が縱し幾何にならうと豫防的準備の費用の方が低廉であることを知つて合衆國は震動するのであらう。（つゞく）



〔談　叢〕

案外氣の利いた便利な組立家屋

東京松屋呉服店支配人　内藤彦一

一

餘りに複雑に成り切つた現在の我々の生活をも少し簡易にすることや、住むに其家無き人々の多い所謂住宅難問題に就て、從來多少共考へては居たのであるけれども、さて此方面からも理想的なりと云はれる米國の組立家屋のカタログを初めて見せられた時には、實は何にが何んだかちつとも見當が付かなかつた。勿論私が建築其物に就て全然素人である爲めでもあるが、組立家屋などと云つた處で、先方で云ふ如くにそんなに無造作に出來るものであるかどうかといふ先入の疑問が手傳うからである。これは私許りでなく、傳統的な日本家屋に住み、家屋其物が既に極端に複雑を極めてゐて、氣の利いた家を建てゝ入らふとするには、二年や三年立ち處に經つて仕舞う有様を眼前に見せつけられて知つてゐる日本人としては當然の疑問であり、一方に於ては、我々の實生活が甚だ非理想的である事を語るものであると思ふ。

私の輸入した組立家屋は米國

シャドル市のアメリカンテーブルハウスカンパニーで作つたもので、カタログによると二室で三百六十五弗位のものからあるのだが、丁度私の鵠沼にある土地に相當したやうなものをと思つて五室のものを注文した。しかし何んと云つても前に申上げたやうに、全然その出來上つた家屋の樣子が想像も出來なかつたので、兎に角取寄せて見て駄目だつたら損をしたらば良いのだらふ位の考でゐたのである。

五室で代金七百五十弗で廿五坪許りもあるのだから、即ち家屋代價のみでは、換算一坪當り六十圓に成る譯で、物價騰貴し坪二圓三百圓を稱へてゐる日本の現狀から見て、驚く程の安値であると申さねばならぬ。それで注文狀を發したから丁度二箇月目に橫濱へ入つたが、何しろ日本では初てのものなのであるから稅關では吃驚して、此處で色々な問題が持ち上つた。

二

第一が此粗立家屋に對して、加工品としての關稅を徵すべきか、それとも材料としての關稅を徵すべきかといふ事だが、加工品とするには、餘りに材料なりと判定せねばならぬやうな點が多い。然りとて單純に材料として扱ふには、例へば硝子窓（硝子迄がちやんと入つてゐる）たとか扉（引手もついてゐる）だとか、壁板（板と板との間に毛が入れてあつて、外界との溫寒の影響を受けぬように實に巧妙に製作されてある）だとかは餘りに加工されてゐるので、すつたもんだの結果、先づ加工品と見做すべきが至當といふ事に決定して、其割で關稅は、買價の四割、即ち換算千五百圓に對して六百圓を徵收された。

これなども、組立家屋に對して智識の無かつた爲めで、加工品と材料品とを別々にして關稅を受ければ、私は百圓內外で行くであらふと今になつて考へて居る。その上斯の問題で長い事稅關へ留められたものだから、露出してゐる木の面がごた〳〵に汚れて始末に負へなくされて仕舞つた。

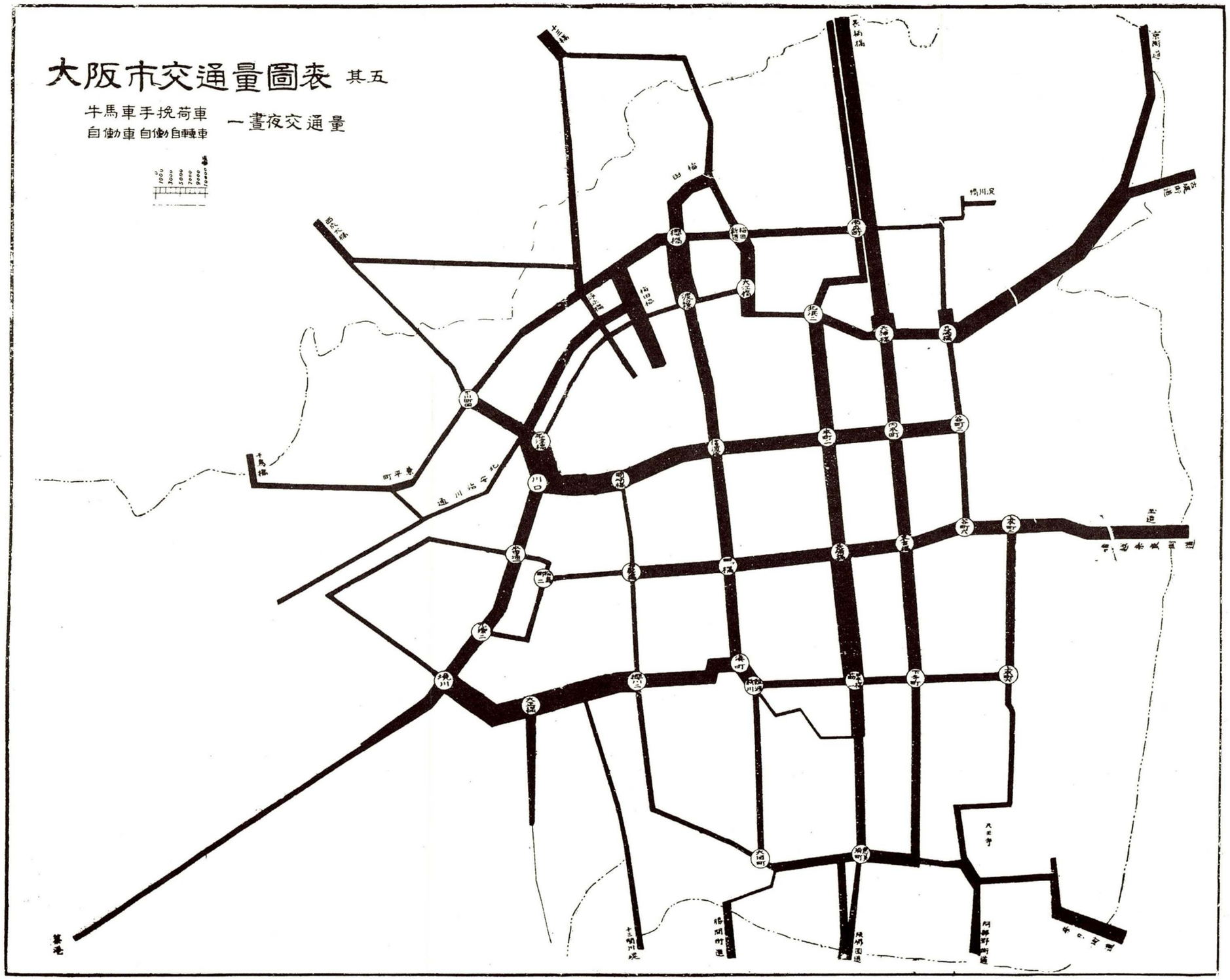
木質は亞米利加白松だが、何れも大きな木から挽き出したもので、節など滅多には見當らぬ



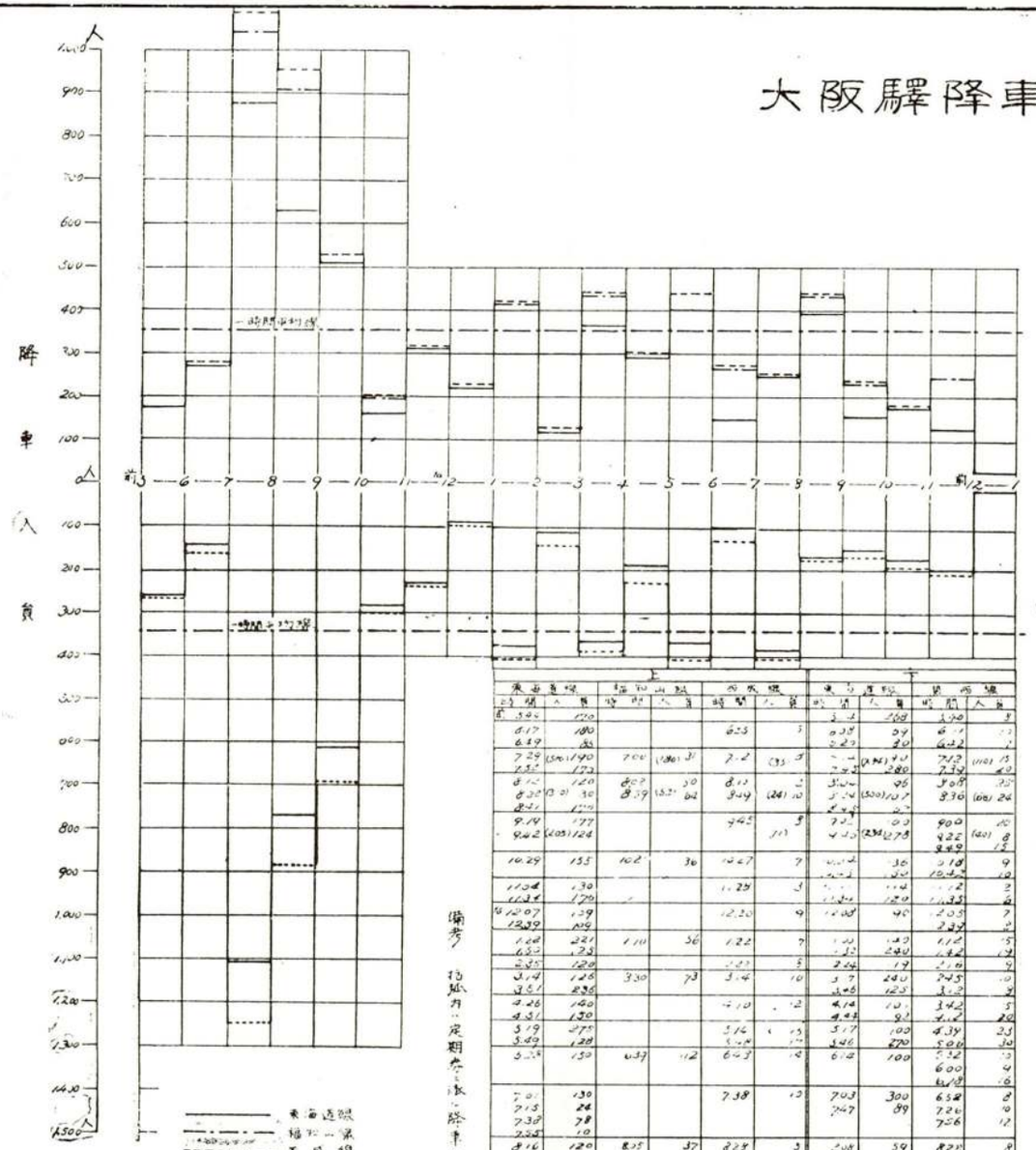
〔資料

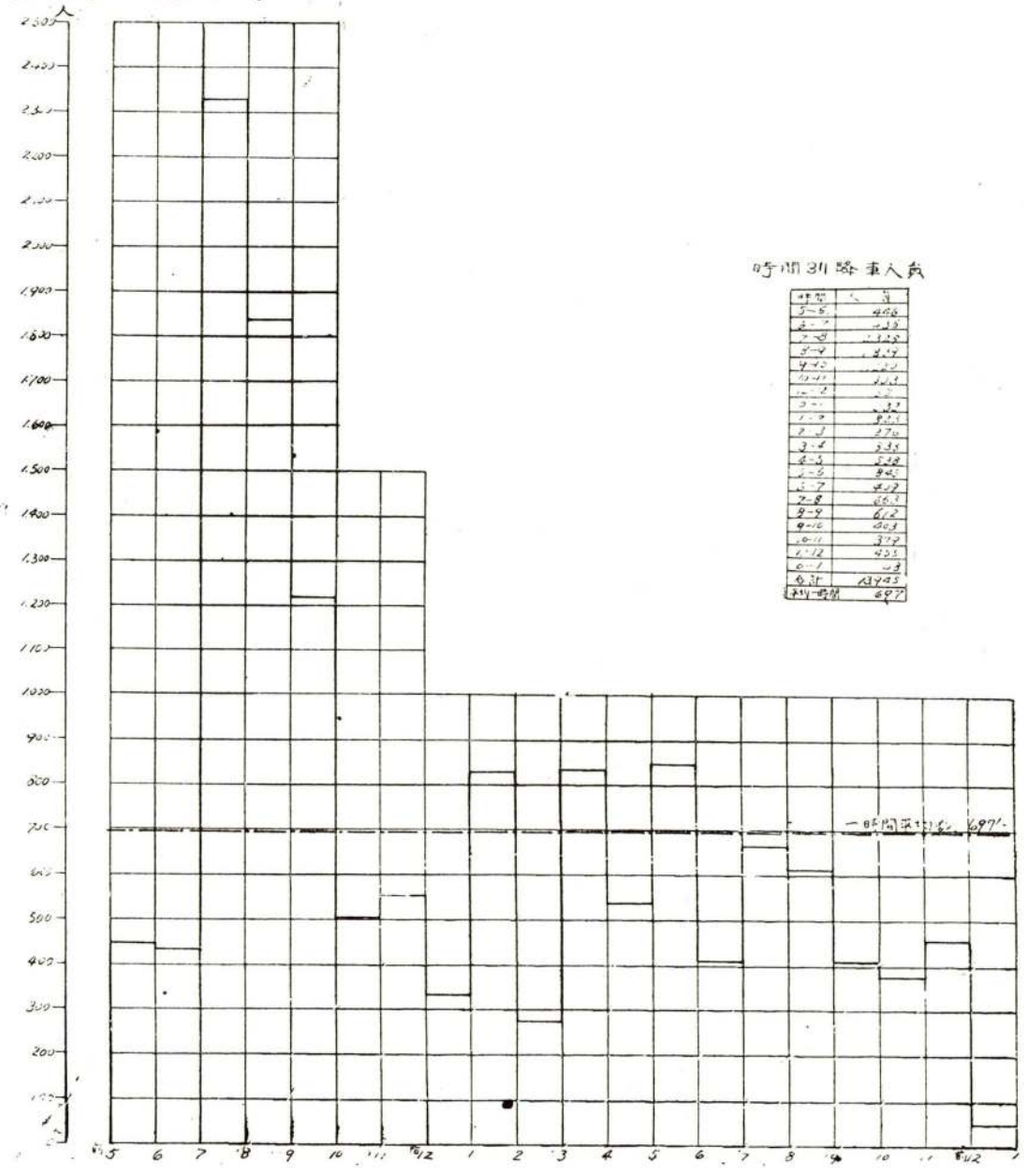
●大阪市都市計畫參考資料（其七）

(8) 大阪市交通量表(五)及大阪驛降車人員圖表



大阪驛降車人員圖表　大正八年六月十一日





時間別降車人員

時間	人員
5–6	406
6–	〃
7–8	1,135
8–9	1,179
9–10	1,117
10–11	1,161
11–12	〃
12–	〃
1–2	933
2–3	1,276
3–4	1,331
4–5	1,218
5–6	845
6–7	1,112
7–8	664
8–9	612
9–10	503
10–11	377
11–12	425
0–1	〃
合計	13745
一時間平均	697

備考　括弧内ハ定期券ニ依ル降車人員

東西通路		橋上一等		西成線		東方連絡		関西線	
時間	人員	時間	人員	時間	人員	時間	人員	時間	人員
5–6	1220					5.4	108	5.50	3
6.17	180			6.55	3	6.38	34	6.1	13
6.49	80					6.43	80	6.42	2
7.29	(506) 1740	7.00	(186) 31	7.2	(33) 3	〃	(248) 940	7.23	(110) 15
7.55	1773					7.22	280	7.34	43
8.12	120	8.07	30	8.13	2	8.40	86	8.09	22
8.32	(30) 30	8.39	(152) 64	9.44	(28) 10	8.54	(500) 1017	8.36	(68) 24
8.41	1770					8.56	2		
9.14	177			7.45	3	7.59	83	9.00	20
9.42	(405) 124				(11)	9.45	(234) 278	9.22	(40) 8
								9.49	12
10.29	155	10.2	36	10.27	7	10.4	36	9.58	9
						10.31	120	10.47	10
11.04	130			11.25	3	〃	114	11.12	2
11.34	170	〃				11.34	120	11.33	6
12.07	139			12.20	9	12.08	40	12.05	7
12.39	109							2.34	2
1.08	221	1.10	56	1.22	7	1.10	143	1.14	15
1.55	123					1.13	240	1.42	13
2.35	120			1.23	5	2.24	17	2.10	4
3.14	126	3.30	73	3.42	10	3.7	240	2.45	10
3.51	836					3.46	123	3.3	3
4.26	140			4.10	12	4.14	101	3.42	5
4.51	130					4.43	91	4.12	20
5.19	271			5.16	15	5.17	100	4.34	23
5.49	128			5.40	14	5.46	270	5.06	30
6.28	150	6.37	112	6.43	14	6.12	100	5.32	13
								6.00	4
								6.18	16
7.0	130			7.38	12	7.03	300	6.58	8
7.15	24					7.47	89	7.26	19
7.32	78							7.56	12
7.55	10								
8.16	120	8.25	37	8.28	3	8.08	59	8.28	8
8.46	270					8.23	31		
9.23	190	9.08	70	9.12	7	8.41	89	9.02	4
9.46	17					9.16	70	9.34	13
10.06	80		〃	10.34	3	9.46	80	10.04	2
10.53	100					10.31	176	10.32	8
11.20	85	11.03	120			11.14	83	11.27	10
11.36	40					11.38	112		
12.38	30					12.29	18		
計	5921		941		240	計	4623		628
合計	7102					合計	6033		

位だし、夫々必要な處には柾なども立派に出てゐて申分がないで此材料を鵠沿に運んで、さて愈々建てるとなつたが、私の依頼した技師の和田順顯氏も初めて出喰はしたのだし、實際仕事をする大工も初めてだといふ譯で、却々手がつかない。それに先方から附いて來た設計の說明書が、建築の學問上の言葉を使はずに、職工用語で書いてあるとかで、第一これからが解らない。しかしまあ柱やら板やらについてゐる符號を力にしてやつて見る事になつたが、その結果は、案ずるより産は易しの例の通りで、土臺工事を終つてから一週間も經ずに、立派な家が出來て仕舞つたのである。

三

始め組立を大工に受負はせた處が、大工も薄氣味が惡るいので、更に鳶の者へ八十八で受負はせたのだ、處が、それが僅か三十八分で出來て仕舞つた。この組立費用に私は千圓以上も使つたが、これもまた馬鹿氣た話なので四百圓位で充分なものである。其上材料を稅關で減茶苦茶にされ、お負けに鳶も馴れないので、板や柱の表面はアメリカから一本澁い色の薄い防腐料で外板だけを塗つて來たゝけでは如何にも汚ならしくて不可なくなつたので、私は更にペンキを塗らせたが、これ抔は將來全然無用で其費用約五百圓を無駄をした。

此處で大体出來上る迄の費用を計算して見ると。

買	價	千五百圓
運	賃	二百圓
稅	關	六百圓
組立賃		千 圓
ペンキ塗		五百 圓
計		三千八百圓

だが、しかし私は實際に五千圓許り費した。運賃は同時に三戸分輸入して五百圓拂つたからその割で二百圓としたものである從つて廿五坪一戸で坪當り二百圓以上と成つたが、こんな事は再び繰返す必要はなく、先づ。

買	價	千五百圓
關・稅		百 圓
運	賃	二百 圓
組立賃		四百 圓
ペンキ代		○
計		二千二百圓

で、こんな次第だから、一坪に

百圓以下の見當にならねばならぬ筈だし、且又經驗上の事實に於て充分に之れ以下で出來るのである。

四

家屋は、先月中頃に、全く完成したので、私は二度許りわざ〳〵泊りに行つて見たが、私よりは子供や家内が頗る氣に入つて、すぐに出掛けてずつと避暑がてらに住んでゐる。組立といふから如何にもがさ〳〵して、板と板、柱と柱との繼ぎ目などに空隙が出來てゐて、バラック建か何んかのやうな感がするが實物は却々そんなぞんざいな物では無く、普通の粗末な西洋建などよりは、づつとがつしりしてゐて立派なものである。

屋根もスレートのやうな板を並べれば良いだけなのだが、如何にも完全だし、柱などは日本建のやうに無暗に穴が開いてゐないから、何處か頑丈な氣持がする。床板は二重張になつて、その間には黑いゴムのやうな防腐紙が一枚敷かれるから、濕氣とか、床下から風が吹上げるとかいふことは決してない。窓は三尺の七尺だか、部屋の中は至極明るくなつてゐる。

先づ玄關は一間に三間半のベランダになつてゐて入ると直ぐが八疊の客間、それから同じく八疊の食堂、八疊の臺所、六疊の寢室二つ、この外に浴場と便所があるのだが、第一こんな小さな家に比べて八疊の臺所があるので、女共の喜ぶ事一通りでない。如何にも便利で如何にも簡易で一點申分ないが、只われ〳〵日本人が住むとしては、押入と云ふやうなものがないので困る。で私は仕方なく六疊の寢室一つの中へ押入れを附けると今度はどうも疊を敷いた處がないと、落付かなくて困ると云ひ出したので、この六疊へ疊を入れ、長火鉢を持つて行つて、まあ茶の間といふ格構にして家内達が暮してゐる。純西洋の中へたつた一間だけ日本風の室を造つた次第だが、大して不調和でも無し不便でも無いやうである

家屋其物の總ての樣式が萬事がアメリカ式で權勢張らぬ處が氣に入つたし、避暑地の別莊などゝしては申分ないが、さて此組立家屋を東京のやうな繁華な

都會の眞中に持つて來て建てたら如何かといふ問題だが、私の取つたものは、この都會家屋には一寸向かないやうである。それも廣い高臺の庭園のある地とか何んとかならば別だが、どうも家が低過ぎる。勿論これは私の家の話で、先方の會社では、どんな設計圖でも送つて呉れゝば、一戸や二戸で無い限り直ちに造つて送ると云つてゐる。われ〳〵の住宅を建てるのは、ほんのバラック式のものにしても尙ほ一年や半年はかゝる。然るに組立は注文してから二箇月半も經ぬ中にちやんと出來上るのだから重寶である。

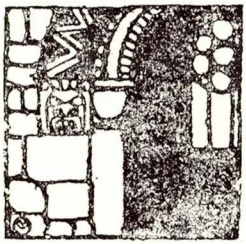
私が鵠沼に組立家屋を造つたと聞いて、東京の郊外に住んでゐる人達から、色々な聞合せがあつたり、注文をしてやつて欲しいなどゝいふ申込あるが、誰か專門家でこの仲介をやつて下れる方があれば、實に文明的なものを持込むといふ事許りで無しに、問題の住宅難も幾分緩和されはしないかと思つてゐる。

元來が日本の住宅なるものは自分の宅でありながら、主人自からさへ氣兼をして住んでゐねばならぬやうに出來て居る。唐紙が破れては不可ぬ、障紙に穴が開いてはならぬといふやうな上に、水一滴落しても疊に汚點がつくのだから、主人は先づ良いとしても、家族の者などは家が立派なれば立派な程氣苦勞を爲て其日を送らねばならぬのである。

斯の點から行くと此組立家屋は實に安全であり自由なもので些かも疊を汚すとか、障子を破るとかいふ心配なく、活潑に出入し得るのである。目下私の子供達は、海水浴を爲た儘の砂だらけの足でどん〳〵上つたり下つたりしてゐるが、その掃除などもざあ〳〵と掃いて置けば可いといふ位なもので、頗る子供を育てる上から云つても理想的なものであると思ふ。

——談、文責在記者——

振り上げた
我手眺めつ秋の蠅
——桃喬——



「紹介」

∴大紙倶樂部建築工事概要

位置　大阪市南區末吉橋通一丁目十番地
起工　大正七年十二月一日
竣工　大正八年十一月三十日
一設計監督者　渡邊建築事務所
一工事請負者　久保田種吉
一建築樣式　獨逸式手法に據る近世式
一建　坪　一百十一坪四合二勺
一階　數　三階建軒高四十七尺八寸
一構　造　基礎割栗搗固コンクリート打とし周壁及間仕切壁共全部煉瓦積とし壁厚二枚半乃至一枚半となせり。
外部は一階を花崗石積とし二階以上はチヨコレート色張付タイルを張り處々人造石壁を施せり。内部床及屋根等は全部木造とす。一階には玄關、廣間、外套室、事務室、便所、談話室、球戲室、厨房、浴室等を設け、二階には應接室、會議室、洋食堂、和食堂、配膳室便所を置き、三階には和風大集會室、配膳室便所等を設置せり、各室共暖房は蒸氣暖房法を用ひ、電燈は普通のものを使用し、便所の排水はセツプチックタンクを設け之に據て措置する事にせり。

以　上



漫錄

××太平洋を見る日まで

會員 工學士 波江悌夫

○ヴクトリヤ港の一日

大正八年十二月一日の早朝、自分の乘つて來た船は加奈多領コロンビヤ州はバンクーバーのヴイクトリヤ港に到着した。昨夜は既にジユアン、ツ、フカ、の海峽に入り込んで居たのだそうだが水先案内者を乘せる關係から一寸何とか港へ寄つて今朝入港したのである。寢むけ眼をこすりながら甲板へ出て見ると、まだ明けやらぬ空に星影寒く點々たる火の眼前に横はるは眠未だ醒めぬヴイクトリヤか、海は靜かに、四方を圍む島々の影は、次第にうすれて紫色に變つて行く、間に燈臺の燈の二三點物うく光るのを見る。所在なさに又一眠。

檢疫のドラの鳴り渉るに驚いて飛び起れば、朝暾の光暖かに船はいつか棧橋に横付になつて居た。埠頭に必要な倉庫の幾棟の屋根を越にてヴ市の輪廓を望んだ時、埠頭に働いて居る洋服の人夫の或群を眺めたとき。矢張り外國の港に來たのだなと思つた。朝日の光を受けて金色に照り輝く円字は府廳の建物であるそうな、高い〳〵尖塔の幾つかが町の輪廓を破つて岡の上に聳へて居るのや、白い壁の家、赤い壁の家、青い屋根、樺色の屋根の亂雜な配合、見るからに天然の林、自然の森を伐り拓いて、人間の世界を無理にもと丘の上に建設したと思はれる光景を眺めて、矢張り別の世界に來たのだといふ意識がはつきり出來上つた。燈臺の形、防波堤の石垣、棧橋の構造、上家の建築、さては今煙を吐いて港外に出て行つた横巾のごろらい大きな船——煙筒が二本横に並んで立つて居るので二艘の船を無理に一つにした樣な——此等を一

々注意して見ると一つとして物珍らしくないものはない。

型ばかりの檢疫が濟んでから、上陸してもよい、午後の一時から旅券の取調べがあるからそれ迄に歸つて來る樣にとの事で、朝餐後上陸許可証を貰つて三々五々出掛けて行く。初めて觀る外國の町、是非にと思つてI技師を誘ふとO夫人も一所に行きたいとあつて三人で上陸した。

「乘らんか、お安くやりまつせ」といふのだろう、何をいふのかさつぱり解らんが、うるさくせがむ自動車屋を追拂つてテク〳〵歩いて行く事にした。長い船の旅に心神を疲らし切つたO夫人の注文と、うつかり乘つて何處へ連れて行かれるか判らないといふ杞憂と、又久しく踏む事の出來なかつた陸の上を歩くことが何よりうれしかつた爲である。

埠頭から町へかなり距離があつた。電車線路に沿ふて行けば間違いないと思ふて、コンクリートの人道を行く三人の姿は、行人の注意の視線を避けることが出來なかつた。何故なれば夫人は和服に草履を穿つて居るのであつたからである。

府廳前へ出る迄は汚い民家、工場、商店の處々に散在して居るのみか、草茫々たる敷地が横はつて居た、これは荒れ果てた町ではなくして、新しく出來た築港埠頭へ船が着いた爲であつた。

府廳前へ出ると流石に此の町の中心地を成して居る蒼波止場は神戸の米利堅波止場よりは氣持がよい。府廳の建物は石造の建築、ロマネスク式のオットリした風貌は、名ある建築家の手腕に成つたものに相違ない。支關前の廣々した段丘を隔てゝ望むと偉風堂々の觀がある。此ヴ市は英領コロンビヤ州の首府になつて居るので、人口は僅かに十萬足らずの小都會であるが、此の大建築を起した譯であるそうな、尤も向ふ海岸にあるバンクーバー市は人口四十萬を越へ太平洋岸に於ける唯一の大都會であり大商港であるが、港口狹く位置も奥に入り過ぎて居る關係から、此の一小港を經營して重要なる一商都とする考へがあるに相違ない、そこで巨費を投じて築港をやつたのであるのだらう。處が此度の戰爭で一頓挫を來し大阪の築港附近と同じ樣な運命に陷つた。現に十萬の小都會から既に二萬の義勇兵を歐洲戰線に送つて居ると聞いては無理ならぬ事と思ふ。

さういへば府廳の大支關には歡迎の意を込めた文字を裝飾してあり、蒼波止場にもゴーシック流の凱旋門が立つて居た。

波止場の眞正面には此の市に似合はぬ五層樓が立つて居る。ゴーシック風の屋根氣持よく煉瓦の壁も頗る落付いて居るし、石造のヴエランダ、車寄なんどいかにも近代英人の意匠を代表した樣な建築がある。これは、エンプレス、ホテルと申して此鐵道會社の經營に係かるもの、素より此市には釣り合はぬ建物であるが、政府の保護によつて出來上つたと聞いた。

波止場には大小の汽艇が纜つて居た、これは葢時の港内である眞赤な帆を負つてゐるセイリングボートや、内港逍ひの眞白な船客、或は千噸にも足らぬ汽船の幾つかゞ横たつて居た。

波止場から西は所謂商業地區である。五層樓の郵便局や七層閣の某銀行と肩を双べ、近代アメリカ風の貸事務所二つ三つ群を抜いて立つて居る圖はどうしても廿年後の神戸を思はしめる位であるそれにしても、此の英領の一小都にも近代的商業建築に無遠慮

なアメリカ式がニョキ〳〵雨後の筍の様に立ち並るのを見て、天下の秋を悟らないでは居られなくなる、必ずや心ある英人が手を額にして三歎之を久しふするに相違なかろう。夫にしても重要建物丈は英國風なる丈けがまだしもの事である。

町に入り込むと往來は雜沓して居る、ぼんやり立つて居ると籠を腕にした肥つた婦人が大股に歩いて來てスレ違ふとき籠の一角が自分の肩をかすめる、O夫人のくたびれた足付や両袖の長い妙な服裝に向ふ側の行人も歩を留める、行き過ぎた婦人達が振り向いて此側を見送る——女は何處へ行つても猫の様に後を向くものだと思つた——I技師は買物があるから一寸待つてくれと或店へ入り込んだ、外に待つて居るより店の内を見物しませうとブラ〳〵勸工場の様な店に入つた。これは米國式の十錢店（デンセントストア）でなんでもござれ十錢で賣る主義に成功して居るのだそうだ。

初めて地圖を買つて見る・顏の赤い女賣子が「地圖」？といつて考へて居る。「此市の地圖が欲しいのだ」と說明をして漸く解つた様な顏をした。それでも横濱で換て置いた米弗が役に立つて覺束ない英語が物を云ふて大枚十錢の地圖を手に入れたのは大出來である。「御釣り」を實價に加へて數へ上げるやり方も乙であるが、加奈太弗が米弗より價が下つて居るので喜んで米貨を受取つた。しかし此所で受取つたつり錢の十錢銀貨や五錢白銅をシャトル市で使つたとき新聞賣子が加奈太錢だといつて受取らなかつたのには閉口した。

古い煉瓦造の二階建、それでも此の商業街の中心に控へて居る市役所の前迄來て、何處か喫茶店へでも寄りませうと相談して居る處へ、一臺の自動車が馳せて來て止まつた、車上には同船者中の知合が乘つて居た。T君が聲をかけて僕を呼んだ、「君等はまだ全市を見物しないのだろう、丁度僕等は見物を濟ました、これから晝飯をやろうと思ふ所だから、此自動車で飛び廻したらよかろう巡路は運轉手が心得て居るから」といふ親切な言葉に從つて三人共自動車の客となつた。

運轉手は心得て提棒を廻はす、即ちWアベニウを北へEストリートを東へと走つて裁判所、女學校、中學校、總督官邸やら、古い城跡、といふてもそんなに古いものでなく、城といふても煉瓦造の住宅（シャトウ）を歷訪——といふとおかしいが車上から眺めて、やがて景のよい海岸へ出る、これから起伏する丘陵をうね〳〵と延びて居る住宅町のアスファルト道を心地よくも走る。

十萬足らずの小都會でも、街路系統建築物の整頓して居るのは感心の外はない、住宅地の經營でも頗る大規模に出來てゐる、此市でも米國式の土地會社が在つて郊外住宅地を二三箇所經營して居る現狀を見る、だが戰後の財界沈滯の影響で今は手も足も出ぬ仕末であると聞いて、此の市のために同情の涙を禁ずる事が出來なかつた。

此附近で有名な天文臺も時間の都合で止める事にした、運轉手は一旦町へ引返してから今度は東の方に出來てゐる公園へ向つた此公園も金を投じて出來上つたもので廣々とした海岸の丘陵地に在る、無料の動物園や溫室があつた、日本から傳來の珍寶だといふて青銅の釣鐘が大切に保存されて居たには驚いた。

高いと思ひながら一人前七弗の車代を拂つて支那料理店の二階

に落ち付いた時、先客の日本人同船客の團体が居た、卸互に（何うです」と挨拶するのも滑稽だが、名も解らない支那料理を注文して舌鼓を打つて居るのも頗る面黒い、一時には歸らなければならぬといふので、そこ〳〵に切り上げて今度は電車に乘つて歸つて來た。

○旅券取調べ

「時是金」を格言として居る米人にも似合はない、二時となつても移民官はやつて來ぬ、是は事務長が多年の經驗から割り出した日本人客相手の掛引かもしれなかつた。三時になつて漸く肥大の移民官が眼の鋭い小男の部下を連れて喫煙室の一隅に陣取つたのはよいが、乘船申込順によつて取調を開始したので、自分の様に一番後から乘り込んだ者はどう〳〵五時頃迄待たされてしまつたシヤトル移民官の取調べは從來桑港の夫よりも頗る緩であつたさうな、それは加州が早くから日本人排斥の火の手を擧げて居る丈それ丈念の入つた取調を斷行したものだそうだが、近來華州方面でも日本人勢力の增大を忌んで排日氣分の横溢から、勞働者の入國がやかましくなつて來た。今一つは桑港が嚴重であるが爲めに諸々沙港方面に途を取る様になつた爲もある、だが移民官の取調の要點は勞働者の侵入を防壓するに在る、從つて之等船客の取調べが嚴であるのは止むを得ないとして一等船客の取調迄が同様の運命に陷つたのは甚だ其意を得ない譯である、これも詮ずる處は金が物言ふ御國柄であるが爲めに純勞働の目的者が一等客に化けて來る傾向が起つた爲であるとすれば「誰か烏の雌雄を知らんや」で「鐘と撞木の間が鳴る」事となつたのでがなあろう。

移民官の解譯によると、三井、三菱、其他の會社員が在來諸市の支店へ店員の移動をやつて入國せしめるのを以て、一般勞働者の入國と同様に取扱ふ事になつて居る、夫が爲に全社員の入國は移民官の前を「商業視察」といふ名目で通られねばならない事になつて來た、金を持つて遊びに來るのは文句なく往來させてしまふ現金な國に來ては「爲も方便で」仕方がない。

Kさんは三菱の技師であつた、移民官の前だけは圖々〳〵しく爲を並べればよかつたのを、人のよいKさんは紐育の會社迄赴任すると答へてしまつたので問題となり、ニコ〳〵顔の移民官が大きな肩をゆすぶつて苦い顔をする、眼の鋭い副官は兩腕を組んで長い顔をする、Kさんはおど〳〵して答辯が曖昧となる、すると喫煙室に一杯の後續者がそらむづかしくなつたと氣分が大いに緊張して來る、事務長迄が堅くなつてゴツ〳〵した英語が口を漏れる。Kさんの額からは此寒いのに汗が流れるといふ始末だ、併しKさんは幸に助かつた、それはKさんの覺束ない英語の御陰であつた移民官の連れて來た通譯の日本人Kがさんの不充分な英語から誤解が起つたのだとしてしまつて漸くKさんは苦境を脫し漸く安心して自分の室へ引上げた。

Kさんの失策から一同は大いに警戒をしたために、案外スラ〳〵と運んで行つたのは寔に好都合であつたが。eさんといふ留學生―此の人は紐育の知人を賴つて行く學生であつた―の答辯が曖昧だつたので、亦移民官の機嫌を損じて通譯の骨折も効を奏せず「何か確かな招介狀があるなら見せろ」と一喝を食ひ、Oさん

は「イエース」と答へた以上仕うにかしなければならなくなつた。

eさんは不用意にも紐育の知人の住所を失念して居た。「紐育のブルックン丈で仕うして其人の許に行けるものか」と吐き出された様に喝破されて取り付く島もなくなつたのである。なぜeさんは「教育視察」で押し通さなかつたか、間に立合つて居た事務長も面喰つて船長室へeさんを連れ込んで、I技師も相談に應じ鳩首した、擧句急造の紹介狀を書いて、それでもやつと移民官を胡魔化してしまつた。

O夫人は事務長の失策から途方に暮れる事となつた、それは事務長の移民官へ提出した名簿の頭文字と旅券の名前の頭文字とが日本名の讀み違ひから相違して居た爲であつた。上陸準備に多忙であつたとはいへ一々本人を呼んで聞き正すの際にO夫人丈忘れて居だ爲であつた、此の失念と失策は國字の二重發音が因をなして居るのだが、事務長としては隨分と手拔かりであつた。尤も一時後廻しになつた丈で、事務長が油を絞られた擧句、無事承認はされたが、婦人の一人旅の入國者は陸上に、頁人のない場合は許されぬ事になつて居て、結局O夫人は沙市上陸の際は一晩船中に他の單獨婦人連と殘されてしまつた。

自分の番が來た、「ミスター、チーミー」と呼ぶ移民官の胴間聲は聊か腹にこたへた。「目的は」と訊かれて早速「建築視察」と答へる、「金はいくら持つて居る」かと聞かれてドギマギしてゐると、通譯が「現金でなくても、用意して來た格でよいのですから」と注意されたのでよい如減な返辭をしてしまつた。眼の鋭い方は旅券の寫眞と自分の顏を眺めて居たが、「日本にも建築家を養成する學校があるか」と通譯に訊いて居る「帝國大學の工科大學の一部に建築科といふのがある」と說明したら「うんさうかい」と感心した様な意外だといふ様な表情をして旅券を伏せた。——無事通過した譯である。

Dさんは大阪の某店から視察に來た人である、金はと訊かれて十萬弗持つて來たと吹き付けたのはよいが、「ふらい持つて來たれ本當かい」と一本突込まれ、「信用狀を見せやうか」と逆襲してカバンを取りに行かうとしたら「もうよい〳〵」とニコ〳〵顏の移民官と一緒に笑ひ出したのは大出來であつた。

やがて夕食のベルがガラン〳〵と鳴つた。

○日英同盟

夕食が濟でから、T君から散步せんかと誘はれた。夜の町を見るのも一興と折からの月夜を犯して六人で出掛けた、合惡く自動車も居ない、電車も來て居ない、仕方なしにブラ〳〵我影を踏んで行く、犬の吠ゆるのも物寂しい、すると一臺の空自動車が後からやつて來た、僕等の出掛けたのを見掛けて念の爲め追つて來たのである、「乘らんか」と聲をかけられても一同默つて居るので駄目と見て梶棒を廻さうとした時、T君は「ガーライ」と怒鳴つたので、六人共乘り込む事となつた。T君はすかさず値段を定める、さすがは米國通のT君丈あると五人ながら感心するのは皆初めての連中であつたからである。

郵便局前で下りて、通信社に立寄つた、此處で初めてT君から英文電報を打つのを自然に教へられた、寒月を頂き異國の町をそ

ぞろ歩く我姿を顧みると夢の様な氣がする、活動寫眞の中をブラ〳〵行くことでもいふか、T君は通を振り廻してこういふた。

『歐羅巴でもさうだが、町に人通のある以上は、人間は人道を歩いて行かねばならない、一歩車道に出た以上は、自動車に轢かれやうと、電車に衝き當てられやうと、損害は歩いて居る奴の自業自得だよ、これ丈は心得て居て貰ひたい」

T君は車道の縁石を傳つて歩いて居た自分を見て戒めたのである。T君は亦こんな事をいふた。『日本では左側通行を勵行して居る、これはうつかりして居ると御里が出るばかりでなく、雜沓の場所でなくても、向から來る人と突當つて、とんだ失策をやるかられ、大いに氣を付けなければいけないよ、尤も此市は英領だから、日本と一所に左側通行を奉じて居る、いはば日英同盟の一証かもしれないさ。』と笑つた。

街燈の意匠のさつぱりして居るのや、人道の廣々として（約三間）ゐるのは氣持がよい。町の角々へ來ると人道のコンクリート面へ町の名をタイルで張り込んであるのも至極明瞭でよい、又人道の下は地下室となつて居るから採光のためのフットグラスが、色々な割り合せに埋込んである、夜は下から明るくなつて居るかも殊に眼立つ、成る程こんな丘の町では地下室を設ける事はなんでもないと思つたが、日本では全く見られぬ圖だ、所々には地下室への昇降口且荷物の出入口となつて居る鐵蓋がある。兩扉になつて居て、晝間は簡單な裝置の昇降器で荷物を上下して居るのを見た、今に全く人道の利用も日本に行はれる事になるだろう。

劇場（シアター）に入ろうか「寄せ」（ヴォードヴィル）にしやうかとT君が立留まる、一同に異議はないが、兩方とも見たい手合に閉口してT君は向ふ側へ驅け抜けて「パレースシアター！」に飛び込んだ。名は「シアター」だけれども藝題は「ヴアラエテー」なのだから一擧兩得な譯である此の「ヴアラエテー」式は此頃全亞米利加を風靡して居て安直に色々な藝を見せるのださうだ、天勝一行の此頃のやり方は正に「ヴ式」に則つて居るのに相違ない。

此處でもヒヤヒヤする危藝を見せた「蛇（スネーク）ダンス」とやらいふ古代埃及風に裝ふた女優連が舞臺に活動する、「ギダ」の亂曲、喜劇の一幕、幕外の獨唱、一として異國客に物珍らしさの滿足を與へぬものはない、唯一つの不平は我耳の日本式に徹底し過ぎて何をいふて居るのか、何かおかしくて觀客の笑ひドヨメクのか、さつぱり解らない事丈であつた。

だか尚一つ怪しからぬ我耳我眼の聾盲を此處で經驗した、それは此の劇場を出て船へ歸る途すがらの話から起つた事である。

T君の話によると折角案內役として一等席を望んだのであつたが、如何なる理由か札賣場で賣なかつた、仕方なしに、二等席と稱する「ガレリー」に上つた、此種の劇場では「ガレリー」は二段になつて居る、眞中の通路で自から二分されて居る、上部の前列の「シート」に腰を下したT君は、下の方の空席のあるのに氣が付いて立上つて降り樣としたとき、場內の取締の女給仕がやつて來て「ノウ」といふた。

『何が「ノウ」だ』とT君は喝となつた。

『ホワイト』と簡單な言葉が女の口を出た。

T君は此一語に「ハッ」と思つた。同時に何事も知らない五人の友人を顧みて一人の胸にこれを收めて強いて此の女と爭ふことを止めてしまつた。そして自席に腰を下した、T君は眠を閉ぢて閉塲迄眠つた樣になつて居た。

此の一場の問答を注意して視て居た自分は、劇塲を出ると思ひ出してT君に質して見た。T君の顏は夜目にも不快の色を漂はして居た。T君の說明は次の樣な憤慨であつた。

『日英同盟が何んだ、加奈太といへば英領ぢやないか、此の英領で日本人を白人と同等の取扱をせぬ以上は頗る怪しからぬ事である、君等が面白さうに見物して居たから默つて爭はなかつたが、一等切符を賣らなかつた理由も漸く解つた、二等の席は上下共同値であつた、それにも拘はらず、彼女は僕等を白人と區別して取扱つたのだ、下席は白人を以て埋め、上席は黑白黃の雜席になつて居るのだ、想ふにこれは支配人（マヂーシャー）の意志でなくて觀客の白人の意志に相違ない、則ち其結果が女給仕の行動に現はれたのだ、僕等は如何に「ハイカラ」の服裝をしても色が物いふ間は什うしても駄目だ、此茲は强押く、支配人に遇つて談判すれば何とかなるだらうが、結局君等に不快を須つ事にもならうと、僕自身の胸に秘したのである。彼等は僕等を黑人や支那人と同級に觀て居るのだ。これは此地の勞働者である日本人が低級であるが爲であるに相違ないがれ、せめて相當の服裝をして紳士面を下げて居る吾々には相當の取扱をしてくれてもよい筈だ、結局、日英同盟の反証を說明した事になつてしまつた、もう此話は止めやう』と

T君は明月を仰いだ。

『畢竟外務省は何をして居るのだと云ひたくなるれ』と

S君が嘆息した。思ふに五人の心を代表したものだろう。

だが考へて見るとこれは因果應報である、と自分は思つた、吾々の先輩 — 早く大陸の地を踏んだ多くの日本人が自から求めた惡因が產んだ惡報だ、先方も惡いが自から侮つた卑屈な先輩にも責任がある、だが吾々は目前の此の不快、此の不合理を將來に解決する當然の責任がある譯である。それは外務省ばかりの努力で出來るものでない。將來のために又次のジエネレーションのために御互に相戒めて不斷の努力を續けるに在る、人種平等の提案も決して惡くはないが、吾々同胞も亦鮮人や生蕃や支那人を同等に取扱ふ丈の覺悟と度量を持してこそ初めて彼等に堂々の主張も出來る譯だ、白人と同格にせぬ事を憤慨するのはよろしい。だが黑人と一緒支那人と一緒だからといふて憤慨するのはちと御里が知れておかしいと思つた。

××噫、文化の夢

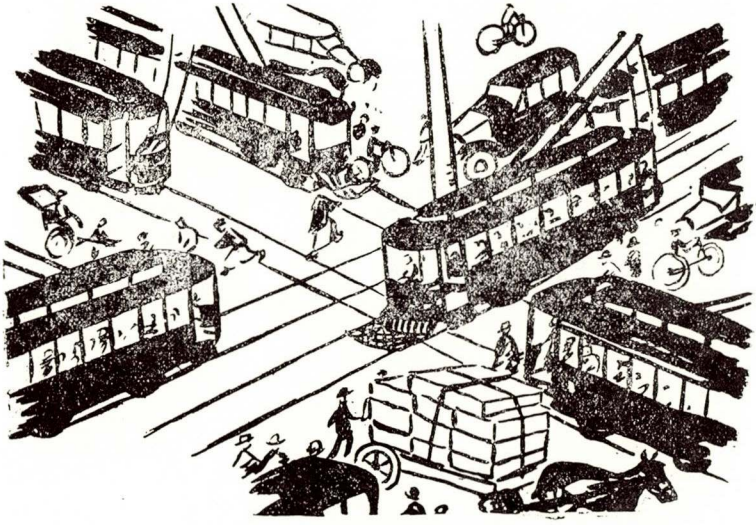
會員　日本エレベーター製造株式會社取締役　谷民藏

世人が口にする「百年の長計」も「一寸先きは暗」の一言に消へ失する。高唱する永久平和も只口のみである。吾人は曩に我國の經濟界を見て慥に快と呼んだ、而し其反面には矢張不安の念慮は去らなかつた、富の集積は斯迄冒險的であつたかと今更ながら恐嘆するの外はない。此處に一言叙して斯界の反省を促がさむとするのである。

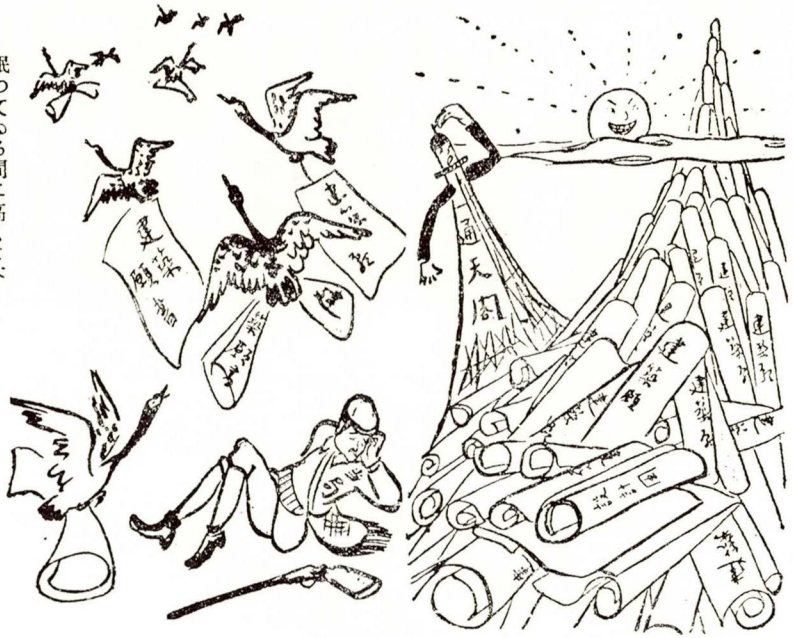
回顧すれば大正三年夏七月塞耳維の一青年の狂暴が惹て世界の大亂と成り。其當時我國の希望は口にこそ出さぬが、向ふ岸の喧嘩である、一日も永く而して再起不可能的疲弊する迄と、祈らぬ迄も期待して居つたのである。而も此の交戰期間は豫期以上であつた。實に一千五百六十餘日卽ち四年四ヶ月の長期に亘つた。動兵總數を見ても四千四百萬人で軍資四千億萬圓といふ巨費を投じた。死傷者の數は一千二百萬人許であつた。而して其の得たる所のものは幾何なり哉。初始の目的は云ふ迄もなく人世の幸福、永久の平和!!再考すれば此の語も又有要武器の一つであつた。扨て我國に齎らした戰爭の賜物とは何を語る。日露戰後以來は甚大の債務を背負ふて四苦八苦であつた、當時の八八艦隊も一つの希望として葬られてしまつた然るに天日は人を殺さぬとかや、多年の貧苦生活も神の配劑で過去四五年間に意外な福の神が舞込で、從來の債務國は忽ち變じて債權國に轉換した或は正貨の流入拾幾億圓、郵便貯金も一躍五億萬圓を突破した。扨は船成金と云ひ、染料成金や藥成金或は鐵成金と彌々普く下層勞働者に迄成金風を吹込まれ、贅澤にも成金の言葉が氣に障る杯と所謂時局成功者が雨後の筍の如く簇生した。御蔭

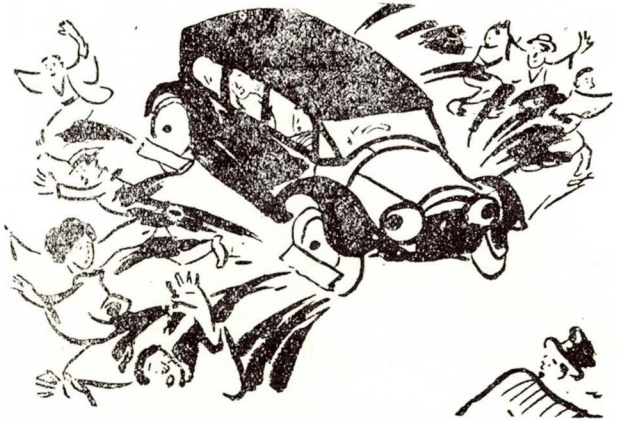


堂々たる大阪の道路



親ら子ずら知ずの難所





通行人口を脅威する怪物

を以て時の政府は戰時利得稅抔と機敏にも新稅目の名を以て、忽ち壹千億數千萬圓の特種稅の拾ひ物をしたのである。尙其上には箇々の成金宗が社界公共事業の爲めに巨萬の富を捐すゝ。各地方にも義俠的行爲の旺なるは之れ蓋し戰爭の賜物と謳歌すべきであつて、洵に快心な斯る美德の行爲が顯れて來のは我國の誇である、其半面而已を並列して見れば、我國民は這般の歐洲戰亂の餘影が甚大であつた事を祝福すべきであるが、予は窃に他の半面を願て、寧ろ戰爭が我國に齎らしたる惡影響は更に前者の総てを抹殺して猶倍加するの惡弊を殘して居りはせぬ乎。爾來其成行を觀察するに

時局の爲めに我國思想界に波及した影響

所謂輕擧浮薄の徒が金の眞價を忘れ只徒に奢侈豪放の似を爲し、一も舶來二にも舶來と贅譯品の輸入激增に忽ち數億圓の輸入超過を見るに至る。更に忌はしきは猿芝居の役者の如く「キラ」を裝つて吳服屋、芝居、料理屋抔に浮身を窶し、品質の如何に拘らず高價にあらざれば購買せずと云ふ奇現象を呈して、徒に彼等を扇動せしめたる結果に遂に有史以來の不祥事と極言せし米騷動となり。軈ては絹布や綿布は勿論苟くも奢侈品たるものは半額以下に暴落し、實に難波津の中心地たる而も財界の「センター」なりと誇稱せる本町くんだりに迄惡氣流襲來して、遂には露店に「メチャ〳〵賣」と云ふ狼狽振を見せたが、聞けばまだ昨年同期より高價なりと云ふに於ておや。更に思出せるは、其以前蝙蝠の如く每夕刻には妙な女を滿載して狹斜袖引く巷に黃塵を立て、當先きもなく四方を走驅して無上の快樂となす。而も路傍の人之れに羨望の眼を見張つて居つた。而かも之れが關西殊に阪神地方の特產物であつた事は世人の未だ記憶に新なる處であるが、歐洲大戰が齎したる餘影は斯迄低級趣味を發揮せしめた。從來金の成る木を眞向ふに振かざして實踐窮行や、厘位の貯蓄を力說せし銀行業者の內部にも、定期や思惑株に興味を持つた。薄利多賣を主義とせる小賣商人にも重要物資の買收めに浮身を窶す。天下に江洲商人と崇拜せし該地方に於ても五十圓の玄米は拂底して三十圓を割つて續出山積すると云ふ奇怪なるもの、

之れ皆思想上の御影で津々浦々のお百姓迄が投機的思想に犯されて彷徨する。更に不可思議なるは這次の成功者の大半を見ても無策無謀にして所謂盲蛇の行動を採りし人に暴利を穫得せし現象を呈したることが、投機的思想を挑發する主因である既に鋤鍬を握つて汗と脂に依つて米穀の增收に餘念なかりしお百姓も、自己の天職を忘れて竟には期米勝負を研究するが得策ならん乎。一つの僥倖を賴りて一攫千金を夢見る徒輩と化し終遂には空米相場に興味を惹き、實を握り或は祖先の遺產を携帶して市中を徨彷する、中には泡沫會社の株主たるを喜び、水田や沼池に標杭を樹て之れが理想的住宅會社の專務と呼び社長たるの虛名に憧憬、今や再び歸農の人たるを得ず、終に毒喰はば皿迄の譬に漏れずと云ふ始末。偶々得たる信用を亂用しては常軌に逸したる思惑に手を染め、商取引には契約上の不履行位は常習的茶番事の如く、詐欺的商行爲や、澁滯取引は一つの商略の如く心得、德義の廢頽も財界の紊亂もを自己に追迫せざる間は天下の事業家なりと成濟して居るが、若し自己の懷中に大恐慌の襲來を覺ゆる時は巡ては親戚や兄弟或は知己朋友に嘆願に及ぶ、情實混りの財政當局も、又事業素質の周密なる調査もなく、遂には玉石混交益混亂の狀態に陷入らしめ、延ては市場の人氣に障り、凡ての株式は一齊に暴落し、近時は愈生糸、綿糸、織物を初め重要物資の價格を激落して前記の成金者には一時の榮華も槿花一朝の夢と化し去り、破綻倒產相踵で現れ、勞働階級には惰業も罷工も今は嵐の前瞬間に起る低氣壓の衝點なるの感を起せり。內的大患は竟に我が生產品の對外競爭の最大利器たる物價低廉の特殊的置位をも抛棄し、世界經濟戰に輸贏を爭ひ得ざるべく、若し今後に於て世界的の不景氣の襲來し其波及する處は自然我財界を侵すべく、茲に其影響の甚大なるを豫想せば、今後は世界的物資の需要は激減し、交戰國の產業復活及び我國內に簇生したる新設事業に供給增加する諸機械類の輸入品が其價格昂騰の徵あるを見ると同時に、又我國民の生活費の將來容易に低下する能ざるを想像せば、財界の波瀾重疊益苦境に沈淪する時來るべく、既に

第二次大恐慌の來襲を覺悟し、徒に周章狼狽せず勇猛邁進眞摯なる努力を拂はざるべからず。予は寧ろ我經濟界永久の爲め、一般民意の基礎根底からして今日あるは自然の道理にして、深き敎訓とし寧ろ欣快とする現象たるべし。戰爭より跋扈せし無定見なる投機者流に對しても怡當の刺戟劑として確に皮肉なる警鐘たるべし。予が此處に强要致し度きは惡氣に沈淪する我思想界には、前獨帝の十訓を繙き通讀熟慮願度事也。更に勝手ながら叶はぬ時の神頼みも可なるべし、敬神崇祖の念を皷吹し思想の統一を企圖するも時節柄又緊急の事項たるべき乎。

結　論

由來國家の盛衰は其の國民が精神的及科學的に眞の努力を爲すと否とに依つて自ら分岐するものなり。されば、我國刻下の思想界を觀察するに、其の及ばざる處遙かに遠く、假令ば科學的智識の缺乏、研究的態度の不徹底、經濟的思想の淺薄、創始的氣分の滅失せるの如きは、寔に慨嘆するの外なし。吾人が小學時代の敎を回顧するに、我皇祖天照大神は天のうすめの命や手力男の尊其他八百萬の神々の御力で天磐戸よゝ出させ給ひて、我國體を照し給ふ、其の餘光を世界の人類に授け給ふ云々とあり。即ち地球の人類は總て我皇祖、天照大神の餘光を仰ぎ居るものゝ如し。又歷史の一片を繙けば、安政の御代米艦（ダロフ子）浦賀に來襲せるを見て、我國民は張りぼて式の大砲を以て砲撃せんとし、一歩の上陸を許さぬ抔と云ふ氣慨を表示して天下を騒した事を思へば、斯る敎と先例を享たる國民として創始的觀念に乏しきは、古來我國民の特徴とも云ふべき痩我慢の減退せしは寧ろ遺憾とし、「チョンマゲ」式祖先に對し其申譯なき次第と云ふべし。



藻苑

○○〜小品〜○○

早船田大學理工科
建築學科教室
新津汗青

K先生

栗色に燻げた顔に、そそ毛立つた頭を振り乍ら、K先生がやつて來た。ひよろ長いI助教授の青黒い皮膚とは餘りにかけ離れた對象だ、I助教授は懇勉に席を讓つて旅中の土産話を要求し出した。

自分に話して居るやうな、物の言ひ方の先生も、旅中の話頭に實が入つて、非常に快活らしく見へる。

其中に衣嚢(ポケット)から出すワ、出すワ、皆自分が撮つした民家の寫眞、K先生はバリバリのいがのやうな硬い髭(カメ)を逆に撫で乍ら、手しほにかけた寫眞のうつり榮へと、其時々の情景と興趣を喚び起すらしく瞑想的に目を閉ぢる。

「すつ際、此時はよかつた」と一枚の人物の寫つたのを睇めて破顔する、見ると一家族の素朴らしい田舍人が納屋を背にして仕事着のまゝ立つて居るのだ。同じ物腰。同じ目鼻つき、誰の眼にも同一家族と見へる、ボナペ島土人を思はせる樣な風俗のしほらしさ。

Nは此詩的風懷の饒かな、熱情に富んだ、小事に拘はらぬ古隱士と云つた樣な先生が、どんな思索に倦り乍ら此田舍を見、此生活を觀察した事であらうかと、長い旅行の先生に與へた感慨を推し量つた、と先生が眞赤な子クメイを出して突然首にしたのに驚かされた。

「どうしました先生—」

と、I助教授は云つた。

「一週間丈貸りて來たんです、必要があつてれ……、これをつけて電車で女學生が四五人居る前へ行つてこう座り込んだられ、奴等こうこう笑ひ出して仕舞つたよ」

Nは此頃出來上つたと云ふK先生の叔父の博士の石膏像の寫眞其のまゝな、あらい髭の口のほとりを見上げて、此無邪氣なおどけ事を平氣でしてのけるK先生の純な氣持を讃嘆したくなつた。



短歌

○蓼科にて　華園稔麿

栃の實のあめとふるなり風あらみ雲とびめぐる岨の下りは

偃松のはひ廣ごれる山肩を霧たちせまる吾があとを追ひ

山裾にけむりたなびき高原にゆふ鳥むれてあめはれにけり

ゆふ山はいたくもさびし溪の底たぎ津瀬の音やみにこもれば

○奉仕　古溪

代々木なる新ひ宮造り賤の男われ土をはこびてゐだちまつりぬ

宮柱太しきみればいよゝなほ明治のみかぎおもほゆるかも

いきる日のもとにいそしみ汗にぬれて男の子の心いやいさむなり

ゆふだちの一むらすぎてみそのふの楠の梢に日影まばゆし

まずらを吾れ生けるしるしあり大宮のゐだちの數に入りしと思へば

千引岩ひけやまずらを國うたをうたひあげつゝひけや益荒雄

○夜の街にて　山田春子

山戀ふと山とほければ街にいでゝ人のゆきゝにわれもまじるなり

かたくなのわがさが知ればおのづから離り居るなりすべての人に

思ひなく町のやちまた吾れは行く人のもろ〳〵目にし入れねば

○　郡司無外

腰かけて手の乳などをすゝりのむ女の顔のうれひなげなる

ひとみ据ゑてものかきなづむをみなごのよこ顔みればなみだぐましも

○　大聖寺棕軒

日一日をいでいる人もなければや秋萩たかくうづむ吾が門

ひそましく住まへる門に秋はぎの花さきうづ



さびしさのます

○　武藤　泰

峠ゆきかへり見すれば家烟しら〳〵なびき心はるかなり

大野らの草木なびかす乘鞍のおろしの風に駒いばゆなり

○　皐　昌山

買ふものゝ同じき世かもねぎられていさかな鄙の古着市人

○　三上桂風

上つ世の寧樂の葉振りの歌人がうたひとにくれし「青丹よし」かも

○

おもふこと一つもをへず夏たけぬねぬころ草の穗に出るまでに

○　緒方狹筵

かでべには枇の木ふりたり庭中は八重群菊の花さきしづく

○　古思男

白綠のいろにさねたる枝葉だに眞萩は見れでうるみがちなる

○　堀照俊

松むらはおぐらく暮れぬあらゝぎをいろどり殘る日かげ寂しき

○　史魚

さごろもの筑波の根ろ見つゝゆく葛飾の里路秋はれにけり

○　古溪

よべど舟はよせこずゆふやみの尾久の渡を雁鳴わたる

○　梶原浩洋

齋瓮を堀りいだしたる高向の茅原萱原秋のあめふる

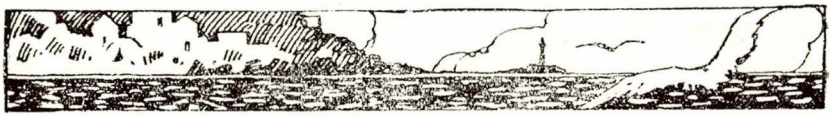
短歌を募る

□一人小首にても五十首にても差支なし

□優作者へは其賞あり

□撰者叮嚀懇切に詠草を見るべし

（大阪天茶屋山橋畔　安江不空宛）



俳句を作つてみやうと思ふ人に　(一)

蘆田秋双

○「俳句を作つてみたいがどうも機會がないので……」といふことを屢耳にします、私はいつもそれに對して「ではそれを云ひ出したのを動機として今すぐお作りなさい」と云ふのです。

機會とか動機とかいふものは自分から作つてかゝらねば待つて居つて來るものではありません、諸君が「俳句を作つてみやうか」と念頭に浮ばれた時が即ち機會であり動機であるのです。それを外してはまたいつ其機會が來るかしれませんから、是非無茶でもよいから作つてお覺へなさい。

○「ではどうして作るのです」とすぐ問はれるでしやう。が然しこれに對しては、こうして作るものだと一口には到底云へるものではありません。ただ諸君が朧氣ながらにも俳句といふものを知つて居られるその範圍内でよろしいから、兎に角一句でもよいから作つてみなさい。

○すると諸君の中には「俳句の作法も示さないで、たゞ作つてみよとは亂暴だ」と云ふ人があるでしやうが、苟も俳句を作つてみやうかと思はれる諸君は、俳句に對する概念はあるでしやう、俳句は五、七、五の十七字詩である、位ひな事は識つて居られるでしやう、小學校や中學の教科書に俳句がある位ひですから、全然俳句を識らないといふ人は恐らくないでしやう、それでなくても、

古池や蛙飛び込む水の音

といふ芭蕉の句を未だ識らない方はありますまい。たゞそれだけ知つて居れば俳句は屹度作れます。

○初めから七面倒な俳句上の法則といふやうなものを識つては却つて邪魔になります、法則そのものを識つた爲めに初めて句を作る上に於て形式の上に囚はれて肝腎の着想の方が



伸びない事になりますから寧ろ識らない方がよろしい。

○仮令一句でも作ればそれが即ち俳句入門の第一歩です、一句でも作ればそれだけ諸君が俳句そのものに親しみ、近づく事が出來た事になるのです、だからどんな句でもよろしいから兎に角私の言に從つて一句作つてお覽なさい。そしてすぐ私宛（大阪北區梅枝町芦田秋双）にその句を送つて下さい、私はそれに對して親切に添削と意見を申上げますから。

○そしてそれに依つて漸次俳句の說明なり作句上の約束などを申上げる事に致します。

○初に句の法則など管々しく申上げないのが即ち私の初學者を導くやり方であるのです。

募集俳句

橋

（秋季）

蘆田秋双選

天高く水澄みにけり橋の上　吳　君羊
名月や流るゝ水に橋の影　大阪　喜角
明月に人の往來や橋の上　同　夏木
大阪は水の都や月の秋　同　采地
荷馬車行く橋の響きや柳散る　同　大田
物洗ふ女に橋の柳散る　同　京屋幽
天の川橋にかくれて夜舟哉　三國　杏郎
秋晴や土橋繕ふ村の人　同　旭西
稻妻や乞食飯喰ふ橋の下　同　鯉洋
芒野や土橋渡れば物凄き　同　春歩
瀨田の橋にきく歎乃や今日の月　京都　汀舟
明月に乞食眠れり橋の下　同　門司
欄杆に疊埃りや秋の風　同　澗水
橋裏を仰ぎ見る秋の磧かな　同　すゞ虫
飯籠を並べ干す橋や谷紅葉　同　同
出水跡の橋修繕や秋日和　同　同
橋上に下駄の齒入や秋日和　同　同
谷の橋霧刻々に湧上る　同　大阪幽谷
醫師迎ひに夜寒の橋の長さ哉　同　同
橋の下に繫ぐ漁舟の夜寒哉　同　同
橋袖に莚宴張る紅葉哉　同　北泉
踏めばひた〳〵の板橋渡り萩の中　三國　同
旅疲れ橋に憩ふや渡り鳥　同　同
月水にうつる景色を橋に見る　同　春歩
秋風や橋のゆらきを馬渡る　同　鯉洋



渡舟迄小橋いくつや秋の川　三國　春歩
橋の高さに草は伸びたり秋の雨　同　引汐に橋脚高し芦の花
秋晴の十三の橋や海見ゆる　同　橋杭の水に動くよ赤蜻蛉　同　一帆
秋晴や海遠望の橋長く　同　長橋の下一面の花野かな　同
秋晴や引越馬車の通る橋　大阪　佛村　橋普請未だ成らずに秋の雨　同
橋落ちし上の夜雨や秋出水　同　橋を行き牛に夕日や秋時雨　同
橋の人に施餓鬼の舟の鉦太皷　同　町近き橋に柿賣る女かな　同　矩水
橋に來て露けき馬を見る夜哉　同　大原女の籠を負ひ行くや橋の霧　同
橋渡る車の音の夜寒かな　同　友訪ふて歸る橋上に月見かな　同
橋落ちし杭に止まれる蜻蛉哉　同　稻妻の怯へに橋を渡るかな　同
藥湯出て夜寒の橋の長さ哉　同　稻積みし牛に出合ひぬ橋長し　同
渡り初め頬に揚る花火かな　大阪　鞍上　橋杭に水の瀨早し渡り鳥　三國　千枝
石橋は新なりけり飛ぶ蜻蛉　同　一抹の芒土橋を覆ひけり　同
新らしき橋のかゝりて月見哉　同　橋埃舞込む家や柳散る　同
秋風の身にしみ渡る橋長し　同　橋に立ちて秋晴れの山眺め入る　同
留守居飽きて橋に出るや雁渡る　同　鯛の橋を渡れば吾が家かな　同　王者香
船料理橋に秋風立ちにけり　門司　東郭　芦の花出水が橋にひた〳〵と　同
秋風や友と別るゝ橋の上　同　橋の根にかくれて鳴子引く子かな　同
棧橋に舟横づけて月の人　同　夜の霧橋詰近く住ゐけり　同
難波橋の獅子に夜寒となりにけり　大阪　野の人　宵雨の橋のぬかるみ稻妻す　同
橋一つ落ちて大都の秋淋し　同　橋普請のたそがれ時や秋の風　同　大阪　路月
秋の夜を梅田橋迄語りつゝ　同　韮狩の醉ふて渡るや丸木橋　同
蜆橋名のみを殘す都市の秋　同　朝寒や牛を追ひつゝ渡る橋　同
明月やマンハッタンの橋の上　同　鐵橋を渡る夜汽車や肌寒き　同
橋上に電車待つ間や秋暑し　同



長橋を隔て、山や秋時雨　大阪　路月
雨避けて蜻蛉釣る子や橋の下　同　土のせし橋のゆるぎや秋の川
石橋を渡れば柿の小村かな　同　暁天
雨にあふ道天橋の紅葉かな　同　橋の下の岩皆奇なり河鹿鳴く
踏めば鳴る假橋長し雁の聲　同　施餓鬼船今出る橋のたもと哉
皆橋の欄杆抱く月見かな　同　橋なくて戻りし溝や曼珠沙華
霧吐いて橋に顯る荷馬哉　同　橋の上を筏押へつゝ秋の雨　大阪　放郎
釣上手今日も芒の橋に居る　同　針金の橋渡る谷や蔦紅葉　同
橋下の夜釣の船や秋の雨　岡町　菊雄　船の人を呼ぶ橋上や赤蜻蛉　同
舟橋を人走りゆく野分かな　同　秋深き夜の橋の燈や冷かに　同
酒壜抱いて橋渡りゆく秋の風　同　橋詰の赤きポストや散る柳　同
橋越へて錢湯にゆく夜寒哉　同　大漁の船着きし橋下散る柳　同
秋の夜の橋脚輝す燈の淋し　同　二つ三つ橋越にて大阪の秋を知る　同
秋雨や舞妓逢ひし京の橋　同　月の輪の大さよ橋に人もなし　同
橋畔に酒賣る小屋の糸瓜かな　同　夜學戻りの子等假橋を月に踏む　同
鯛に谷深き橋渡りけり　三國　香魚　秋暑し橋疊かし過ぐ砲車　同
秋風に草ののべたる土橋哉　同　橋普請見てゐる人や秋日和　同
秋晴や船橋渡る小學生　同　脚止の橋傾きて蜻蛉かな　大阪　木羊
柳散るや水にうつれる橋の影　同　橋釣りに餌釣る腕の誇りかな　同
門を出てすぐに土橋や萩の花　同　吸水器の錆びつく橋や秋の雨　同
稻妻の橋を見せたる野川哉　同　朱の橋に映る紅葉を眺めけり　同
敗荷に橋修繕の鋸屑　同　橋かゝる足場の上や渡り鳥　同
神橋の半ば見ゆ居る紅葉哉　青耳　橋落ちて渡しになりぬ秋の風　同
肌寒や橋行く人の懐手　同　提灯に戻る土橋や虫の聲　同



朝霧に馬駆け去る橋の響き哉　同
橋上に黄の旗立ちて秋の水　人
秋の野を橋につゞきて軍馬哉　同
牛車つゞく橋のゆるぎや秋出水　同
橋架けゝる柚猿に似て鳶水葉　無外
夕蜻蛉架橋縦列通りけり　東京
霧深し鐵橋通る汽車の音　無外
釣橋の月寒げなり蕎菱の花　同
橋桁の朽ちて寒けき芒かな　同
山廊に入る橋長し栗一樹　同
雞抱いて橋渡りゆく夜寒哉　同
橋に錵す将軍の名や柿紅葉　同
駕籠下りて橋渡りけり谷紅葉　同
釣橋を渡れば寒き紅葉かな　同
踏めば鳴る橋でありけり柿紅葉　同
橋守に鳴子を頼む田刈かな　同
棧橋に歸る燕の並びけり　同
駒曳のとゝろと橋を渡りけり　同
秋の夜の橋長々と牛曳いて　同
名月に橋辨慶を謡ひけり　同
萩寺の萩より長し萩の丈　同
橋守の鶏飼ふなり秋日和　同
橋欄に稻掛け干すや月の人　同
橋に出て圍引くさまや茸狩　同
橋と舟と人呼應する花火哉　同

人　雞抱いて橋渡りゆく夜寒哉　無外
地　稻妻の橋を見せたる野川哉　香魚
天　橋落ちて渡しになりぬ秋の風　木羊

選者　唫

霧したゝかに下りたる橋の月夜哉
蜻蛉や土橋の上の涼
橋の上蠢は犬に逐はれけり
大阪の橋の柳は散りにけり
架橋演習秋天高く晴れにけり

次號課題

一、道（みち）、冬季結）
一、〆切十月十五日
一、一人三十句以内
一、住所氏名明記の事
一、投稿所　大阪東梅枝町　蘆田秋双宛



〔時報〕

法令

◉都市計畫省令

◉內務省令第二十八號

都市計畫法施行令第九條第四號ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ但シ第一號ノ期間ニ付テハ事業著手ノ時ヨリ之ヲ起算ス

一部市計畫事業トシテ道路若ハ廣場ノ新設擴築又ハ路面ノ改良ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ道路若ハ廣場ノ兩側ニ於テ內務大臣ノ定ムル區劃內ニ在ル有租地ノ所有者但シ質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者十年ヨリ長キ期間ノ定アル地上權、永小作權及賃借權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者永小作人及賃借人

一前號ノ區劃內ニ在ル無租地ニシテ公用又ハ公共ノ用ニ供セラレサルモノニ付テハ地上權者、永小作人及賃借人

大正九年九月六日

內務大臣　床次竹二郎

〔參照〕

大正八年十一月二十八日公布勅令第四百八十二號都市計畫法施行令抄錄

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ非サレハ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

一　行政官廳ノ執行スル事業ニ因リ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

二　事業地ノ公共團體以外ノ公共團體ヲ又ハ上級公共團體ヲ統轄スル行政廳ニ於テ執行スル事業ニ因リ事業地ノ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

三　事業ニ因リ生シタル營造物カ他ノ工作物ト効用ヲ兼ヌルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ又ハ其ノ營造物ヲ利用スルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ

四　前各號ノ外都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ニシテ內務大臣ヨリ指定セラレタルモノアルトキ

建築行政

◉建築監督課設置

大阪府參事會は九月二十一日午前十時より開會して、建築監督課新設に伴ふ技術員並に廳舍擴張の件等を主として附議せるが、

豫て發布せられたる市街地建築物法に對し近々施行令同細則等の公布さるべき筈にて政府に於ては十月中愈實施の豫定なれば從つて大阪府に於いても建築監督課の新設を見ることゝなり國費を以て技師二名、監督官補六名の配置あるべき筈なるも大阪府の如き大都市を有する地方としては到底之を以て取締上十分なりと云ふべからざるより此上更らに府費を以て技手八名、書記一名を設置し且つ警察部廳舍狹隘なれば建築監督課新設の爲之が擴張を行ふことゝして是等に要する經費經常部六千圓臨時部三萬五千圓、合計四萬一千圓の支出を協議決定せり。

都市計畫

◉大阪大公園案決定

東方は八尾、小阪、北方は神崎川南方大攝泉の自然の分界線たる大和川、西方は大阪灣に面する廣袤約二百平方哩を範圍とする大大阪建設の幕は第一回大阪市都市計畫地方委員會で切つて落され今後六年後に於ては愈々凡ての面目を一新するとなれるがこの廣汎なる大改造の大阪市に於て市内の路面電車賃を現在の如く往復十三錢（通行稅共）均一制を襲踏するか或は均一制を放擲して斷然區間制を採用するかは市民生活上より之を觀察して重大なる問題たるは言ふまでもなく都市の交通政策上將た又大大阪の効果につき直接間接市民の利害に影響し、後日地方委員會の席上議論の花を咲かすべく豫想されてゐるが爲め大阪市電鐵部に於て關助役、瀧田總務課長、清水電鐵部技師等鋭意研究中なるが、客月二十八日に至つて略ぼ其成案を見たり結局市の腹案は（一）大大阪の外郭（二）現在の大阪市（三）大大阪及現在の大阪市共通區域と以上三種の乘車券を發行し第一種の大大阪の外廓區域の乘車券は大大阪の外廓の範圍内は均一制で同範圍のみに通用し、第二種は現在の大阪市の範圍内にのみ均一にして通用し、第三種は大大阪及現在の大阪市共通に通用することにせんとするに在り、而して一方都市の中央部に餘り多人數の集中する弊害即ち密集住居より生ずる死亡率の增加を防ぎ又密集住居より來る種々の風紀上の弊害を除くためには、どうして場末郊外に於て文化政策を講じつつあるが先第一着手として公園の設置につき發案中なり、今日迄決定してゐる分は新淀川を中心として五十六萬坪の河岸公園、股ヶ池を中心とした水地公園、吹田村桃林を中心とした二十九萬坪の山林公園、夙川を中心とした二十萬坪の道路公園、城東練兵場を中心とせる運動公園等にして目下五公園の設備につき、京都市計畫部につき研究中なり。

◉都市計畫財源決定

大阪市當局は大大阪を建設すべき都市計畫の財源を如何にして捻出すべきか木南助役只管其衝に當り鋭意調査中なるのみならず政府の稅制に關する勅令の制定されざる限り到底不確實たるを免れざるも市にては都市計畫事業費を約一億五千萬圓と見做し是れを七ヶ年乃至八ヶ年（略七ヶ年と内定）に分割施行する豫定なり而して是れが財源として事業費の三分の一の約五千萬圓を國庫補助に仰ぎ約六千五百萬圓を起債し殘餘の三千五百萬圓の財源は新稅其他の直接充當額に依る意圖なり即ち公債六千五百萬圓を募集して是れが償還財源として土地增加稅閑地稅遊興稅觀覽稅の新稅を起し現今の

市稅坪數割の擔下稅を特別財源に移し尙府稅車稅とも市稅に移さん事を欲せるが更に前記三分の一の國庫補助金の外通行稅の交付を希望しつゝあり而して若し市の企畫通り捗れば以上の新稅を以て年額約三百五十萬圓の收入を得べく斯くて優に公債六千五百萬圓の利子を支拂ひ殘餘金を事業費に充當し更に舊道路　舖裝に因りて利益を受くる沿道の地主並に新設道路沿道の地主に特別賦課して年額二三百萬圓の歲入を得て事業期間中の公債利子を支拂ひ殘餘金を以て事業費に充當すべく計畫を樹て居れり最も事業終了後數年を出でずして特別賦課に據る歲入は消滅する譯なれば其後に於ては租稅收入及電鐵の負擔金（假令ば電鐵敷設敷地に比例せる負擔）を以て公債を償還すべく市として大體の方針確立せるもゝ如しと

◉第二回地方委員會

大大阪の序幕を切つて落すべき第一回大阪都市計畫地方委員會は九日大阪府廳內に開かれたゝが既報の如く當日は常務委員の指名と議事規則の制定にて一面顏合せに過ぎざりしが第二回地方委員の會は

（一）大大阪の區域の決定（二）住宅地域工業地域の決定（三）都市計畫の事業割（四）財源問題等

重大なる問題なれば大阪市に於ては右四問題につき疑義の點につき目下內務省に質問中にて近日中に右回答書來るべく一方都市計畫の財源として土地增加稅間地稅並興稅覆覽稅等の新稅を捻出すの豫定なるが未だ該稅に關する中央當局よりの勅令に接せざるを以て右勅令の來り次第早々開會の豫定なり而して市當局に於ては多分十月上旬迄に右勅令の交付に接すべく斯くして第二回大阪地方委員會は十月中旬開會の運びに至るならんと專ら觀測し居れり。

◉東京市地方委員會

都市計畫研究會委員會は八日午後七時より麴町區永樂倶樂部に於て開催せるが內務省よりは池田社會局長西大細野各內務技師及宍水同會幹事等出席し東京市の都市計畫につき左の方針に基いて研究し更に十一日午後五時より大手町都市研究會事務所に後藤小橋正副會長出席の上之が承認を求むと

一、京橋區數寄屋橋際泰明小學校及宮城內の楠公銅像附近を中心地として之より四通八達を圖る事

一、東京驛を現在の汐留驛及濱離宮の地に移し築港を設くる事

一、東海道線北陸線常磐線の連絡方法につき新橋東京月島洲崎龜井戶各驛を通ずる幹線を敷設する事

一、現在の東京市內電鐵及郊外電鐵をして市の交通の中心たらしむる事因に宮城前より數寄屋橋を經て現在の遞信省前より東京驛に至る幹線を敷設する事

社會施設

◉社會施設低資割當

內務省本年度に於る社會施設割當資金七百九十一萬千八百九圓其內百九十八萬千八百九圓は簡易生命保險積立金より融通の割當額客月十四日左の如く決定せり。

住宅

一、經營團體數　六八
二、總戶數　七二八六
外に共同宿泊所三箇所
三、申請總額百二十九萬八千九百九十一圓
四、資金供給見込金額六百二十六萬三千圓

府縣別	新築戶數	供給額
北海道	一、二三四	七七九、五〇〇
東京	一、一三〇	一、〇二〇、〇〇〇
京都	三二一	四一〇、〇〇〇
共同宿泊所二棟	一、三〇二	七五二、〇〇〇
神奈川	五〇	一〇〇、〇〇〇
兵庫	共同宿泊所三箇所	三五〇、〇〇〇
長崎	六〇〇	三五〇、〇〇〇
埼玉	四五	五〇、〇〇〇
群馬	三〇	五〇、〇〇〇
栃木	三〇	三〇、〇〇〇
奈良	八〇	八四、〇〇〇
靜岡	三〇	三〇、〇〇〇
岐阜	一五	三六、〇〇〇



日本建築協會終身贊助員松村雄吉氏、二愷の侵す處と成りて、大正九年八月十三日午後三時を以て永眠せらる。年齒尚壯にして、其雄渾なる資質と、前途尚少なからざるの期待は今や空しくして、哀惜の情惻々禁ぜんとするも能はざるなり。されど、氏や、其生前に於ける幾多功業の我建築界を裨益する處鮮しとせず、其生活に最も意義深きものあらしめたるを懷はゝ、壯にして逝くの必ずしも往々哀悼のみに値せんや、氏亦以て瞑すべき也、されど、氏の如き有爲の實務家を喪へるは、亦以て我業界千秋の恨事たらずんばあらず。此處は氏の肖照を具し、附するに其の小傳を以てし、謹んで哀悼の誠意を表す。

小傳

故田中茂助氏の二男にして明治元年十月二十三日和歌山縣西牟婁郡周參見村に產る幼にして廢家せる松村家を再興し土木建築業を以て立志の基礎となすべく飄然故郷を去りて東都に出で某請負人の下に在りて實地研究を重ね其後大阪に於ける陸軍建築請負人畠山平吉氏の店員となり日淸戰役後獨立し福知山町に本店を設け爾來諸官公署諸會社等の工事を請負今日に至る其間工事の成績優良の爲め感狀を受けたること數回公職としては福知山町學務委員、大阪土木建築組合組長、日本土木建築請負業者聯合會大阪支部長實業としては株式會社松村組取締役社長　株式會社高木銀行取締役、合資會社舞鶴銀行出資社員、山陰信託株式會社相談役、両丹自動車株式會社相談役、京都インキ抹式會社取締役

長野	五〇	五〇、〇〇〇	
山形	三五一	二〇六、〇〇〇	
福井	七四	一二七、五〇〇	
石川	二〇〇	一一〇、一〇〇	
富山	三三〇	三五〇、〇〇〇	
鳥取	五五	一〇一、五〇〇	
島根	五七	一〇〇、〇〇〇	
廣島	七三四	四八四、〇〇〇	
愛媛	五四四	三四〇、〇〇〇	
高知	八〇	一四〇、〇〇〇	
福岡	一三六	一六七、〇〇〇	
鹿兒島	一八五	二二四、〇〇〇	

市場經營

一、計畫團體數　一〇

二、市場設置箇所數　二十箇所

三、申請總額　九十八萬七百八十圓

四、資金供給見込額　九十四萬九百三十圓

借入團體	計畫數	供給額
京都市	一	五〇〇、〇〇〇
橫濱市	一	二〇〇、〇〇〇
盛岡市	一	一二、〇〇〇
福井市	四	四六、〇〇〇
松江市	二	一〇、〇〇〇
廣島市	三	一〇〇、〇〇〇
久留米市	一	七、五〇〇
佐賀市	二	三〇、〇〇〇
佐賀縣有田町	三	二〇、〇〇〇
熊本市	二	一五、〇〇〇

各種社會事業

借入團體	事業	供給額
東京府住宅協會	公設浴場	五〇〇、〇〇〇
東京府慈善協會	公設浴場	三〇、〇〇〇
同上	公設質屋	七〇、〇〇〇
京都市	簡易食堂	三〇、〇〇〇
橫濱市	公設浴場	一一、五〇〇
大津市	公設浴場及質屋	三五、〇〇〇
總計		六七六、五〇〇

遞信省別途供給

借入團體	事業	供給額
京都市	託兒所	五七、五〇〇
橫濱市	質屋	九、三六九
同上	託兒所及兒童相談所	一四、九四〇
宮城縣	公設質店	二〇、〇〇〇
總計		一〇一、八一九

都市事業

◉木煉瓦市營計畫

大阪市は近き將來に於て都市計畫法が實施されるに伴れ當然道路の改良を見る譯なるが市に道路の舖裝に就て目下大いに計畫を樹てあり其豫算概算に依れば舊道路の舖裝費は約千五百萬圓新設道路に對し約五百萬圓を投する筈にして道路の舖裝種類にはタークレー、アスファルト、混凝土木煉瓦道の何れを採用するかに就き研究中の處其經費に於てタークレーは坪當僅に十數圓にて出來其耐久力は到底混凝土、アスファルト、木煉瓦道と比較にならざる故に成べく一番堅牢な木煉瓦を以て舖裝する方針に決せり何分此木道は坪當り約五十圓も目下要する事とて容易に決せざりしが築港の住宅經營にて製材最中なるを以て之れを機會に木煉瓦を製造を市營にて試むる事となれり木煉瓦の製造するには之に要するクレオソートの價値如何が研究の問題なるが遠からず實現されることならん。

◉下水道幹線敷設

大阪市は都市計畫の事業として船場島之内等の高層建築區域に限り屎尿を下水に放流し得るやう下水道改良を行ふべきが來年度都市計畫豫算には其調査費を計上すべき筈なり而して汚水處分の方法に就ては目下渡歐中なる野田衛生試驗所長研究の任に當り其の歸朝を待つて決定すべきも排水方向に就ては豫め定むる必要あり夫は該下水道の幹線を運路擴張と同時に敷設するものなれば目下排水系統につき調査中なり該下水道が完成するには相當期間を要することゆゑ其の間建築せらるべき洋式大建築には各戸に於て淨水設備をなさしむる方針なり。



編輯

◉本號も更に一段と革新した積で厶います現代の讀み物は勿論形式本位でもいかれば實質本位でもいけません、多少雜誌其もの、使命を宣傳するには、何よりも先つ「一覽る」といふ事に興趣を惹かれなければなりません斯の意味に於て形式に何時も生鮮な審美な氣分を滿へ、是と同時に實質を善くするといふ事でなくてはなりません編輯者は斯の點に相當アタマを惱まして居ります。どうぞ會員各位も御寄稿又は御注意ゞ與へらる抔にて御援助ゞ願ひます。

◉本號中何れも有益なもので厶いますが、殊に瀧谷博士の「火災保險と都市計畫」は本誌の爲に特に御執筆被下いましたので篤く謝意を表する處で厶います。

◉口繪の「組立家屋」も相當ゝ苦心で手に入れましたので厶います。御參考とならば

〔會報〕

と存じます。

會合

◉理事會

日時　九月七日正午——午後二時半

會場　大阪倶樂部

出席者　葛野、舟橋、宗各理事、江村

記事　(一)新入會申出に對して詮衡を爲し、別項の通り入會を承認せり。(二)建築請負業者は終身賛助員として歡迎するも、單に會員としての入會は考慮する事(三)原稿料の增額、(四)雜誌の表紙圖案を大正十年一月號より改更する事の編輯會議の決議を承認し、曾て懸賞當選せる圖案中より選拂する事等を議決せり。

◉例會

日時　九月十七日午後六時半——九時四十分

會場　日本建築協會事務所

出席者　片岡安、熊澤榮太郎、柳下實、波江悌夫、設樂貞雄、久保田繁亮、藪中一眞、呼子正、小寺彌一、坪井誠一、永野房吉、山脇友三郎、能村知二、高柳宗一、島田艮馨、藤井厚二、谷民藏、宗兵藏、瀨戸文吾、竹中景一、土居原龜之助、福家佐和吉、前田武正、兩本新次郎、原科準平、池村元之助、江村郊郎、宗主記(以上會員)

記事　別項故松村雄吉氏一千圓寄附の件(二)會則中終身賛助員の一時金增額の件に就て(前號所載)通信決議の結果を報告し以上の報告了りて、宗主記の紹介に依り藤井厚二君の頗る有益なる歐米視察談あり、了りて波江悌夫君より左の建築案を提出せられしが、會則に依り理事者の當然爲すべき權限に屬するを以て理事會に於て具体案を作成する事に決せり

建議案

一、教育部設置の件
　イ、講習會開催の事
　ロ、講習錄發行の事
　ハ、展覽會開催の事
二、社會部設置の件
　イ、建築物視察見學の事
　ロ、建築材料製作工場視察の事
　ハ、近郊名士或は名建物遠足會の事

◉臨時理事會

前項所載の建議案に對する實行案を協定する爲、臨時理事會を催せり

日時　九月二十一日正午―午後二時
會場　大阪倶樂部
出席者　片岡、宗、葛野各理事、日高、野村各舊理事、波江、江村
記事　(一)別項新入會申出に對して詮衡を爲す事(二)事務用度に關する事二件(三)別項講習會に就ては委員を設け凡ての立案を依囑する事、而して葛野、波江兩君其委員に指名され立案さるゝことゝなれり。(四)別項展覽會は來年春季に催すことゝし、理事より其委員を指名又は囑託する事(四)別項建築物見學、材料工場視察の件は十月中に催す事として理事に於て具体案を作る事等を議決せり。

寄贈

故終身賛助員松村雄吉氏嗣子勇氏より雄吉氏の遺志に依り金壹千圓を無條件にて當協會へ寄贈されたり。

會員消息

◉新入會員

別項九月九日及廿一日の理事會に於て左の通り新入會を承認し夫々通知を發せり

終身賛助員　福永金吾君　上瀧辨吉君
會員　西尾寛治君　伊藤憲一郎君
普通賛助員　川上邦基君、小島榮二君、矢島猛夫君、伴野貢三君、中村宗三君、昆眞三君、福井義長君　守谷茂君、豊島有榮君、岡村瀧造君　古屋信夫君、大坊榮助君

◉住所變更

會員　移轉先

内藤　栞君　京都市下京區本町十九丁目東入大林組福稻出張所
長澤　榮作君　兵庫縣網干町興の濱二六六
瀨戸強三郎君　大阪府東成郡平野鄉町西脇二十五番地一ノ七號
伊藤幸太郎君　大阪市北區相生町三五
伊藤　正文君　大阪府東成郡鶴橋町字、岡、九番地
矢島　一雄君　東京市赤坂區青山南町六丁目一一六番地
河合　清　東京小石川區小日向臺町（普通賛助員）　移轉先
衛藤官　大分市西町
松浦基二　岡山市東中山下二十二銀行内
山崎孝麿君　大阪府豊能郡岡町伊丹通二丁目

◉轉職

植村佐則君（普賛）　大阪市東區今橋二丁目日本電力株式會社へ

寄贈圖書

建築雜誌第三四輯第四〇四號（建築學會）
建築世界第十四卷第九號（建築世界社）
住宅　第五卷第九號　（其社）
材木新聞（毎號）
建築評論　第二卷第八號（建築評論社）
會報　第三、四號（日本工業倶樂部）
建築と新材料　創刊號（其社）
新住宅　九月號（洪洋社）
帝國鐵道協會々報第二十一卷第七號（帝國鐵道協會）
土木建築　第三卷第九號（其社）
商工時報　第三十號（大阪市役所）
通俗衛生　第二六四號（大阪府衛生會）

役員及職員

理事長　片岡安
理事　宗兵藏（主記）
　　池田寅（編輯）
　　葛野壯一郎（編輯）
　　吉井長七（編輯）
　　舟橋喜一（主計）
編輯補　波江悌夫
　　設樂貞雄
　　佐藤四郎
書記　江村郊邨
　　越山達
　　渡島繁

會員	一八四	會員（地方）	五五
名譽賛助員	七一	終身賛助員	四三
特別賛助員	一一	普通賛助員	二七四
合計	六三八		

本誌及廣告料定價表

本誌			
冊數	定價	郵稅	
一冊	金五拾錢	貳錢	
十二冊	六圓	貳拾四錢	

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
特別頁ハ料金一定シアリ御照會アリ度シ		

大正九年九月三十日印刷（毎月壹回）
大正九年十月一日發行（一日發行）

大阪市大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一

大阪市東區內淡路町地二丁目卅一番
印刷兼印刷人　江村恒一

大阪市西區京町堀上通一丁目不動貯金銀行ビルデインク內
印刷所　大阪活版所

大阪市東區今橋一丁目一番地
事務所　日本建築協會
電話土佐堀一九七三番
振替口座大阪三九、九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
發行所　片岡建築事務所內

特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

ベネチヤ市建築條例

（下）



ベヂチヤ市建築條例

〔續〕

第六章　建物ノ外部ニ關スル規定

建築ニ於テハ公有地ノ境界線ヲ超過スベカラズ

第五十九條　建物ノ新築若クハ改築ニ於テハ壁ノ厚サ及ビ包裝ヲ以テスルモ或ハ突出部ヲ以テスルモ公有地ノ境界線ヲ超過スルヿヲ得ズ但次ノ各條ノ規定ヲ除ク

臺座及裝飾的突出

第六十條　道路ノ平面上三米突普通滿潮ノ平面上四米突二十ノ高サニ至ル迄ハ開口ノ周邊、臺座及其他ノ裝飾物ハ總テ壁ノ外面ヲ超過スルヿ五米突以內ノ幅員ヲ有スル道路ニ在テハ五珊五米突以上ノ道路ニ在テハ八珊ナルヿヲ得ズ

第六十一條　道路ノ水平面ヲ去ルヿ三米突以上普通滿潮ノ表面ヲ去ルヿ四米突二十珊以上ノ所ニ於テハ張出シ椽側及平場ハ勿論市長裝飾委員會及市ノ土木課ノ意見ヲ訊キ建物ノ建築上必要ト認メ且其面スル道路若クハ川流ノ幅員ニ相當スル突出ノ建設ヲ許可スベシ

同上ノ高サハ道路ノ平面若クハ普通滿潮ノ表面ヨリ平場ノ扁板若クハ其持送リ及軒蛇腹ノ最下剞形ノ最下方ノ線ニ至ル迄ヲ垂直ニ測量シテ之ヲ定ム

張出シ椽側、平場　欄杆

第六十二條　公道若クハ公衆ノ通行ニ充テラレタル道路上ニ突出スル張出シ椽側若クハ平場及其持送リハ石ニテ造ラレザルベカラズ

欄杆ハ石、金屬若クハセメントニテ造ラルヽヿヲ得其他ノ物質ハ總テ使用スルヿヲ得ズ

雨水用ノ承霤

第六十三條　公ノ土地若クハ公衆ノ通行ニ供セラルヽ土地ニ面スル建物ノ正面ニ在ル裝飾用ノ軒蛇腹ニハ承霤ヲ備付ケ此內ニ屋根ヨリ流下スル雨水ヲ集メ何レノ場合ニ於テモ道路上ニ流下スルコトヲ得ザラシムベシ

突出スル廁ノ建設

第六十四條　公ノ土地若クハ公衆ノ通行ニ充テラレタル土地ヨリ目擊スルヿヲ得ベキ壁ヨリ突出シテ廁ヲ建設スルコトヲ禁ズ

外部ニ露出スル管

用途ノ如何ヲ論ゼズ管ハ壁ヲ以テ作リタルト或ハ鐵ヲ以テ作リタルトヲ問ハズ次

條ニ示セル例外ヲ除キ公ノ土地若クハ公衆ノ通行ニ充テラレタル土地ニ面スル家屋ノ正面ノ外部ニ之ヲ据付クルコトヲ得ズ

第六十五條 管或ハ承霤ヲ全ク壁ノ中ニ挿入セシムルコト能ハザルトキハ市長ハ陸路ニ在テハ道路ノ平面上二米突五十、河流或ハ運河ニ在テハ普通滿潮ノ表面上三米突七十ノ所ヨリ管筒或ハ承霤ノ外部ノ据付ヲ許可スルコトヲ得但紀念物ク ル性質ヲ帶ビ若クハ建築術上特質ヲ帶ブル建物ニ在テハ例外トス

但市長ハ異狀ノ場合及市ノ土木課別ニ施設ノ道ナシト認メタルトキハ冬期中暖爐ノ煙ヲ吐出セシムルガ爲メニ鐵ヲ以テ作リタル管ヲ外部ニ据付クルコトヲ許可スルヲ得

雨水ノ滴下ヲ防グベキ圍壁ノ蓋

第六十六條 公ノ土地若クハ公衆ノ通行ニ充テラレタル土地ニ面スル圍壁ノ蓋ハ同上ノ土地ノ表面上ニ雨水ノ滴下ヲ妨グルヤウニ建設セラルヽコトヲ要ス

建物ノ漆壁及色彩ノ保存

第六十七條 公衆ノ眼ニ觸ルヽ建物ノ正面ハ漆壁色彩ニ關スルモノニ付テモ又**頁好**ニ維持保存セラレザルベカラズ但常時技術上ノ原則ニ從フベキヿ勿論ナリトス所有者ハ又家屋ノ正面ニ生長シタル雜草ノ剿滅ヲ努メザルベカラズ

油製顏料

第六十八條 建物ノ石造ノ部分ハ家屋ノ正面ヲ形成スルト單ニ裝飾ノ爲メナルトヲ問ハズ何等ノ油製顏料ヲ以テスルモ之ニ色彩ヲ施スコトヲ禁ズ

建築術上特質アル建物正面ノ外觀ノ一樣

第六十九條 一大建設物ノ數多ノ正面ニシテ其綜合上建築術上ニ於ケル特質ヲ有スル建物ヲ形成シ且公衆ノ眼ニ觸ルヽモノハ假令其特主異ナルトモ一樣ニ窓扉ヲ彩色セザルベカラズ

窓　扉

第七十條 內方ヨリ外方ヘ開クベキ窓扉ハ通常書籍形ニ作ルベシ

總テノ大厦ノ最下床及最上床ニ於テハ其建物建築術上ノ必要アルモノニ在テハ窓扉ハ窓ノ背部ニ向ケテ開カルベキコトヲ要ス

入口及店舖ノ開口

第七十一條 道路ニ面スル入口及店舖ノ開口ハ不愼ナラザルヤウ特別ナル注意ヲ以テ造ラレタル屈伸自在ノ戸扉ヲ有セザルトキハ外方ヨリ開放シ若クハ動カシ能ハザル戸扉ヲ据付ケザルベカラズ劇場若クハ之ニ類スル建物ノ場合ニ在リテハ例外トシ公衆ノ安全ヲ旨トセザルベカラズ

取リ外シ得ベキ戸扉ヲ以テ店舖ヲ閉ヅルノ仕組ハ禁止トス

正面及基址ノ包裝

第七十二條 市長裝飾委員會ノ贊成ニ基キ許可シタル例外ノ場合ヲ除キ一般ニカナールクランデ若クハ橋要ナル地點ニ面シ建築術上特別ナル價値ヲ有スル建物ノ正面若クハ基底ノ包裝ニカルラーラ產ノ灰色大理石ヲ使用スルコトヲ禁ズ

看板類

第七十三條 看板類、商品展列玻璃箱等ハ其据付、形狀、大サ及色彩ニ關シテハ之ヲ取付クベキ建物ノ外部ノ狀態ニ適應セザルベカラズ

建物ノ正面ニ存在スル店舖ノ看板ハ配合好ク据付ケラルヽコトヲ要ス

看板ノ形狀ト其据付

第七十四條　看板ニハ通常頂飾或ハ側面ノ飾ヲ附セズシテ其形狀矩形ナルコヲ要ス

看板類ハ勾配ヲ附セズシテ壁ノ鏡ニ密接シテ据置カレザルベカラズ

看板類ハ其据付ケラルヽ建物ノ返廻線或ハ建築上ノ構材ヲ隱蔽シ又ハ之ヲ遮ギルコヲ得ズ且又入口及窓ノ周邊ノ飾ノ上方町名公ノ點燈ノ番號若クハ戸口番號ノ表札ノ上方ニ之ヲ据付クルコヲ得ズ但此等ノ町名及番號ヲ看板上ニ登載シタルトキハ此限リニアラズ

重ナル廣場及道路ニ於ケル建物ノ角ニ看板ヲ揭グルコヲ禁ズ

カナールグランデニ沿フテ存在スル看板

第七十五條　カナールグランデニ沿フテ存在スル建物及一般ニ建築衛上重要ナル性質ヲ帶ブル總般ノ建物ニ於テハ層ヲ區分シ若クハ下層ヲ上層ト區劃スル天井ノ線以上ノ所ニ看板類ヲ据付クルコヲ禁ズ

ポンテリアルト及ブロクラチ

第七十六條　ポンテリアルト及ブロクラチ

ーアノ沿フ天幕

ーアノ建物ノ拱門ニ沿フ所ニ在リテハ店舖ノ天幕ハ色彩形狀及大サニ於テハ市長ノ規定スル所ノ雛形ニ從フベシ

建物及軒下歩道ノ下部ノ正面上ニ於テ市廳ニ留保セラルヽ設備

第七十七條　特別法令ノ規定ヲ除キ市ノ當局者ハ公益ニ基キ公ノ土地ニ面スル建物ノ前面及廊下ノ下部ニ左項ノ設備ヲ爲スノ權ヲ留保ス

一、瓦斯管及公ノ點燈ノ支柱ヲ据付クルコヲ

二、町名及戸口番號ノ表札ヲ貼付クルコヲ

三、市ノ公衙ノ用ニ供スル電信電話線ノ支柱ヲ設クルコヲ

四、公共便所ヲ設クルコヲ

六、公ノ揭示板ヲ設置スルコヲ

七、電氣裝置ノ時計ヲ設置スルコヲ

八、紀念碑ヲ設クルコヲ

衛生、安寧、土木ノ監督及公共ノ便利ニ基キテ將來設定セラルベキ其他ノ公共ノ設備ニ關シテモ市ハ前同斷ノ權利ヲ留保ス

前項ノ設備ニ要スル給費ハ一切市ノ負擔タルベシ

美術若クハ歷史上ノ遺物

第七十八條　建物ノ修繕若クハ取崩シニ於テ美術若クハ歷史上ノ價値ヲ有スル遺物ヲ發見シタルトキハ遲滯ナク書面ヲ以テ市長ニ届出ツベシ

市長ハ紀念物保存ニ關スル現行ノ規程ニ基キテ之ガ處分ヲ命ス

美術歷史若クハ考古學上特別ナル性質ヲ有スル建物ノ表

第七十九條　市内ニ存在シ美術歷史若クハ考古學上特別ナル性質ヲ帶ブル建物ニシテ絕對保存ノ必要アルモノハ特ニ適當ナル表ニ登載シ該表ニ公ケニスルモノトス

該表ハ裝飾委員會及文部省ト協議ノ上市ノ當局者本條例ノ認可後六ケ月以内ニ之ヲ編製スベシ

表中ニ包含セラルヽ建物ニ對スル工事ノ禁止

第八十條　前條所定ノ表中ニ登載セラレタル建物ニ在テハ何等ノ方法ヲ以テスルモ其構造ヲ改メ各部ノ位置ヲ變更スルヲ目的トスル工事ヲ行フコヲ嚴禁ス

同上ノ建物ニシテ美術歷史若クハ考古學上特ニ注目スベキ性質若シ其正面ノ全部庭及其附近ニ存在スルトキハ是等ノ部分

ニモ同上ノ規定ヲ適用ス

本則適用ノ制限

第八十一條　異常ノ場合若クハ建物ノ保存上必要ナルトキニ限リ第七十九條所定ノ表中ニ包含セラルヽ建物ニ於テ或工事ノ執行ヲ許可スルコトヲ得但裝飾委員會ノ贊成ヲ經文部省ノ同意ヲ得タル場合ニ限ル該認可ヲ得ンニハ所有者ハ箇々ノ場合ニ於テ工事ノ必要ヲ証明スル明細ナル申請書ニ精確ナル工事明細書及綿密ナル繪圖面ヲ添ヘテ差出スベシ

第八十二條　前諸條ニ於テ指定セル特別ノ場合ヲ除キ市長ハ裝飾委員會ノ意見ヲ訊キ本章ニ定ムル所ノ規定ノ例外ヲ許容スルコトヲ得

第七章　監督及罰則

第八十三條　（家屋所有主及工事施行者ノ責任）

第八十四條　（工事ノ監督ニ當ル市吏ノ權限）

第八十五條　（犯則）

第八十六條　（仲裁手續）

第八十七條　（犯則ノ裁判民事原告人ノ組織）

第八十八條　（條理ニ合セズシテ配置セラレ若クハ不体裁ナリト認メタル一切ノ事物ヲ除去セシムルノ市長ノ權限）

第八章　附則

第八十九條　第九十條、第九十一條、第九十二條、第九十三條（一時ノ規定）

（イ）號附錄

ベヂチヤ衛生規則摘要

第五條　新築ノ家屋若クハ壁ヲ改造シ或ハ之ヲ新築スル家屋ニ在テハ土臺ノ壁ハ道路ノ水平面ニ達スル点ニ於テ地濕青ノ地層若クハ土地ノ濕氣ガ建物内ニ浸透スルヲ防グニ適スト認メラレタル物質ニテ作リタル地層ニヨリ交叉セラレザルベカラズ

第六條　最下層若シ住宅用ニ供セラルヽトキハ該下層ハ道路ノ水平面上四十珊普通滿潮ノ表面上一米突四十珊以上高ク作ルベシ而シテ其側壁ハ二米突八十珊ノ高サ迄木板或ハ防濕セメントヲ以テ包被セラレザルベカラズ

第七條　家屋ノ各層ニハ洗滌盤流走及便所ヲ備付クベシ

便所ニ在テハ少クモ腰架ハ大理石ニテ作リ蓋ハ大理石若クハ金屬ヲ以テ作ルベシ洗滌盤及便所ノ導管ハ抵抗性ヲ有シ且水ヲ通サヾル物質ニテ作リ水ノ使用可能ニシテ且充分ナルトキハ適當ナルサイホンヲ備付クベシサイホンヲ欠ク所ニ在テハ市ノ衛生課ノ意外ニ依リ相當ト認メタル通風ノ裝置ヲ施スベシ

二十八度以上ノ角度ヲ爲シテ主タル流下管ニ接合セシメテ副管ヲ設クルコトヲ得ズ但便所ガ水ヲ通シテ流下セラルヽモノニ在リテハ例外トス

便所ハ隔離セル部分ニ設ケ洗滌盤ヨリ全ク離隔セラルヽコトヲ要ス

單一ノ層内ニ多數ノ家族居住シ共同ノ入口ヲ有スル家屋ニ在テハ便所ハ便宜ニ配置セラレ其數ハ衛生課ノ決定ニ基キ住居スル家族ノ員數ニ相當セザルベカラズ

工場、學校、會館、料理店及其他公衆ノ出入スル建設物ハ種類ノ如何ヲ問ハズ其内ニ居住シ若クハ會合スル人員數ニ比例スル便所及洗滌盤ヲ備付クベシ其割合ハ第十一條ノ規定ニ依リ衛生課ノ意見ニ基

キテ之ヲ定ムベシ

第八條 新築ノ家屋ハ別ニ訓令ニ定ムル所ノ規定ニ從ヒ塵芥其他ノ廢物ノ取リ捨ニ有効ナル設備ヲ爲スベシ

別ニ手段ノ無キ場合ノ外掃キ場ナキ溝渠ヲ作クルコヲ禁ズ別ニ手段ノ無キヲ以テ掃キ場ナキ溝渠ヲ設クルニ付テハ市ノ土木課ノ証明ヲ受ケザルベカラズ之ガ証明ニ要スル費用ハ申請者ノ負担タルベシ

溝渠ノ建設ニ關シテハ本則ニ附隨スル訓示中ノ規定ヲ遵奉スベシ

但同訓令中ニ規定ナキ事項ニ關シテハ衛生課ノ意見ヲ訊キ參事會ノ決議ニ附スベシ

第九條 河中ニ排泄スル便所流走及溝渠ハ普通滿潮ノ表面ヲ下ルコト一米突以上ノ所ニ排泄口ノ最上部ノ間ヲ設置スベシ

第十一條 新築ノ家屋ニ於テハ室ノ面積及容積ハ一千八百八十九年十一月九日省令第八十四條ノ規定ニ依ルベシ

但室ノ高サハ二米突八十珊以上、窓ヨリ日光ノ透射スル表面ハ室ノ面積ノ十分ノ一以上タルベキ窓ノ數一箇ナルトキハ日光ノ透射スル表面ハ二米突平方以上タルコトヲ旨トスベシ

第十八條 旅館ハ各部室ノ容積ニ比例セザル人員ヲ收容スルコヲ得ズ

第十九條 敎會等ノ建物ニハ相當ナル通風ノ裝置ヲ設クベシ

第二十條 建設セラルヽ井戸ノ粘土ハ厠溝渠及其導管ヲ去ルコト少クモ三米突ノ所ニ之ヲ置クコヲ要ス

飲用水ヲ供給スルノ用ニ充テタル水池ハ公ノ道路ノ歩行シ得ベキ面及私有ノ庭ヨリ集リタル天水ノ其中ニ浸入スルヲ防グベキハ勿論如何ナル方法ヲ以テスルモ之ヲ不淨ナラシムルコヲ禁ズ

(ロ)號附錄　公有地使用料表

(ハ)號同錄　供託金

(ニ)ベネチヤ潟條例摘要

●第三集 第一〇号 掲載広告一覧（掲載順）

日本エレベーター製造
高田商会
浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
葛野建築事務所
渡辺建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所

加藤工業事務所
国枝工務所
舟橋建築事務所
池田勘蔵
大倉土木組大阪出張所
橋本料左衛門
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
山本鑑之進工務所
山中建築部
山本組
鴻池組
松村組
小西組
安藤組大阪出張所
清水組大阪支店

木村組
清水工務店
銭高組
山縣組
熊取谷熊次郎
須賀商会
中岡商店
共同大理石商会
矢橋商店
松本陶業
松尾和助本店
山本窯業商店
内外土木建築材料
新田ベニヤ製造所
日本商会
東京電気
東洋工業社

砂崎
村井工業所
野沢幸三郎商店
山本コンベス商会
大野正営業所
栄進社
日本石綿盤製造
有田製陶所
宇野沢組スティンド硝子製作所
東京建鉄大阪支店
川崎工場
北木島石材大阪出張所
萩原煖房工務所
高田商会銀座販売店
銀座建築用品店
共同建材製作所
浅野スレート大阪出張所
横河橋梁製作所
米国貿易会社

大阪金物商会
日本建築協会
南満鉱業
米山商店大阪支店
日本水道衛生工事
明正社
大阪窯業
